

平成21年度
名古屋市立大学大学院薬学研究科
自己点検・評価報告書

2009

目 次

- 1 平成21年度博士(薬学)学位取得者
- 2 平成21年度薬学修士学位取得者
- 3 平成21年度薬学部でなされた講演会、研究会、シンポジウム
- 4 研究業績目録(2009年1月から2009年12月)
- 5 科学研究費等補助金
- 6 学外との共同研究等
- 7 新聞報道等
- 8 進路および就職状況
- 9 薬学部在籍者名簿

1 平成21年度博士(薬学)学位取得者

薬博第 259 号 平成 22 年 3 月 25 日

矢木 真穂

ガングリオシドクラスターに結合したアミロイド β の NMR 構造解析

(主査) 服部 光治 教授

(副査) 加藤 晃一 教授 (副査) 宮田 直樹 教授 (副査) 道川 誠 教授

薬博第 260 号 平成 22 年 3 月 25 日

大野 雅恵

核内受容体と相互作用する因子の転写共役因子としての機能解析

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 今川 正良 教授 (副査) 小野寄 菊夫 教授 (副査) 星野 真一 教授

薬博第 261 号 平成 22 年 3 月 25 日

河路 淳子

脂肪細胞分化初期過程における TCL/TC10 β L と gelsolin の機能解析

(主査) 林 秀敏 教授

(副査) 今川 正良 教授 (副査) 藤井 聡 教授 (副査) 服部 光治 教授

薬博第 262 号 平成 22 年 3 月 25 日

荒川 友博

インターロイキン 1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析

(主査) 平嶋 尚英 教授

(副査) 小野寄 菊夫 教授 (副査) 服部 光治 教授

(副査) 長田 茂宏 准教授 (副査) 林 秀敏 教授

薬博第 263 号 平成 23 年 3 月 25 日

船橋 賢司

軟骨細胞モデル (OUMS-27) におけるイオンチャネルの機能解析

(主査) 小野寄 菊夫 教授

(副査) 今泉 祐治 教授 (副査) 平嶋 尚英 教授 (副査) 田辺 光男 准教授

薬博第 264 号 平成 22 年 3 月 25 日

河野 孝夫

脳形成を司る分泌蛋白質リーリンの下流シグナル活性化に関わる分子機構の解明

(主査) 今泉 祐治 教授

(副査) 服部 光治 教授 (副査) 加藤 晃一 教授 (副査) 長田 茂宏 准教授

薬博第 265 号 平成 22 年 3 月 25 日

林 大介

Mycobacterium bovis BCG 亜株間の免疫学的及び細菌学的性質の差異に関する研究

(主査) 藤井 聡 教授

(副査) 小野寄 菊夫 教授 (副査) 尾関 哲也 教授

(副査) 大矢 進 准教授 (副査) 瀧井 猛将 准教授

薬博第 266 号 平成 22 年 3 月 31 日

酒井 聡

細胞周期 G2/M 移行期における pseudokinase TRB3 の役割

(主査) 今川 正良 教授

(副査) 林 秀敏 教授 (副査) 星野 真一 教授

(副査) 水島 恒裕 准教授 (副査) 小野寄 菊夫 教授

薬博第 268 号 平成 22 年 3 月 31 日

河野 桂子

NMR を用いた生薬成分の定量分析

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 水上 元 教授 (副査) 梅澤 直樹 准教授 (副査) 池田 慎一 准教授

薬博第 269 号 平成 22 年 3 月 31 日

鈴木 裕可

黄連含有イソキノリンアルカロイドの血管平滑筋細胞選択的修飾作用

(主査) 今泉 祐治 教授

(副査) 水上 元 教授 (副査) 藤井 聡 教授 (副査) 井上 勝央 准教授

2 平成21年度薬学修士学位取得者

家田 直弥 (薬化学)

光応答性 ONOO⁻供与化合物の創製

上田 理恵 (薬化学)

低分子型 LSD1 選択的阻害薬の創製

太田 庸介 (薬化学)

Click Chemistry を用いた HDAC8 選択的阻害薬の創製

浜田 翔平 (薬化学)

Jumonji C ドメインを含むヒストン脱メチル化酵素に選択的な阻害薬の創製

松尾 和哉 (薬化学)

新規光制御型 HNO donor の開発とその光反応性

今村 優希 (精密有機反応学)

ペプチドフォルダマーを用いた生理活性分子群の創製：1. γ セクレターゼ阻害剤の開発 2. 新規ポリアミン誘導体の合成と評価

野々垣 定紀 (精密有機反応学)

新概念に基づく可視光駆動一方向回転分子の開発

則武 幸延 (精密有機反応学)

分子内反応補助基を導入した Mn-Salen 誘導体の合成と活性酸素消去能評価

松本 庸良 (精密有機反応学)

高機能化を目指したペプチド導入ポルフィリンの開発

—抗酸化活性の向上を指標として—

近藤 良祐 (薬品合成化学)

トリメチルシリルジアゾメタンを用いたベンゾフラン-3-カルボキシレート類の新規合成法

曾根 良介 (薬品合成化学)

トリメチルシリルジアゾメタンの MgBr 塩を用いたジアゾアルコール類の合成及びそれを中間体とした新規化合物の合成

加川 恭子 (生体超分子システム解析学)

分泌顆粒に局在する低分子量 G タンパク質 Rab27 と SNARE タンパク質の相互作用

永井 弓子 (生体超分子システム解析学)

リポソーム再構成系を用いた脱顆粒における Synaptotagmin II の機能解析

村田 麻実 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞における GPCR の発現とその分泌応答に対する役割

森田 陽介 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞からの炎症性メディエーター放出に対するバイオサーファクタントの影響

武本 映美(生命分子構造学)

立体構造を基盤とした免疫グロブリン G と Fc γ 受容体の相互作用における糖鎖機能の解明

西尾 美穂 (生命分子構造学)

血液凝固因子欠乏症の原因遺伝子産物間の協働的相互作用の構造基盤

良川 須美 (生命分子構造学)

NMR 法による分子シャペロン Hsp47 とコラーゲンの相互作用解析

大橋 健吾 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化に重要な TCL/TC10 β L が RhoA シグナルに与える影響の解析

種村 妃紗 (分子生物薬学)

ヌクレオホスミンと相互作用する因子の細胞がん化に与える影響

藤田 真由 (分子生物薬学)

核内受容体 TR α を介するプロモーター活性に相互作用因子が与える影響

前田 雄太 (分子生物薬学)

ヒストンシャペロン Asf1p と Rtg2p の相互作用の解析

吉見 千明 (分子生物薬学)

タンパク質メチル化酵素 CARM1 が腫瘍マーカーの発現制御および細胞増殖に与える影響

遠山 恵則 (腫瘍制御学)

Epstein-Barr-Virus がコードするアルカリヌクレアーゼの機能解析

猪飼 真由美 (生薬学)

修治による附子含有成分の変動

上林 里絵 (生薬学)

第一部：甘草の偽アルドステロン症発症メカニズムに関する研究 ～グリチルリチンおよびその代謝物の関与～ 第二部：主治医依頼型 NST 活動における NST 介入患者の栄養状態の変化

大脇 美紀 (生薬学)

クチナシ培養細胞のクロセチン配糖化酵素の cDNA クローニングと機能解析

金丸 美咲 (生薬学)

ケルセチン配糖体の糖鎖構造と消化管吸収

中山 祥子 (生薬学)

カンゾウ培養細胞の glycyrrhizin 輸送体遺伝子の探索と機能解析

岡本 翔佑 (生体防御機能学)

喫煙と関節リウマチに関する研究

黒石 隆司 (生体防御機能学)

抗結核作用を示す糖化合物 OCT313 の動態および OCT313 誘導体に関する研究

安田 恵実 (生体防御機能学)

抗酸菌における一酸化窒素および過酸化水素に対する感受性の違い

尾上 耕一 (遺伝情報学)

癌抑制遺伝子産物 Tob による細胞周期制御機構の解析

岡本 淳志 (遺伝情報学)

酵母プリオン[Psi+]の表現型解析から見出した翻訳終結因子 eRF3 の新規機能

熊谷 直道 (遺伝情報学)

翻訳終結因子 GSPT/eRF3 の核-細胞質間シャトルの生理的意義の解明

山岸 良多 (遺伝情報学)

癌抑制遺伝子 BTG の生理機能の解析

鈴木 良明 (細胞分子薬効解析学)

血管平滑筋細胞におけるイオンチャネル複合体の可視化と機能解析

仲村 恵梨奈 (細胞分子薬効解析学)

接触過敏症モデル耳介リンパ節におけるカルシウム活性化カリウムチャネル活性制御機構

藤井 将人 (細胞分子薬効解析学)

ラット脳扁桃体におけるイオンチャネル発現性差と生理機能解析

村松 真 (細胞分子薬効解析学)

イオンチャネル活性による松果体細胞内カルシウムシグナル制御機構の解明

高柳 麻衣 (病態生化学)

脳形成に必須な分泌タンパク質リーリンの C 末端領域結合分子探索

阪野 英幸 (病態生化学)

リーリン遺伝子改変マウスを用いた、大脳層構造形成及び維持機構の解析

石井 めぐみ (薬物動態制御学)

ヒト aquaporin 10 の輸送機構の双機能的特性

原田 哲彦 (薬物動態制御学)

PCPT の機能解析：免疫関連物質輸送への関与

藤村 美咲 (薬物動態制御学)

第一部 riboflavin の腸管吸収に関わるトランスポーターとしての RFT2 の特性 第二部 名古屋
市立大学病院における研修報告～薬剤師による持参薬管理の現状と他職種からの評価：入院中薬剤の
患者による自己管理と調剤方式に関する考察～

前田 純彌 (薬物動態制御学)

新規核酸塩基輸送担体 ENBT1 の機能解析

村田 友昭 (薬物動態制御学)

ラット小腸における rSNBT1 介在性 uracil 輸送の解析

吉田 行宏 (薬物動態制御学)

ENBT1 による pH 依存的 urate 輸送の解析

浅井 萌子 (病態解析学)

Sphingosine-1-phosphate および低酸素環境下での HIF-1 α を介した PAI-1 発現調節機構の解析

今井 啓太 (病態解析学)

トリメチルスフィンゴシンがスフィンゴ脂質代謝に与える影響の検討

中村 友美 (病態解析学)

TGF- β による HepG2 細胞における PAI-1 発現制御：転写因子と酸化ストレスの役割

坂井 勇斗 (医薬品代謝解析学)

TRB3 トランスジェニックマウスの作製と機能解析

新開 慈子 (医薬品代謝解析学)

第 1 部 CYP3A4 の安定性に関する研究 第 2 部 服薬アドヒアランス向上のために薬剤師が寄与できること-内科外来を受診した高血圧患者に対する聞き取り調査を検討して-

中平 桂子 (医薬品代謝解析学)

UGT1A1 の TGF- β による発現制御に関する研究

西仲 駿 (医薬品代謝解析学)

TRB3 による T 細胞の機能制御に関する研究

阿部 聡美 (中枢神経機能薬理学)

上位中枢 NOS 阻害による鎮痛効果の作用機序の検討

杉山 慎一 (中枢神経機能薬理学)

過酸化水素によるラット背側線条体興奮性シナプス伝達の調節についての電気生理学的研究

永野 裕子 (中枢神経機能薬理学)

リン酸オセルタミビルの中枢神経系に及ぼす影響の検討

日比野 志保 (中枢神経機能薬理学)

マウス海馬 in vitro てんかんモデルにおけるグリシンやグリシントランスポーター阻害剤の保護作用の検討

松並 範晃 (中枢神経機能薬理学)

シグマ受容体を介するラット脊髄単シナプス反射電位抑制作用に関する検討

宮崎 鉄也 (中枢神経機能薬理学)

脊髄損傷モデルマウスにおける statin 系薬物の作用の検討

大参 寛典 (病院薬剤学)

HPLC / MS / MS による有機酸代謝異常症のアシルカルニチン一斉分析法の開発と定量
服部 真由子 (病院薬剤学)

高血圧に伴う勃起不全の原因解明と降圧剤の影響

堀家 裕史 (加齢病態制御学)

ABCA1 を増加させる天然化合物の探索

—Honokiol は RXRb を介して ABCA1 を増加させる—

山口 高正 (加齢病態制御学)

ABCA1 を標的とした新規アルツハイマー病治療薬の候補化合物探索

3 平成21年度薬学部でなされた 講演会、研究会、シンポジウム

平成 21 年度三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

講義内容

日時	内容	講師
5月14日 (木) 19:00~21:00	「ストレス」と生活習慣病	名古屋市立大学医薬品代謝解析学分野教授 林 秀敏
5月23日 (土) 13:00~17:00	ジェネリック医薬品の現状と課題 ジェネリック医薬品の評価と選択	岐阜薬科大学実践社会薬学研究室教授 杉山 正 ファルマネットぎふ代表取締役 朝倉 恵美子
6月20日 (土) 13:00~17:00	薬学的視点から見た健康食品の有効性と医薬品との相互作用 快適な医療を提供するための創剤	静岡県立大学薬物動態分野教授 山田 静雄 静岡県立大学実践薬学分野教授 並木 徳之
7月4日 (土) 13:00~17:00	脳神経ネットワークの形成と再生 医薬品の一般名 (INN): ステムを知れば薬がわかる	名古屋市立大学病態生化学分野准教授 服部 光治 名古屋市立大学薬化学分野教授 宮田 直樹
8月20日 (木) 19:00~21:00	中枢神経の発生プロセスのひずみが及ぼす精神疾患と 発生学から学ぶ中枢組織損傷修復への試み	岐阜薬科大学分子生物学研究室講師 福光 秀文
8月29日 (土) 13:00~17:00	RNA研究と疾患治療への応用 細胞がん化の制御機構～新たな分子標的の探索～	名古屋市立大学遺伝情報学分野教授 星野 真一 名古屋市立大学分子生物薬学分野准教授 長田 茂宏
9月17日 (木) 19:00~21:00	MRSA感染症の薬物治療	静岡県立大学臨床薬剤分野教授 賀川 義之
10月15日 (木) 19:00~21:00	イオンチャンネル作用薬の基礎と臨床応用	名古屋市立大学細胞分子薬物解析学分野教授 今泉 祐治
11月19日 (木) 19:00~21:00	網膜疾患とその治療戦略	岐阜薬科大学薬効解析学研究室准教授 嶋澤 雅光
1月21日 (木) 19:00~21:00	抗体医薬とがん化学療法(基礎と臨床)	静岡県立大学臨床薬効解析分野教授 伊藤 邦彦
1月30日 (土) 13:00~17:00	環境の変化とアレルギーの発症増加 環境化学物質と内分泌攪乱	岐阜薬科大学薬理学研究室准教授 田中 宏幸 岐阜薬科大学衛生学研究室准教授 中西 剛
2月20日 (土) 13:00~17:00	EBMと治験-薬局薬剤師が知っておきたい基礎知識- 心不全の病態と治療	静岡県立大学医薬品情報解析学分野教授 山田 浩 静岡県立大学分子病態解析学分野教授 森本 達也
3月20日 (土) 13:00~17:00	2010年医療の質と安全を考える 医療安全に対する製薬メーカーの取り組み-そのポリシーと実践- 薬剤師に求められる医療の質・安全とは? -当院における取り組みとその戦略-	エーザイ株式会社医薬販促政策部部长 中西 憲幸 亀田総合病院薬剤管理部長 佐々木 忠徳

実習内容

薬剤師として身につけておきたいシリーズ: 実習2009

コース名	日時	定員	会場
調剤(基本・特殊)「快適な医療を提供するための創剤-グミ製剤の調剤-」 静岡県立大学実践薬学分野教授 並木 徳之ほか	9月5日 (土)	10	静岡県大
	11月14日 (土)	40	名市大
TDM「薬物血中濃度測定値の解析と投与設計支援」 岐阜薬科大学実践社会薬学研究室教授 杉山 正ほか	6月6日 (土)	20	岐阜薬大
	9月6日 (日)	40	名市大
高齢者支援に必要な知識と技術 「パート1知っておきたい患者生体情報: バイタルのとらえかた」 名古屋市立大学病態解析学分野教授 藤井 聡 名古屋市立大学リカレント教育センター特任助教 岡田 浩美ほか	5月9日 (土)	10	静岡県大
	6月7日 (日)	20	名市大
	6月21日 (日)	20	名市大
	2月7日 (日)	20	岐阜薬大
IT「薬剤師のためのパソコンを利用した情報収集演習」 名古屋市立大学臨床薬学教育研究センター教授 鈴木 匡、講師 前田 徹 名古屋市立大学リカレント教育センター特任助教 岡田 浩美	10月25日 (日)	40	富士通
高齢者支援に必要な知識と技術 「パート2 褥瘡薬物療法」 国立長寿医療センター薬剤部 古田 勝経 金城学院大学 野田 康弘ほか (7月12日と19日で一コース、9月13日と20日で一コース)	7月12日 (日)	40	名市大
	7月19日 (日)		
	9月13日 (日)	40	名市大
	9月20日 (日)		

■特別講演会,研究会,シンポジウム

開催日：平成21年1月21日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：豊島 聰 先生
所属：医薬品医療機器総合機構
演題：医薬品評価と薬学
世話分野：薬化学分野

開催日：平成21年1月27日
講演会名：特別講演会
講師名：佐藤 大作 先生
所属：厚生労働省医薬食品局安全対策課
演題：保険医療行政からみた創薬関連政策(知財、研究・開発、投資等)
世話分野：薬化学分野

開催日：平成21年2月6日
講演会名：薬化学分野オープンセミナー
講師名：臼井 伸也 先生
所属：東京大学大学院薬学系研究科
演題：DoC 反応に基づく multi-template 創薬展開
世話分野：薬化学分野

開催日：平成21年12月2日
講演会名：特別講演会
講師名：宗像 敬一 先生
所属：バクスター株式会社
演題：医薬品産業の将来展望 -ドラマチックな環境変化に直面して-
世話分野：薬化学分野

開催日：平成21年12月17日
講演会名：特別講演会
講師名：石崎 孝義 先生
所属：杏林製薬株式会社
演題：製薬企業から見た薬づくりと特許
世話分野：薬化学分野

開催日：平成21年7月17日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会(兼 大学院講義「精密有機反応学特論」)
講師名：橋本 秀樹 教授
所属：大阪市立大学大学院理学研究科
演題：太陽光から燃料へ：光合成による自然の行う太陽光エネルギー変換戦略
世話分野：精密有機反応学分野

開催日：平成21年7月22日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会(兼 大学院講義「精密有機反応学特論」)
講師名：佐々木 茂貴 教授

所 属：九州大学 薬学研究院
演 題：遺伝子に対する精密有機化学反応：開発と展開
世 話 人：精密有機反応学分野

開 催 日：平成 21 年 10 月 29 日
講演会名：特別講演会（兼 大学院講義「センサーデバイス開発学」）
講 師 名：菊池 和也 講師
所 属：大阪大学大学院工学研究科
演 題：化学プローブが拓く分子イメージ
世 話 人：樋口 恒彦，梅澤 直樹

開 催 日：平成 21 年 12 月 3 日
講演会名：特別講演会（兼 大学院講義「センサーデバイス開発学」）
講 師 名：岡本 晃充 独立主幹研究員
所 属：理化学研究所
演 題：人工核酸：核酸の効率的センシングのための分子設計
世 話 人：樋口 恒彦，梅澤 直樹

開 催 日：平成 21 年 12 月 17 日
講演会名：特別講演会（兼 大学院講義「センサーデバイス開発学」）
講 師 名：三浦 佳子
所 属：北陸先端科学技術大学院大学
演 題：糖鎖を用いた生体材料の設計
世 話 人：樋口 恒彦，梅澤 直樹

開 催 日：平成 21 年 12 月 15 日
講演会名：第 112 回薬学談話会
講 師 名：波多野 紀行
所 属：愛知学院大学 薬学部 薬効解析学講座
演 題：心線維芽細胞における TRPV4 および Cl_{Ca} の機能発現
世 話 人：大矢 進，井上 勝央，梅澤 直樹，木村 和哲，鈴木 孝禎，寺坂 和祥，馬場 敦，細田 直，牧野 利明

開 催 日：平成 21 年 5 月 14 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：川原 茂敬 教授
所 属：名古屋工業大学工学研究科
演 題：神経システムにおける階層性の理解に向けて
世話分野：生体超分子システム解析学分野

開 催 日：平成 21 年 5 月 21 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：根本 知己 准教授
所 属：自然科学研究機構 生理学研究所
演 題：カルシウム依存性開口放出の可視化解析
世 話 人：生体超分子システム解析学分野

開催日：平成21年5月28日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：湊元 幹太 講師
所属：三重大学 大学院工学研究科
演題：細胞の機能再構成と模倣 ～人工細胞モデルをつくるには～
世話人：生体超分子システム解析学分野

開催日：平成21年7月2日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：小野 健治 助教
所属：名古屋大学 環境医学研究所
演題：組織選択的移行能を有する骨髄細胞とその役割に関する解析
世話人：生体超分子システム解析学分野

開催日：平成21年7月9日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：高岸芳子 助教
所属：名古屋大学 環境医学研究所
演題：神経特異的分子の細胞レベルから個体レベルまでの働き
～自然発症の神経疾患動物を用いた研究～
世話人：生体超分子システム解析学分野

開催日：平成21年1月22日
講演会名：IMS ナノフォーラム
“New Vistas of Molecular Sciences by Ultra-high Field NMR Spectroscopy”
場所：分子科学研究所
世話人：加藤 晃一，横山 利彦（分子研），西村 勝之（分子研）

開催日：平成21年3月23日
講演会名：生命分子構造学分野特別講演会
講師名：Wahab Khan 教授
所属：Department of Chemistry Bangladesh University of Engineering and
Technology
演題：“Synthesis of 5-membered heterocyclic compounds through palladium catalysed reactions.”
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成21年5月26日
講演会名：岡崎統合バイオサイエンスセンターオープンセミナー
講師名：B. P. Chatterjee 教授
所属：West Bengal University of Technology
演題：On The Differential Specificity Of Two Sialic Acid- Binding Lectins From Different
Parts of *Saraca indica* (Ashok)
世話分野：生命分子研究部門

開催日：平成21年10月5日
講演会名：部門公開セミナー
講師名：月向 邦彦 特任教授

所 属：広島大学大学院理学研究科 数理分子生命理学専攻
演 題：放射光真空紫外円二色性による生命分子構造解析の新展開
世話分野：生命分子研究部門

開 催 日：平成 21 年 11 月 13 日
講演会名：IMS ナノフォーラム
講 師 名：Dorothee Kem 教授
所 属：Brandeis University, USA
演 題：Proteins in action: dynamics during catalysis and signaling
場 所：分子科学研究所
世 話 人：加藤 晃一

開 催 日：平成 21 年 2 月 17 日
場 所：東京薬科大学薬学部
講演会名：2008 年度日本薬剤学会東地区第 3 回英語セミナー
講 師 名：林 良雄 教授
降幡 知巳 助教
El-Sayed Khafagy
Wanawongthai Chalermphon
柴田 寛子
所 属：東京薬科大学薬学部
千葉大学薬学研究科
星薬科大学
千葉大学薬学研究科
国立医薬品食品衛生研究所

演 題：
・ Small peptide-based medicinal chemistry for intractable disease. Identification of nucleoside transporters involved in the hepatic uptake of ribavirin in rodents and humans.
・ Cell penetrating peptides (CPP) for non-invasive peptides delivery.
・ Effect of sodium alkyl sulfate on probucol nanoparticles formation from ternary co-ground mixture.
・ Creation of the TNF receptor-1-selective mutant of a TNF antagonist.
世話人：尾関 哲也 (実行委員長)、黄倉 崇 (帝京大・薬)、崔 吉道 (慶応義塾大・薬)、
設楽 悦久 (千葉大・院・薬)、鈴木 豊史 (日本大・薬)、鈴木 亮 (帝京大・薬)、登美 齐
俊 (慶応義塾大・薬)、中村 宏司 (テルモ)、根岸 洋一 (東京薬大・薬)、前田 和哉 (東京大・
院・薬)、保地 毅彦 (アステラス製薬)、吉田 和弘 (第一三共)

開 催 日：平成 21 年 6 月 23 日
場 所：東京薬科大学薬学部
講演会名：2009 年度日本薬剤学会東地区第 1 回英語セミナー
講 師 名：高島 由季 講師
川野 久美 助教
林 久允 助教
森部 久仁一 助教授
Hak-Kim Chan 教授
所 属：東京薬科大学薬学部
星薬科大学

東京大学薬学研究科
千葉大学薬学研究科
School of Pharmacy, The University of Sydney

演 題:

- Long-term sustained anticancer effects of biodegradable microspheres encapsulating a siRNA against c-flip or Raf-1 in mice and rats by inducing apoptosis.
- Influence of liposomal membrane fluidity on the in vitro antitumor activity of folate-targeted liposomal mitoxantrone.
- Development of therapeutic method against cholestasis by the regulation of cell-surface expression of Bile salt export pump.
- Incorporation of drug molecules into intermolecular spaces between cyclodextrin-polypseudorotaxane columns.
- Deposition of bioaerosols in the respiratory tract • The role of particle morphology in powder inhalers.

世話人: 尾関 哲也(実行委員長)、黄倉 崇 (帝京大・薬)、崔 吉道 (慶応義塾大・薬)、設楽 悦久(千葉大・院・薬)、鈴木 豊史(日本大・薬)、鈴木 亮 (帝京大・薬)、登美 斉俊(慶応義塾大・薬)、中村 宏司(テルモ)、根岸 洋一(東京薬大・薬)、前田 和哉(東京大・院・薬)、保地 毅彦(アステラス製薬)、吉田 和弘(第一三共)

開催日:平成21年8月4日

場 所:東京大学薬学研究科

講演会名:2009年度日本薬剤学会東地区第2回英語セミナー

講師名:亀井 敬泰

伊藤 慎悟 講師

山本 武人 助教

浅井 泰行

Philippe Manivet

所 属:東京大学薬学研究科

東北大学薬学研究科

東京大学病院薬剤部

エーザイ

Lariboisiere Hospital

演 題:

- Enhancing effect of functional peptides on intestinal absorption of therapeutic peptides/proteins and elucidation of their action mechanisms.
- Functional characterization of the brain-to-blood efflux clearance of human amyloid-beta peptide(1-40) across the blood-brain barrier.
- A proposal of pharmacokinetic optimization of dosing regimen of antibiotics in critically ill patients receiving continuous renal replacement therapy.
- Investigation on tablet formulation using direct compression method.
- In silico approaches for the study of membrane transporters.

世話人: 尾関 哲也(実行委員長)、黄倉 崇 (帝京大・薬)、崔 吉道 (慶応義塾大・薬)、設楽 悦久(千葉大・院・薬)、鈴木 豊史(日本大・薬)、鈴木 亮 (帝京大・薬)、登美 斉俊(慶応義塾大・薬)、中村 宏司(テルモ)、根岸 洋一(東京薬大・薬)、前田 和哉(東京大・院・薬)、保地 毅彦(アステラス製薬)、吉田 和弘(第一三共)

開催日：平成21年9月29日-10月1日

場 所：名古屋国際会議場

シンポジウム名：17th International Symposium on Microencapsulation

世話人：尾関 哲也、川島 嘉明（愛知学院大学）、竹内 洋文（岐阜薬科大学）他

開催日：平成21年10月5日

場 所：慶應義塾大学薬学部

講演会名：2009年度日本薬剤学会東地区第3回英語セミナー

講師名：近藤 彩乃

小川 法子 助教

東 颯二郎 助教

浅井 知浩 講師

Shirui Mao 准教授

所 属：東京大学薬学研究科

星薬科大学

千葉大学薬学研究科

静岡県立大学薬学研究科

Shenyang Pharmaceutical University

演 題：

- ・ Functional analysis of Protein X, which may regulate the expression level and trafficking of ABCA1.
- ・ Effect of cyclodextrins on the physicochemical properties of fentanyl.
- ・ Incorporation of drug molecules into intermolecular spaces between cyclodextrin-polypseudorotaxane columns.
- ・ Development of PET technology to determine pharmacokinetics of siRNA medicine .
- ・ Polymeric nanoparticles as carriers of drug delivery system.

世話人：尾関 哲也（実行委員長）、黄倉 崇（帝京大・薬）、崔 吉道（慶応義塾大・薬）、設楽 悦久（千葉大・院・薬）、鈴木 豊史（日本大・薬）、鈴木 亮（帝京大・薬）、登美 斉俊（慶応義塾大・薬）、中村 宏司（テルモ）、根岸 洋一（東京薬大・薬）、前田 和哉（東京大・院・薬）、保地 毅彦（アステラス製薬）、吉田 和弘（第一三共）

開催日：平成21年11月19日

場 所：高志会館（富山）

研究会名：第1回粉末吸入剤研究会

世話人：尾関 哲也、岡田弘晃（東京薬科大学薬学部）、他

開催日：平成21年4月15日

講演会名：第106回薬学談話会

講師名：豊玉 彰子

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科 コロイド高分子物性学分野

演 題：荷電コロイドの結晶化制御とその応用

世話人：牧野利明

開催日：平成21年5月15日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：山崎勝弘

所 属：大阪府立公衆衛生研究所衛生科学部
演 題：生薬成分分析の意義と課題、そして生薬・漢方製剤の効率的な品質評価法を求めて
世話分野：生薬学分野

開 催 日：平成 21 年 6 月 3 日
講演会名：第 107 回薬学談話会
講 師 名：金 相佑
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科 生命分子構造学分野
演 題：X線を用いた生体高分子の構造解析
世 話 人：寺坂和祥

開 催 日：平成 21 年 6 月 12 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：村田 純
所 属：サントリー生物有機科学研究所
演 題：インドールアルカロイドの生合成～ニチニチソウが難なくこなす「いい仕事」～
世話分野：生薬学分野

開 催 日：平成 21 年 10 月 7～9 日
講演会名：第 51 回天然有機化合物討論会
会 場：名古屋市公会堂
世 話 人：水上 元

開 催 日：平成 21 年 12 月 3 日
講演会名：第 38 回生薬分析シンポジウム
会 場：大阪薬業年金会館
世 話 人：牧野利明

開 催 日：平成 21 年 6 月 24 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：竹島 浩 教授
所 属：京都大学大学院薬学研究科
演 題：小胞体カルシウムストアの分子機構
世話分野：細胞分子薬効解析学分野

開 催 日：平成 21 年 7 月 1 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：三輪 聡一 教授
所 属：北海道大学大学院医学研究科
演 題：G タンパク質共役型受容体の発現レベル調節機構：エンドセリン受容体を中心に
世話分野：細胞分子薬効解析学分野

開 催 日：平成 21 年 7 月 8 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：古川 哲史 教授
所 属：東京医科歯科大学難治疾患研究所
演 題：QT 間隔・不整脈と性ホルモン

世話分野：細胞分子薬効解析学分野

開催日：平成21年1月19日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：鈴木 康夫 教授

所属：中部大学 生命健康科学部 生命医科学科

演題：高病原性トリインフルエンザ -パンデミック発生における糖鎖の役割と創薬-

世話分野：病態解析学分野

開催日：平成21年1月15日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：出川 雅邦 教授

所属：静岡県立大学大学院薬学研究科

演題：化学物質の代謝と化学発がん

世話分野：医薬品代謝解析学分野

開催日：平成21年2月28日

場所：ルーセントタワー会議室

シンポジウム名：大学院教育改革支援プログラムキックオフシンポジウム「薬工融合が拓くナノメディシン創薬」

世話分野：大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」(代表林 秀敏)

開催日：平成21年11月4日

場所：名古屋中小企業振興会館 (吹上ホール)

シンポジウム名：大学院GP「薬工融合型ナノメディシン創薬」シンポジウム ～ナノ・マイクロ粒子デリバリー～

世話分野：大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」(代表林 秀敏)

開催日：平成21年5月21日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：戸荊 彰史 教授

所属：愛知学院大学歯学部

演題：骨と神経 —交感神経による骨の脆弱化—

世話分野：中枢神経機能薬理学分野

開催日：平成21年6月4日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：樫 彰 教授

所属：愛知学院大学薬学部

演題：呼吸中枢の構造と機能

世話分野：中枢神経機能薬理学分野

開催日：平成21年2月19日

場所：名古屋市立大学病院

講演会名：第48回糖尿病イブニングカンファレンス

講師名：西洞 雅美
所属：名古屋市立大学病院 看護部
演題：ディスプレイ採血針アイピットの有用性に関して
講師名：佐野 俊一
所属：愛知医科大学メディカルクリニック 臨床検査科
演題：血糖測定におけるリスクマネジメント
主催：糖尿病イブニングカンファレンス（世話人；菊池千草 講師他）

開催日：平成21年6月25日
場所：名古屋市立大学病院
講演会名：第49回糖尿病イブニングカンファレンス
座長：菊池千草 講師
講師名：大西みさ
所属：旭労災病院
演題：当院の糖尿病療養指導士外来における成果と今後の展望について～各種データの解析をふまえて
講師名：篠田純治
所属：トヨタ記念病院
演題：予防から治療まで広い視野での地域一体型糖尿病地域連携の方向性
主催：糖尿病イブニングカンファレンス（世話人；菊池千草 講師他）

開催日：平成21年7月5日
場所：名城大学名駅サテライト
講演会名：第1回認定実務実習指導薬剤師のための講習会
講師名：鈴木 匡 教授，松永民秀 教授，前田 徹 講師，菊池千草 講師
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
主催：（社）愛知県薬剤師会 薬学生実務実習特別委員会

開催日：平成21年9月27日
場所：名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂
講演会名：第8回糖尿病・心・腎疾患チーム医療研究会
講師名：菊池千草 講師
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演題：今後の糖尿病教育について
主催：日本薬剤師研究センター集合・実習研修会実施機関 Risk and Insurance Management Academy (RAIMA)

開催日：平成21年11月1日
場所：金城学院大学薬学部
講演会名：社会保険部会，女性薬剤師・勤務薬剤師・青年薬剤師部会 合同研修会
講師名：網岡克雄 教授
所属：金城学院大学
演題：6年制薬学教育と薬剤師業務
講師名：岩月 進
所属：（社）日本薬剤師会
演題：今、薬剤師が取り組まなければならないこと
講師名：関野秀人

所 属：厚生労働省 医薬食品局医療機器審査管理室室長
演 題：薬剤師の未来
主 催：（社）愛知県薬剤師会 社会保険部会，女性薬剤師・勤務薬剤師・青年薬剤師部会（部員；菊池千草 講師他）

開 催 日：平成 21 年 11 月 22 日～23 日
場 所：名古屋市立大学大学院薬学研究科
講演会名：第 24 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海
講 師 名：鈴木 匡 教授，松永民秀 教授，前田 徹 講師，菊池千草 講師
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
主 催：（社）愛知県薬剤師会 薬学生実務実習特別委員会

開 催 日：平成 21 年 11 月 26 日
場 所：名古屋市立大学大学院医学研究科研究棟
講演会名：第 50 回糖尿病イブニングカンファレンス
講 師 名：加藤大也，林 安津美
所 属：JA 愛知厚生連豊田厚生病院
演 題：2 型糖尿病患者における新しい栄養指導の効果—理論と実践—（カーボカウント法を導入して）
講 師 名：大河内昌弘
所 属：愛知県厚生連尾西病院
演 題：糖尿病性大血管合併症の発症予防の観点からみた最新の糖尿病治療の考え方，最新の糖尿病治療薬（GLP-1，SGLT2 阻害薬）の効果および臨床的な使い方について
主 催：糖尿病イブニングカンファレンス（世話人；菊池千草 講師他）

開 催 日：平成 21 年 12 月 21 日
場 所：名古屋市立大学大学院医学研究科研究棟
講演会名：名市大 医療・保健学びなおし講座 これだけは知っておきたい 日常治療薬の正しい使い方
講 師 名：菊池千草 講師
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：糖尿病治療薬—使い方と副作用対策—
主 催：名古屋市立大学大学院医学研究科

4 研究業績目録

(2009年1月から2009年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Rie Ueda, Takayoshi Suzuki, Koshiki Mino, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Makoto Hasegawa, Ryuzo Sasaki, Tamio Mizukami, Naoki Miyata

Identification of Cell-Active Lysine Specific Demethylase 1-Selective Inhibitors

J. Am. Chem. Soc., **131**, 17536-17537 (2009).

Takayoshi Suzuki, Tomomi Asaba, Erika Imai, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Identification of a cell-active non-peptide sirtuin inhibitor containing N-thioacetyl lysine

Bioorg. Med. Chem. Lett., **19**, 5670 - 5672 (2009).

Takayoshi Suzuki, Keiko Imai, Erika Imai, Shinsuke Iida, Ryuzo Ueda, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Design, synthesis, enzyme inhibition, and tumor cell growth inhibition of 2-anilinobenzamide derivatives as SIRT1 inhibitors

Bioorg. Med. Chem., **17**, 5900 - 5905 (2009).

Kazuhiro Hishikawa, Hidehiko Nakagawa, Toshiaki Furuta, Kiyoshi Fukuhara, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Photoinduced Nitric Oxide Release from a Hindered Nitrobenzene Derivative by Two-Photon Excitation

J. Am. Chem. Soc., **131**, 7488—7489 (2009).

Tomomi Asaba, Takayoshi Suzuki, Rie Ueda, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Inhibition of Human Sirtuins by In Situ Generation of an Acetylated Lysine-ADP-ribose Conjugate

J. Am. Chem. Soc., **131**, 6989—6996 (2009).

Nobuaki Suzuki, Takayoshi Suzuki, Yosuke Ota, Tatsuya Nakano, Masaaki Kurihara, Haruhiro Okuda, Takao Yamori, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Design, Synthesis, and Biological Activity of Boronic acid-Based Histone Deacetylase Inhibitors

J. Med. Chem., **52**, 2909—2922 (2009).

Shohei Hamada, Tae-Dong Kim, Takayoshi Suzuki, Yukihiro Itoh, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Ralf Janknecht, Naoki Miyata

Synthesis and activity of N-oxalylglycine and its derivatives as Jumonji C-domain-containing histone lysine demethylase inhibitors

Bioorg. Med. Chem. Lett., **19**, 2852—2855 (2009).

Kiyoshi Fukuhara, Ikuo Nakanishi, Kei Ohkubo, Yoshinori Obara, Ayako Tada, Kohei Imai, Akiko Ohno, Asao Nakamura, Toshihiko Ozawa, Shiro Urano, Shinichi Saito, Shunichi Fukuzumi, Kazunori Anzai, Naoki Miyata and Haruhiro Okuda

Intramolecular base-accelerated radical-scavenging reaction of a planar catechin derivative bearing a lysine moiety

Chem. Commun., 6180–6182 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

Takayoshi Suzuki

Explorative Study on Isoform-Selective Histone Deacetylase Inhibitors

Chem. Pharm. Bull., **57**, 897-906 (2009). (Review).

Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Non-Hydroxamate Histone Deacetylase Inhibitors

Frontiers in Medicinal Chemistry, **4**, 619–641 (2009).

(特許申請)

出願日：平成21年10月9日

出願番号：PCT/JP2009/67675

名称：アシルニトロソ誘導体環化付加アントラセン誘導体及び光作動型 HNO 供与体

発明者：中川秀彦，宮田直樹，鈴木孝禎，松尾和哉

特許出願人：名古屋市立大学

出願日：平成21年11月13日

出願番号：特願 2009-260470

名称：ニトロベンゼン誘導体、並びに、それを用いた高反応性 ROS 発生剤

発明者：中川秀彦、家田直弥、津元裕樹、鈴木孝禎、宮田直樹

特許出願人：名古屋市立大学

(学会発表)

鈴木孝禎【日本薬学会奨励賞受賞講演】

アイソフォーム選択的ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の創製研究

日本薬学会第129年会，2009年3月26日（京都）AL12

中川秀彦【招待講演】

光で制御する NO および HNO ドナー化合物

日本薬学会第129年会，2009年3月28日（京都）S32-5

猪狩聡一，鈴木孝禎，平澤明，畑美絵，中川秀彦，石黒正路，辻本豪三，宮田直樹

糖尿病治療薬を志向した GPR120 選択的アゴニストの創製（年会ハイライトポスタ 26PH-18）

日本薬学会第129年会，2009年3月26日（京都）26G-pm02

池田麻美子，中川秀彦，伴静華，鈴木孝禎，宮田直樹

部位特異的に酸化ストレス評価が可能な核分布型スピンプローブの開発

日本薬学会第129年会，2009年3月26日（京都）26G-pm12

- 浅場智美, 鈴木孝禎, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹
触媒メカニズムを基にした新規 SIRT 阻害薬の創製と阻害メカニズム解析
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 27 日 (京都) 27H-pm13
- 鈴木信明, 鈴木孝禎, 中野達也, 中川秀彦, 宮田直樹
触媒メカニズムを基に設計したボロン酸を有する HDAC 阻害薬の創製
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 27 日 (京都) 27H-pm14
- 菱川和宏, 中川秀彦, 古田寿昭, 福原潔, 鈴木孝禎, 宮田直樹
二光子励起で作動する一酸化窒素(NO)放出剤の合成とその NO 放出能の評価
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 28 日 (京都) 28N-pm09
- 浜田翔平, 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 中川秀彦, 宮田直樹
JMJD2 阻害薬の設計, 合成と生物活性評価
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 26 日 (京都) 26Q-am223
- 松尾和哉, 中川秀彦, 安達祐介, 鈴木孝禎, 宮田直樹
親水基を有する hetero Diels Alder 環化付加体の窒素酸化物生成反応における光応答性
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 27 日 (京都) 27P-am244
- 家田直弥, 中川秀彦, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹
光作動性 NO ドナーにおける水酸基の影響
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 27 日 (京都) 27P-am245
- 北村千春, 中川秀彦, 鈴木孝禎, 宮田直樹
Huisgen Reaction を利用したアフィニティ抽出ツールの設計と開発
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 27 日 (京都) 27P-am247
- 今井耕平, 中西郁夫, 安西和紀, 小澤俊彦, 宮田直樹, 中村朝夫, 奥田晴宏, 福原潔
ラジカル消去活性増強を目的とした立体固定化エピカテキンの合成
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 26 日 (京都) 26Q-am104
- 福原潔, 大野彰子, 中西郁夫, 今井耕平, 中村朝夫, 安西和紀, 宮田直樹, 奥田晴宏
ニンヒドリンの反応特性を利用した新規カテキン誘導体の合成
日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 26 日 (京都) 26Q-am106
- 孫き, 平澤明, 原貴史, 足達哲也, 畑美絵, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 辻本豪三
新規遊離脂肪酸受容体 GPR120 に対する選択的アゴニストの薬理的解析
日本薬学会第 129 年会, 2008 年 3 月 28 日 (京都) 28P-pm10
- 中川秀彦, 菱川和宏, 古田寿昭, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹
二光子吸収作用型 NO ドナーの開発と性能解析
日本ケミカルバイオロジー学会 第 4 回年会, 2009 年 5 月 18 日 (神戸)
- 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 瀬瀬章泰, 前田里子, 吉田稔, 中川秀彦, 宮田直樹
HDAC6 選択的阻害薬の創製とその応用
日本ケミカルバイオロジー学会 第 4 回年会, 2009 年 5 月 18 日 (神戸)

宮田直樹, 鈴木孝禎, 中川秀彦, 三田貴臣, 飯田真介, 上田龍三
HDAC6 非感受性阻害薬の創製とその多発性骨髄腫細胞増殖抑制機構の解明
日本ケミカルバイオロジー学会 第 4 回年会, 2009 年 5 月 19 日 (神戸)

松尾和哉, 中川秀彦, 安達祐介, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
水溶性光応答性 HNO 放出試薬の開発とその反応性
第 62 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2009 年 6 月 12 日 (福岡)

菱川和宏, 中川秀彦, 古田寿昭, 福原 潔, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
二光子励起で作動する NO ドナーの分解効率評価
第 62 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2009 年 6 月 12 日 (福岡)

堀之内 妙子, 中川秀彦, 池田 麻美子, 菱川和宏, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原 潔, 宮田直樹
【優秀演題賞】
ミトコンドリア局在型光作動性 NO ドナーの開発
第 62 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2009 年 6 月 12 日 (福岡)

池田麻美子, 中川秀彦, 伴 静華, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
核局在性スピンプローブを用いた細胞内部位特異的な酸化ストレスの評価
第 62 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2009 年 6 月 12 日 (福岡)

浜田翔平, 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹
Jumonji C ドメインを持つヒストン脱メチル化酵素阻害薬の設計, 合成と生物活性評価
第 55 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2009 年 7 月 11 日 (名古屋)

鈴木孝禎, 浅場智美, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹
触媒メカニズムに基づいた SIRT 阻害薬の創製
第 7 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 2009 年 7 月 24 日 (大阪)

宮田直樹
エピジェネティックに遺伝子発現を制御する化合物: 新たな制がん剤の開発をめざして
第 2 回 Cancer Research Seminar, 2009 年 11 月 18 日 (名古屋)

上田理恵, 鈴木孝禎, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
ヒストン脱メチル化酵素 LSD1 選択的阻害薬の創製
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009, 2009 年 11 月 23 日
(四日市), C-17

太田庸介, 鈴木孝禎, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹
Click Chemistry を用いた HDAC8 阻害薬の探索
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009, 2009 年 11 月 23 日
(四日市), C-18

家田直弥, 中川秀彦, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原 潔, 宮田直樹
2,6-dimethylnitrobenzene 型 NO ドナーによる ROS の発生
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009, 2009 年 11 月 23 日
(四日市), C-19

上田理恵, 鈴木孝禎, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
LSD1 選択的阻害薬の設計・合成と生物活性評価
第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2009 年 11 月 25 日 (東京), 1P-04

太田庸介, 鈴木孝禎, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹【シンポジウム優秀賞】
Click Chemistry を用いた HDAC8 阻害薬の創製
第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2009 年 11 月 25 日 (東京), 1P-11

松尾和哉, 中川秀彦, 安達祐介, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
光誘起性 HNO 放出試薬の光反応性
第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2009 年 11 月 25 日 (東京), 1P-80

浜田翔平, 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
N-oxalylglycine 誘導体の合成及びヒストン脱メチル化酵素 JMJD2 阻害活性評価
第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2009 年 11 月 25 日 (東京), 1P-84

Kazuhiro Hishikawa, Hidehiko Nakagawa, Toshiaki Furuta, Kiyoshi Fukuhara, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata
Novel Nitric Oxide Releaser Activated By Two-Photon Excitation
The 5th Joint Meeting of the Societies of Free Radical Research Australasia and Japan, 2009.12.1-4 (Sydney)

Mamiko Ikeda, Hidehiko Nakagawa, Shizuka Ban, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata【Young Investigator Award】
Evaluation Of Subcellular Oxidative Stress With Site-Specific Spin Probes
The 5th Joint Meeting of the Societies of Free Radical Research Australasia and Japan, 2009.12.1-4 (Sydney)

Kazuya Matsuo, Hidehiko Nakagawa, Yusuke Adachi, Eri Kameda, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata
Novel Photoinduced HNO Donors
The 5th Joint Meeting of the Societies of Free Radical Research Australasia and Japan, 2009.12.1-4 (Sydney)

池田麻美子, 中川秀彦, 伴 静華, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
細胞核選択的酸化ストレス評価を目指した新規スピンプローブの開発
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P42

菱川和宏, 中川秀彦, 古田寿昭, 福原 潔, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
二光子励起を利用した長波長の光で作動する一酸化窒素ドナー
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P43

家田直弥, 中川秀彦, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原 潔, 宮田直樹
光応答性 NO ドナーからのヒドロキシルラジカルの発生
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P44

上田理恵, 鈴木孝禎, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹

シクロプロピルアミン構造を基にした LSD1 選択的阻害薬の設計・合成と生物活性評価
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P45

太田庸介, 鈴木孝禎, 津元裕樹, 中川秀彦, 宮田直樹【優秀発表賞】
in situ click chemistry を用いた HDAC 阻害薬の創製
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P46

浜田翔平, 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
N-oxalylglycine をリード化合物としたヒストン脱メチル化酵素 JHDM 阻害薬の設計, 合成と
活性評価
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P47

松尾和哉, 中川秀彦, 安達祐介, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
光制御可能な新規 HNO 放出試薬の開発
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P48

堀之内妙子, 中川秀彦, 池田麻美子, 菱川和宏, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹
Mitochondria-targeting 型光作動性 NO donor
創薬懇話会 2009 in 岐阜, 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) P49

【精密有機反応学分野】

(原報)

Yuki Imamura, Naoto Watanabe, Naoki Umezawa, Takeshi Iwatsubo, Nobuki Kato, Taisuke Tomita, and Tsunehiko Higuchi

Inhibition of γ -Secretase Activity by Helical β -Peptide Foldamers.

J. Am. Chem. Soc., **131(21)**, 7353-7359 (2009).

Mie Kamoto, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, and Tsunehiko Higuchi

Turn-on fluorescent probe with visible light excitation for labeling of hexahistidine tagged protein.

Bioorg. Med. Chem. Lett., **19(8)**, 2285-2288 (2009).

Natalya Hessenauer-Ilicheva, Alicja Franke, Maria Wolak, Tsunehiko Higuchi, and Rudi van Eldik

Spectroscopic and Mechanistic Studies on Oxidation Reactions Catalyzed by the Functional Model SR Complex for Cytochrome P450: Influence of Oxidant, Substrate, and Solvent.

Chem. Eur. J., **15(45)**, 12447-12459 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

樋口恒彦

触媒機能におけるシトクロム P450 配位構造の必然性：モデル錯体からのアプローチ

有機合成化学協会誌, **67(2)**, 134-142, (2009) .

(学会発表)

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘムにおけるチオレート軸配位子への水素結合の特異的な協奏効果

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) ; 26Q-am032.

則武幸延, 渡部頼忠, 南波あずさ, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

反応補助基を導入したマンガサレン錯体の活性酸素消去活性

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) ; 26Q-am035.

野々垣定紀, 上田真之介, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

光駆動回転分子の開発

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) ; 26Q-am080.

今村優希, 梅澤直樹, 加藤信樹, 渡邊直登, 富田泰輔, 岩坪 威, 樋口恒彦

γ セクレターゼ阻害能をもつフォルダマーの開発

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27H-pm06.

鴨東美絵, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヒスタグ配列を認識する発蛍光型蛍光試薬の開発

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27H-pm16.

松本庸良, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

基質認識部位を導入した機能性ポルフィリンの合成

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27P-am191.

藪名香宏介, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

化学進化的合成化学による抗マラリア薬を目指した高ヘム親和性化合物の開発

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都) ; 28I-pm09.

則武幸延, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

分子内に三次元的に固定した塩基のマンガンサレンのカタラーゼ様活性に及ぼす効果

第 19 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム. 2009 年 6 月 11 日 (大阪) ; O3-4.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘム-チオレート錯体のペルオキシド O-O 結合開裂反応に及ぼす NH-S 水素結合の効果

第 19 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム. 2009 年 6 月 12 日 (大阪) ; P2-12.

鈴木 潤, 山根健浩, 牧野康平, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘムによる O-O 結合開裂反応におけるチオレート軸配位子及び硫黄への水素結合の特異な効果

第 36 回生体分子科学討論会. 2009 年 6 月 19 日 (札幌) ; 16.

田口知世, 近藤圭佑, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

希土類金属錯体を用いたベンジルアミンの触媒的空気酸化反応の開発

第 55 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2009 年 7 月 11 日 (名古屋) ; A-23.

Yukinobu Noritake, Yoritada Watanabe, Azusa Namba, Nobuki Kato, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi

Active Oxygen-Scavenging Activity of Manganese Salen Complexes in Water: Effect of a Three Dimensionally fixed Auxiliary

14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry.
2009 年 7 月 25 日 (Nagoya) ; P095(B-16).

Seiji Mori, Jun Ochiai, Tetsuya K.Yanai, Tsunehiko Higuchi

Theoretical Studies on Endoperoxide O-O Bond Cleavage Catalyzed by Iron Porphyrin Complexes

14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry.
2009 年 7 月 25 日 (Nagoya) ; P110.

Hiroshi Suzuki, Takehiro Yamane, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi

Highly Efficient Isomerization of Endoperoxides Catalyzed by Synthetic Heme Thiolate as a Model of Cytochrome P450

14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry.
2009 年 7 月 25 日 (Nagoya) ; P592.

Tsunehiko Higuchi

Active Oxygen-Scavenging Activity of Manganese Salen Complexes in Water: Effect of a Three

樋口恒彦

Highly Efficient Isomerization of Endoperoxides Catalyzed by Synthetic Heme Thiolate as a Model of Cytochrome P450

特定領域研究「協奏機能触媒」第4回国際シンポジウム. 2009年8月28日 (札幌) ;P64.

野々垣定紀, 上田真之介, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

光駆動回転分子の開発

第24回生体機能関連化学シンポジウム. 2009年9月14日 (福岡) ;1P-82.

則武幸延, 渡部頼忠, 南波あずさ, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

反応補助基を導入した Mn-Salen 錯体の活性酸素消去活性

第24回生体機能関連化学シンポジウム. 2009年9月14日 (福岡) ;1P-83.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

NH \cdots S 水素結合の、ヘム-チオレート錯体のシトクロム P450 類似活性に及ぼす特異な効果

第24回生体機能関連化学シンポジウム. 2009年9月14日 (福岡) ;1P-91.

樋口恒彦, 則武幸延, 加藤信樹, 梅澤直樹

マンガンサレン錯体の分子内有機塩基担持によるカタラーゼ様活性の高度化

第104回触媒討論会. 2009年9月30日 (宮崎) ;4D18.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘム-チオレート錯体の酸化触媒機能への NH \cdots S 水素結合の及ぼす協奏的效果

第42回酸化反応討論会. 2009年11月15日 (仙台) ;P-18.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

チオレート配位ヘム錯体の触媒活性に及ぼす NH \cdots S 水素結合の特異な効果

第35回反応と合成の進歩シンポジウム. 2009年11月16日 (金沢) ;1P-13.

今村優希, 渡邊直登, 梅澤直樹, 富田泰輔, 加藤信樹, 岩坪 威, 樋口恒彦

γ -セクレターゼの基質認識部位を阻害するフォルダマーの開発

第28回メディシナルケミストリーシンポジウム. 2009年11月25日 (東京) ;1P-49.

今村優希, 渡邊直登, 梅澤直樹, 富田泰輔, 加藤信樹, 岩坪 威, 樋口恒彦

γ -セクレターゼの基質認識部位を阻害するフォルダマーの開発

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009年12月10日 (岐阜) ;P35.

則武幸延, 渡部頼忠, 南波あずさ, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

反応補助基を導入した Mn-Salen 錯体の活性酸素消去活性

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009年12月10日 (岐阜) ;P36.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘム-チオレート錯体の P450 類似活性に NH \cdots S 水素結合の及ぼす協奏的效果

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) ;P37.

田口知世, 近藤圭佑, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

希土類金属錯体を用いたベンジルアミンの触媒的空気酸化反応の開発

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) ;P38.

鵜飼和宏, 野呂侑加, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ペプチド活性を光制御する一般的手法の開発

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) ;P39.

鬼頭 茜, 浜口 雄, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

基質認識能を有するポルフィリン金属錯体の合成と位置的選択的アルカン酸化

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) ;P40.

野々垣定紀, 上田真之介, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

光駆動回転分子の開発

創薬懇話会 2009 in 岐阜. 2009 年 12 月 10 日 (岐阜) ;P41.

樋口恒彦【依頼講演】

新しい合成経路を提供する強力な触媒的酸化反応系の開発

第3回 医薬品原料 国際展 研究成果発表フォーラム. 2009 年 7 月 3 日 (東京) ;A-13.

【薬品合成化学分野】

(原報)

Yoshiyuki Hari, Ryosuke Kondo, Koji Date, and Toyohiko Aoyama

Facile synthesis of 2-unsubstituted benzofuran-3-carboxylates using diazo(trimethylsilyl)methylmagnesium bromide.

Tetrahedron, **65**, 8708–8713 (2009).

Fumie Sakurai, Kazuhiro Kondo, and Toyohiko Aoyama

Nickel-catalyzed 1,2-addition of potassium aryltrifluoroborates to α,β -unsaturated aldehydes.

Chem. Pharm. Bull., **57**, 511–512 (2009).

Hiroaki Matsuoka and Kazuhiro Kondo

General and convenient TsOH-induced allylboration of ketones.

Tetrahedron Lett., **50**, 2320–2321 (2009).

Fumie Sakurai, Kazuhiro Kondo, and Toyohiko Aoyama

Et-Duphos-nickel-catalyzed asymmetric arylation of benzaldehyde derivatives bearing an *ortho*-Me₂PhSi group with potassium aryltriolborates.

Tetrahedron Lett., **50**, 6001–6003 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

張 功幸, 塩入孝之, 青山豊彦

トリメチルシリルジエタノールを用いる複素環化合物の合成

有機合成化学協会誌, **67**, 357–368 (2009).

(学会発表)

松岡大晃, 近藤和弘

基質一般性の高いケトンのアリルホウ素化反応 –四級炭素構築–

第55回日本薬学会東海支部総会・大会. 2009年7月11日 (名古屋); A-22.

櫻井扶美恵, 小笹弘貴, 近藤和弘, 青山豊彦

高クラーク数元素による触媒反応の開発

第7回次世代を担う有機化学シンポジウム. 2009年7月23日 (大阪); 1-11.

Yoshiyuki Hari, Ryosuke Sone, and Toyohiko Aoyama

Facile synthesis of 3-substituted pyrazoles and indazoles using [3+2]cycloaddition reactions of 2-diazo-2-(trimethylsilyl)ethanols.

22nd International Congress on Heterocyclic Chemistry. 2009年8月3日 (St. John's, Canada); PO-5.

近藤和弘 【招待講演】

枯渴危惧なレアメタル触媒からの脱却: 高クラーク数元素によって構成される触媒反応の開

発

日本薬学会東北支部 第8回化学系薬学若手研究者セミナー. 2009年10月3日(仙台).

曾根良介, 張 功幸, 青山豊彦

トリメチルシリルジアゾメタンの MgBr 塩を用いた α -ヒドロキシアシルシランの合成

第35回反応と合成の進歩シンポジウム. 2009年11月17日(金沢); 2P-48.

横山拓也, 張 功幸, 青山豊彦

トリメチルシリルジアゾメタンの Li 塩を用いた新規なピロリジン合成

第35回反応と合成の進歩シンポジウム. 2009年11月17日(金沢); 2P-52.

稲葉綾子, 張 功幸, 青山豊彦

高エナンチオ選択的 α 位置換 3-pyrroline-2-carboxylic acid 誘導体の合成

第35回反応と合成の進歩シンポジウム. 2009年11月17日(金沢); 2P-55.

櫻井扶美恵, 近藤和弘, 青山豊彦

Ni 触媒による芳香族アルデヒドの不斉アリール化反応の開発

第35回反応と合成の進歩シンポジウム. 2009年11月17日(金沢); 2P-56.

【機能分子構造学分野】

(原報)

Yosuke Hisamatsu, Naohiro Shirai, Shin-ichi Ikeda, and Kazunori Odashima

A New Quadruple Hydrogen-Bonding Module with a DDAA Array: Formation of a Stable Homodimer without Competition from Undesired Hydrogen-Bonded Dimers

Org. Lett., **11**, 4342-4345 (2009).

(学会発表)

池田慎一, 大山祐佳里, 白井直洋

ニッケル触媒存在下、 β -炭素脱離を伴うドミノ反応

第40回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 2009年11月8日(岐阜); 2P81

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Yoshikazu Inoh, Tadahide Furuno, Naohide Hirashima, and Mamoru Nakanishi

Non-viral vectors with a biosurfactant MEL-A promote gene transfection into solid tumors in mouse abdominal cavity.

Biol. Pharm. Bull., **32**, 126-128 (2009).

Masahiko Tanaka, Yuchio Yanagawa, and Naohide Hirashima

Transfer of small interfering RNA by single-cell electroporation in cerebellar cell cultures.

J. Neurosci. Meth., **178**, 80-86 (2009).

Hiroki Sakiyama, Satoshi Tadokoro, Mamoru Nakanishi, and Naohide Hirashima

Membrane fusion between liposomes containing SNARE proteins involved in mast cell exocytosis.

Inflamm. Res., **58**, 139-142 (2009).

Hidehiro Nomura, Toshihisa Ohtsuka, Satoshi Tadokoro, Masahiko Tanaka, and Naohide Hirashima

Involvement of ELKS, an active zone protein, in exocytotic release in RBL-2H3 cells.

Cell. Immunol., **258**, 204-211 (2009).

Masahiko Tanaka, Shin-ichi Sakata, Naohide Hirashima

Effects of 1-naphthyl acetyl spermine on dendrite formation of cultured cerebellar Purkinje cells.

Neurosci. Lett., **462**, 30-32 (2009).

Kohei Tahara, Takeshi Sakai, Hiromitsu Yamamoto, Hirofumi Takeuchi, Naohide Hirashima, and Yoshiaki Kawashima

Improved cellular uptake of chitosan-modified PLGA nanospheres by A549 cells.

Int. J. Pharmaceut., **382**, 198-204 (2009).

(総説)

Masahiko Tanaka

Dendrite formation of cerebellar Purkinje cells.

Neurochem. Res., **34**, 2078-2088 (2009).

(特許申請)

出願日：平成21年11月26日

出願番号：特願2009-259249

名称：バイオサーファクタントを有効成分とするアレルギー反応遅発相抑制剤

発明者：平嶋 尚英，北川 優，山本周平

特許出願人：名古屋市立大学、東洋紡績株式会社

(学会発表)

Masahiko Tanaka

A transfection technique of small interfering RNA by single-cell electroporation in neuronal cell cultures.

International Partnership Symposium on Life Sciences 2009. Feb 20, 2009 (Nagoya, Japan) ; Session I-2

田中正彦, 村田和夫, 坂田真一, 平嶋尚英

小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成におけるカルシウムシグナルの役割

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27P-pm126.

平嶋尚英, 笹井雅夫, 田所 哲

リポソームを用いた人工開口放出系の構築

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27Q-am163.

田所 哲, 永井弓子, 笹井雅夫, 中西 守, 平嶋尚英

膜融合を指標にしたマスト細胞の開口放出因子の機能解析

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27Q-am185.

伊納 義和, 古野忠秀, 平嶋尚英, 中西 守

バイオサーファクタントを含有した正電荷リポソームを用いた腹腔内腫瘍への遺伝子導入

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27Q-am164.

山下真由, 平嶋尚英

マスト細胞を用いた標的的特異的分泌系の開発

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27Q-am169.

藤井 聡, 木村和哲, 飯沼宗和, 土屋照雄, 杉山 正, 賀川義之, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 栗本英治, 林 秀樹, 小野秀樹, 野口博司, 水上 元

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の平成 20 年度活動報告

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 28 日 (京都) ; 28Q-am129.

野村英宏, 三浦 景, 中西 守, 平嶋尚英

マスト細胞におけるアクティブゾーンタンパク質の機能解析

第 18 回日本バイオイメージング学会学術集会 2009 年 9 月 5 日 (岡山) ; S4-6.

田中正彦, 坂田真一, 平嶋尚英

小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成におけるカルシウムチャネルの役割

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 18 日 (名古屋) ; P3-a21.

田所 哲, 永井弓子, 中西 守, 平嶋尚英

膜融合を指標にしたマスト細胞の脱顆粒制御因子の機能解析

第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 23 日 (神戸) ; 3P-433.

Tadahide Furuno, Keisuke Okamoto, Miho Sekimura, Akihiko Ito, Naohide Hirashima,

Mamoru Nakanishi

Cell adhesion molecule 1 (CADM1) works in two ways in neuro-immune interaction.

日本生物物理学会第 47 回年会 2009 年 10 月 30 日 (徳島) ; 1P-151.

Yumiko Nagai, Satoshi Tadokoro, Naohide Hirashima

Effects of synaptotagmin on the membrane fusion between liposomes containing SNARE proteins involved in mast cell exocytosis.

日本生物物理学会第 47 回年会 2009 年 10 月 31 日 (徳島) ; 2P-177.

Masahiko Tanaka, Yuchio Yanagawa, Naohide Hirashima

Long-term and real-time monitoring of effects of small interfering RNA introduced by single-cell electroporation in cultured cerebellar neurons.

日本生物物理学会第 47 回年会 2009 年 10 月 31 日 (徳島) ; 2P-270.

Yoshikazu Inoh, Tadahide Furuno, Naohide Hirashima, Dai Kitamoto, Mamoru Nakanishi

Composition of unsaturated fatty acids in biosurfactants affects efficiency of gene transfection mediated by cationic liposomes

日本生物物理学会第 47 回年会 2009 年 11 月 1 日 (徳島) ; 3P-171.

Naohide Hirashima, Miho Ikeya, Hirofumi Konishi, Satoshi Tadokoro

Function analysis of store operated Ca channel Orai in mast cells

日本生物物理学会第 47 回年会 2009 年 11 月 1 日 (徳島) ; 3P-188.

野村 英宏

マスト細胞の開口放出におけるアクティブゾーンタンパク質の関与

第 8 回 次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2009 2009 年 11 月 15 日 (名古屋) ;
B26.

Yoshiko Takagishi, Masahiko Tanaka, Mariko Miyata, Yasushi Kishimoto, Yoshiharu Murata

Myosin Va is necessary for localization of smooth endoplasmic reticulum and IP3 receptors in the dendritic spine of Purkinje cells and its role is required for cerebellar synaptic plasticity and motor learning

名古屋大学グローバル COE プログラム第 2 回国際シンポジウム 2009 年 11 月 27 日 (名古屋).

Satoshi Tadokoro, Hiroki Sakiyama, Yumiko Nagai, Mamoru Nakanishi, Naohide Hirashima

Membrane Fusion Induced by SNARE Proteins Involved in Mast Cell Degranulation

第 31 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 2009 年 12 月 1 日 (大阪) ; 2C10.

森田陽介、北本大、平嶋 尚英

マスト細胞からの炎症性メディエーター放出に対するバイオサーファクタントの影響

第 32 回日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 10 日 (横浜) ; 2P-0725.

加川恭子、仲川賀子、田所 哲、平嶋 尚英

マスト細胞における分泌小胞の分泌部位へのターゲティング機構

第 32 回日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 12 日 (横浜) ; 4P-0441.

田中正彦、朝岡みなみ、柳川右千夫、高岸芳子、平嶋尚英

単一細胞エレクトロポレーションによって培養小脳神経細胞に導入された siRNA の遺伝子発現抑制効果

第 32 回日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 12 日 (横浜) ; 4P-0846

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka, Mariko Shinohara, Sachiko Onda, Tsutomu Sawada, Masakatsu Yonese and Fumio Uchida
Gel Immobilization of Centimeter-Sized and Uniform Colloidal Crystals Formed under Temperature Gradient

Langmuir. **25**, 589-593 (2009)

(総説・著書・総合論文など)

山中淳平, 豊玉彰子
荷電コロイド結晶化

日本結晶成長学会誌, 76-83(2009)

(特許申請)

出願日:平成21年8月24日

出願番号:特願2009-193171

名称:アクリル樹脂組成物およびその製造方法、並びにそれを用いて形成した建築用材および身飾品

発明者:山中淳平, 豊玉彰子, 内田文生, 川中智司, 中野勇二, 名方亮介, 西垣雄一, 川澄善之

特許出願人:富士化学(株), 京セラ(株), 名古屋市立大学

出願日:平成21年8月24日

出願番号:特願2009-193172

名称:樹脂組成物およびその製造方法、並びにそれを用いて形成した建築用材および身飾品

発明者:山中淳平, 豊玉彰子, 内田文生, 川中智司, 中野勇二, 名方亮介, 西垣雄一, 川澄善之

特許出願人:名古屋市立大学, 京セラ(株), 富士化学(株)

(学会発表)

澤田勉, 恩田佐智子, 山中淳平
コロイドフォトリック結晶の作製と観察

第34回結晶成長討論会 2009年9月1-3日 (宮城)

山中淳平, 豊玉彰子, 恩田佐智子, 澤田勉, 内田文生, 伊藤研策, 瀧口義浩, 大木芳正【招待講演】

宇宙におけるコロイド研究

第53回宇宙科学技術連合講演会 2009年9月9-11日 (京都)

大川匡子, 吉田哲二, 藤井友子, 山中淳平【招待講演】

パネルディスカッション「きぼう完成!新しいステージへ」

第 53 回宇宙科学技術連合講演会 2009 年 9 月 9-11 日 (京都)

恩田佐智子, 豊玉彰子, 山中淳平

シリカコロイドの温度誘起結晶化に対する塩基種の影響

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

篠原真理子, 豊玉彰子, 米勢政勝, 内田文生, 山中淳平

ゾーンメルト法による大型コロイド結晶の作製

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

吉澤幸樹, 恩田佐智子, 谷地知大, 山中淳平

シリカコロイドの結晶化に伴う不純物排除

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

豊玉彰子, 山中淳平

荷電コロイド系の結晶化に対する温度の影響(1)-電荷数依存性-

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

永野亮太, 豊玉彰子, 山中淳平

荷電コロイド系の結晶化に対する温度の影響(2)-粒径依存性-

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

伊藤研策, 赤谷俊宏, 谷口綾佳, 当田由美子, 酒井大輔, 山中淳平, 澤田勉

準安定(過冷却)状態から成長したセンチメートルサイズコロイド結晶

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

當田由美子, 赤谷俊宏, 谷口綾佳, 伊藤研策, 山中淳平, 澤田勉

粒子沈降熟成過程における薄膜型シリカコロイド結晶の構造変化

第 62 回コロイドおよび界面化学討論会 2009 年 9 月 17-19 日 (岡山)

【生命分子構造学分野】

(原報)

Enoch Y. Park, Motoki Ishikiriya, Takuya Nishina, Tatsuya Kato, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Hiroshi Ueda

Human IgG1 expression in silkworm larval hemolymph using BmNPV bacmids and its N-Linked glycan structure

J. Biotechnol. **139**, 108-114 (2009)

Mami Shibata-Koyama, Shigeru Iida, Akira Okazaki, Katsuhiko Mori, Kazuko Kitajima-Miyama, Seiji Saitou, Shingo Kakita, Yutaka Kanda, Kenya Shitara, Koichi Kato, and Mitsuo Satoh

The N-linked oligosaccharide at FcγRIIIa Asn-45: an inhibitory element for high FcγRIIIa binding affinity to IgG glycoforms lacking core fucosylation

Glycobiology **19**, 126-134 (2009)

Masaaki Sugiyama, Kei Hamada, Koichi Kato, Eiji Kurimoto, Kenta Okamoto, Yukio Morimoto, Susumu Ikeda, Sachiko Naito, Michihiko Furusaka, Kenji Itoh, Kazuhiro Mori, and Toshiharu Fukunaga

SANS simulation of aggregated protein in aqueous solution

Nucl. Instrum. Methods Phys. Res. A. **600**, 272-274 (2009)

Masami Masuda, Masato Hasegawa, Takashi Nonaka, Takayuki Oikawa, Motokuni Yonetani, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, Shin-ichi Hasegawa, and Michel Goedert

Inhibition of α-synuclein fibril assembly by small molecules: Analysis using epitope-specific antibodies

FEBS Lett. **583**, 787-791 (2009)

Yoshiki Yamaguchi, Markus Wälchli, Mayumi Nagano, and Koichi Kato

A ¹³C-detection NMR approach for large glycoproteins

Carbohydr. Res. **344**, 535-538 (2009)

Nongluk Sriwilajaroen, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Prapon Wilairat, Hiroaki Hiramatsu, Morihiro Ito, Yasuhiko Ito, Koichi Kato, and Yasuo Suzuki

Analysis of N-glycans in embryonated chicken egg chorioallantoic and amniotic cells responsible for binding and adaptation of human and avian influenza viruses

Glycoconjugate J. **26**, 433-433(2009)

Nobuko Hosokawa, Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Koichi Kato, and Kazuhiro Nagata

Human OS-9, a lectin required for glycoprotein endoplasmic reticulum-associated degradation, recognizes mannose-trimmed N-glycans

J. Biol. Chem. **284**, 17061-17068 (2009)

Makoto Ogata, Makoto Nakajima, Tatsuya Kato, Takakiyo Obara, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Taichi Usui, and Enoch Y. Park

Synthesis of sialoglycopolyptide for potentially blocking influenza virus infection using a rat α2,6-sialyltransferase expressed in BmNPV bacmid-injected silkworm larvae

BMC Biotechnol. **9**:54 (2009)

Takashi Dojima, Takuya Nishina, Tatsuya Kato, Tsuyoshi Uno, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Enoch Y. Park

Comparison of the *N*-linked glycosylation of human

J. Biotechnol. **143**, 27-33 (2009)

Sukanya Thongratsakul, Thaweesak Songserm, Chaithep Poolkhet, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Hiroaki Hiramatsu, Masato Tashiro, Harue Okada, Koichi Kato, and Yasuo Suzuki

Determination of *N*-linked sialyl-sugar chains in the lungs of domestic cats and dogs in Thailand susceptible to the highly pathogenic avian influenza virus (H5N1)

Open Glycoscience **2**, 28-36 (2009)

Kaori Sasaki, Mizuho Kajikawa, Kimiko Kuroki, Tomoko Motohashi, Tsukasa Shimojima, Enoch Y. Park, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Katsumi Maenaka

Silkworm expression and sugar profiling of human immune cell surface receptor, KIR2DL1

Biochem. Biophys. Res. Commun. **387**, 575-580 (2009)

Takao Kohno, Yoshimi Nakano, Noriko Kitoh, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Atsushi Baba, and Mitsuharu Hattori

C-terminal region-dependent change of antibody-binding to the Eighth Reelin repeat reflects the signaling activity of Reelin

J. Neurosci. Res. **87**, 3043-3053 (2009)

Dan Hu, Yukiko Kamiya, Kiichiro Totani, Daiki Kamiya, Norihito Kawasaki, Daisuke Yamaguchi, Ichiro Matsuo, Naoki Matsumoto, Yukishige Ito, Koichi Kato, and Kazuo Yamamoto

Sugar-binding activity of the MRH domain in ER α -glucosidase II β subunit is important for efficient glucose trimming

Glycobiology **19**, 1127-1135 (2009)

Maho Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Hiroaki Sasakawa, Naoki Yamamoto, Katsuhiko Yanagisawa, and Koichi Kato

Up-and-down topological mode of amyloid β -peptide lying on hydrophilic/hydrophobic interface of ganglioside clusters

Glycoconjugate J. **26**, 999-1006 (2009)

Masaaki Sugiyama, Eiji Kurimoto, Yukio Morimoto, Hiroki Sahashi, Eri Sakata, Kei Hamada, Keiji Itoh, Kazuhiro Mori, Toshiharu Fukunaga, Yasuhumi Minami, and Koichi Kato

Assembly state of proteasome activator 28 in an aqueous solution as studied by small-angle neutron scattering

J. Phys. Soc. Jpn. **78**, 124802 (2009)

Seiji Okazaki, Atsuo Suzuki, Tsunehiro Mizushima, Takashi Kawano, Hidenobu Komeda, Yashuhisa Asano, and Takashi Yamane

The novel structure of a pyridoxal 5'-phosphate-dependent fold-type I racemase, alpha-amino-epsilon-caprolactam racemase from *Achromobacter obae*

Biochemistry. **48**(5), 941-950. (2009)

Sayaka Masada, Kazuyoshi Terasaka, Yukie Oguchi, Seiji Okazaki, Tsunehiro Mizushima, and Hajime Mizukami

Functional and structural characterization of a flavonoid glucoside 1,6-glucosyltransferase from *Catharanthus roseus*

Plant Cell Physiol. **50**(8), 1401-1415. (2009)

Kazuya Nishio, Sang-Woo Kim, Kentaro Kawai, Tsunehiro Mizushima, Takashi Yamane, Jun Hamazaki, Shigeo Murata, Keiji Tanaka, and Yukiko Morimoto

Crystal structure of the deubiquitinating enzyme UCH37 (human UCH-L5) catalytic domain

Biochem Biophys Res Commun., **390**, 855-860. (2009)

(総説・著書・総合論文など)

加藤晃一

核磁気共鳴 (NMR) でわかる糖鎖のはたらき

第3の生命線 糖鎖の謎が今、解る (古川鋼一編)、クバプロ、158-167(2009)

神谷由紀子, 加藤晃一

糖鎖認識を介した糖タンパク質の細胞内運命の決定機構

生物物理, **49**, 62-69(2009)

矢木-内海真穂, 加藤晃一

超高磁場NMR分光法と多次元HPLC法による構造糖鎖生物学への体系的アプローチ

化学と生物, **47**, 261-268(2009)

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Reiko Urade, Tadashi Suzuki, and Koichi Kato

Sophisticated modes of sugar recognition by intracellular lectins involved in quality control of glycoproteins

Glycobiology Research Trends (G.Powell and O.McCabe ed.), NOVA Publishers (New York), pp.27-40 (2009)

Hirokazu Yagi and Koichi Kato

Multidimensional HPLC mapping method for the structural analysis of anionic *N*-glycans

Trends Glycosci. Glycotech., **21**, 95-104 (2009)

加藤晃一, 坂田絵理, 矢木宏和

第22章 分子細胞生物学の研究手法の多様性-3

—構造生物学：低温電子顕微鏡法，X線結晶構造解析，NMR分光法—

医学のための細胞生物学 (永田和宏, 塩田浩平編), 南山堂, pp.261-265 (2009)

Koichi Kato

Preface for the Special Issue Entitled "Multi-dimensional HPLC Mapping Method".

Trends Glycosci. Glycotech., **21**, 49-51 (2009)

(学会発表)

Koichi Kato 【招待講演】

A systematic approach for structural glycobiology

96th Indian Science Congress. 2009年1月6日 (Shillong) .

加藤晃一, 山口拓実, 神谷由紀子 【招待講演】

超高磁場 NMR によるタンパク質・複合糖質の動的高次構造解析

新学術領域研究「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」第1回公開シンポジウム.

2009年1月6日 (京都) .

水島恒裕, 加藤晃一, 森本幸生, 田中啓二

巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構

平成20年度ターゲットタンパク研究プログラム公開シンポジウム. 2009年1月15日(東京) .

水島恒裕, 金相佑, 西尾和也, 佐伯泰, 加藤晃一, 森本幸生, 田中啓二

巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構 -26S プロテアソームの複合体形成機構とプロテアソーム相互作用分子群の構造解析-

平成20年度ターゲットタンパク研究プログラム公開シンポジウム. 2009年1月15日(東京) .

Yoshiki Yamaguchi

Structural analysis of large glycoproteins by NMR

RIKEN Joint Retreat 2009. 2009年1月21-22日 (熱海) .

Koichi Kato 【招待講演】

NMR (Chemistry/Biochemistry)

3rd Annual Symposium of Japanese-French Frontier of Science .

2009年1月24-26日 (Shonan Village) .

Koichi Kato 【招待講演】

Structural glycomics by ultra-high field NMR and sugar library approaches

Bangladesh Chemical Congress 2008. 2009年1月30日 (Dhaka) .

Koichi Kato 【招待講演】

NMR and sugar library approaches to structural glycobiology

Academia Sinica Lecture . 2009年2月23日 (Taipei) .

Koichi Kato 【招待講演】

NMR approaches to structural glycobiology

Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences – Experiments and Simulations.

2009年2月28日 (韓国、ソウル) (Korea Institute for Advanced Study) .

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Miho Nishio, and Koichi Kato 【招待講演】

Molecular basis of fate-determination of glycoproteins governed by the sugar-recognizing proteins in cells

Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences – Experiments and Simulations.

2009年2月28日 (韓国、ソウル) (Korea Institute for Advanced Study) ; S06-2.

Maho Yagi, Yoshiki Yamaguchi, Hiroaki Sasakawa, Naoki Yamamoto, Katsuhiko Yanagisawa, and Koichi Kato 【招待講演】

Ultra-high field NMR analyses of amyloid β -peptide lying on hydrophilic/hydrophobic interface of GM1 micelles

Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences – Experiments and Simulations.
2009年3月1日（韓国、ソウル）（Korea Institute for Advanced Study）；S09-2.

雨宮瑛子【依頼講演】

味覚修飾タンパク質クルクリンの構造機能研究と産業応用

NPO バイオものづくり中部 糖鎖分科会「シリアルラクトースの産業展開を目指して」.
2009年3月2日（名古屋）.

Koichi Kato

Beyond omics

Fourth Japanese-French Frontiers of Science (JFFoFS) Interim Planning Group Meeting.
2009年3月6日（Paris）.

内海真穂, 山口芳樹, 笹川拓明, 山本直樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

GM1 クラスタに横たわるアミロイド β ペプチドのトポロジーの超高磁場 NMR 解析

中部地区ナノテク総合支援：ナノ材料創製加工と先端機器分析 平成20年度成果報告会.
2009年3月5日（名古屋）；P-33.

Koichi Kato 【招待講演】

Stable-isotope-assisted structural analyses of post-translationally diversified proteins

ATI International Forum 2009 “Protein Structure Determination and Applications”.
2009年3月10日（東海）.

Koichi Kato 【依頼講演】

Ultra-high field NMR approaches to dynamical structures of proteins hard to deal with

Joint International Open Symposium Molecular Science of Fluctuations toward Biological
Functions and Chemistry of Biological Processes Created by Water and Biomolecules.
2009年3月17日（岡崎）.

Maho Yagi-Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Hiroaki Sasakawa, Naoki Yamamoto, Katsuhiko Yanagisawa, and Koichi Kato

Up-and-down topological mode of amyloid β -peptide lying on hydrophilic/hydrophobic interface of GM1 micelles

新学術領域研究「揺らぎと生体機能」第2回公開シンポジウム.
2009年3月17日（岡崎）；P-078.

水島恒裕

巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構

ターゲットタンパク研究プログラム基本生命 WG 班会議. 2009年3月19日（熱海）.

加藤晃一【招待講演】

原始の囁きに耳を澄まし、分子の生き様を見る

第7回 自然科学研究機構シンポジウム“科学的発見とは何か「泥沼」から突然「見晴らし台」へ” 東京国際フォーラム.2009年3月20日(東京).

大野恵里菜, 矢木宏和, 高橋禮子, 加藤晃一

HPLC マップ法による O 型糖鎖の構造解析法の開発と応用

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都); 26I-am05.

諸原 理, 藤田大士, 佐藤宗太, 山口芳樹, 栗本英治, 山口拓実, 加藤晃一, 藤田 誠
残余双極子相互作用を誘起する磁場配向性錯体

日本化学会第 89 春季年会. 2009 年 3 月 27 日 (船橋); 1K1-20.

藤田大士, 鈴木康介, 佐藤宗太, 山口芳樹, 栗本英治, 山口拓実, 加藤晃一, 藤田 誠
M12L24 球状錯体内部への同位体標識化ユビキチンの内包

日本化学会第 89 春季年会. 2009 年 3 月 28 日 (船橋); 2E2 -13.

山口拓実, 加藤晃一

配位結合を利用した糖鎖の簡便な集積化法の開発

日本化学会第 89 春季年会. 2009 年 3 月 29 日 (船橋); 3PA-150.

山本雅洋, 山口拓実, 矢木宏和, Mate Erdélyi, Christian Griesinger, 加藤晃一

糖鎖の NMR 構造解析のための常磁性タグ修飾

日本化学会第 89 春季年会. 2009 年 3 月 29 日 (船橋); 3PA-155.

花島慎弥, 末武徹也, 加藤晃一, 山口芳樹

¹³C-NMR の同位体シフト効果を用いた糖鎖の水素結合観測への試み

日本農芸化学会 2009 年度大会. 2009 年 3 月 29 日 (福岡); 3P1279A.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 村田茂穂, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一【優秀発表賞受賞】

26S プロテアソーム構築シャペロン Dmp1/2 の構造及び機能解析

生物物理学会 中部支部講演会. 2009 年 3 月 31 日 (名古屋); P-7.

加藤晃一【招待講演】

多次元 HPLC 法および NMR 法による糖鎖解析技術

抗体/バイオ医薬品開発に向けた分析手法・バリデーション. 2009 年 4 月 23 日 (東京).

金 相佑, 佐伯 泰, 鈴木淳巨, 高木賢治, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一, 水島恒裕

プロテアソーム結合タンパク質 Rpn14 の X 線結晶構造解析

第 9 回日本蛋白質科学会年会. 2009 年 5 月 21 日 (熊本); 2P-030.

西尾和也, 佐伯 泰, 水島恒裕, 河合健太郎, 金 相佑, 山根 隆, 濱崎 純, 村田茂穂, 加藤晃一, 田中啓二, 森本幸生

脱ユビキチン化酵素 UCH37 の結晶学的研究

第 9 回日本蛋白質科学会年会. 2009 年 5 月 21 日 (熊本); 2P-031.

加藤晃一【招待講演】

タンパク質による糖鎖認識のダイナミクス

第9回日本蛋白質科学会年会. 2009年5月22日(熊本); 3WA-4.

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻壮市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, 加藤晃一

【奨励賞受賞】

糖タンパク質の輸送に関わるレクチン型カーゴレセプターERGIC-53およびCa²⁺結合型タンパク質 MCFD2の相互作用様式の構造解析

日本生化学会 中部支部例会・シンポジウム. 2009年5月23日(名古屋); P-14.

Cielo Charles B. C., Seiji Okazaki, Atsuo Suzuki, Tsunehiro Mizushima, Ryoji Masui, Seiki Kuramitsu, Takashi Yamane

Structure of st0929, a putative glycosyl transferase from *Sulfolobus tokodaii*

日本生化学会 中部支部例会・シンポジウム. 2009年5月23日(名古屋); P-38.

Nobuko Hosokawa, Ikuo Wada, Yukiko Kamiya, Koichi Kato, Kazuhiro Nagata

Quality control of glycoproteins by lectins in the endoplasmic reticulum

第61回日本細胞生物学会年会. 2009年6月2-4日(名古屋).

金 相佑【依頼講演】

X線を用いた生体高分子の構造解析

第107回薬学談話会. 2009年6月3日(名古屋).

Koichi Kato【招待講演】

Structural and molecular basis of glycoprotein-fate determination in cells

Seminare am Biozentrum . 2009年6月17日(Basel) .

Koichi Kato【招待講演】

Structural glycobiology by NMR and sugar library approaches

Seminar at ETH . 2009年6月19日(Zürich) .

Daishi Fujita, Kosuke Suzuki, Sota Sato, Yoshiki Yamaguchi, Eiji Kurimoto, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato, Makoto Fujita

Encapsulation of ubiquitin into a self-assembled coordination sphere

ISMSC2009. 2009年6月21-25日(Maastricht) .

Osamu Morohara, Daishi Fujita, Sota Sato, Yoshiki Yamaguchi, Eiji Kurimoto, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato, Makoto Fujita

Magnetically oriented complexes to induce residual dipolar coupling

ISMSC2009. 2009年6月21-25日(Maastricht) .

Aya Maeno, Michiko Nakano, Yukiko Kamiya, Olivier Serve, Hiroaki Sasakawa, Kenji Inaba, Eiji Kurimoto, Koichi Kato, Tsutomu Kajino, Masayoshi Nakasako

Redox-dependent domain rearrangement of protein disulfide isomerase coupled with exposure of its substrate-binding hydrophobic surface

EUROMAR 2009. 2009年7月8日(Sweden) .

Takumi Yamaguchi, Masahiro Yamamoto, Sayoko Yamamoto, Hirokazu Yagi, Mate Erdelyi, Christian Griesinger, Koichi Kato

Introduction of a paramagnetic tag for NMR conformational analysis of oligosaccharides
EUROMAR 2009. 2009 年 7 月 8 日 (Sweden) .

加藤晃一【招待講演】

構造グライコミクスの産業展開
理研 NMR 利用者懇談会 第 2 回総会・講演会. 2009 年 7 月 9 日 (横浜) .

栗本英治, 佐橋広紀, 坂田絵理, 岡本健太, 南 康文, 杉山正明, 加藤晃一
中性子小角散乱を用いたプロテアソーム構成タンパク質の動的な高次構造解析
第 55 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2009 年 7 月 11 日 (名古屋) ; B-2.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 村田茂穂, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一
26S プロテアソーム構築シャペロン Dmp1/2 の構造および機能解析
第 55 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2009 年 7 月 11 日 (名古屋) ; B-17.

加藤晃一【招待講演】

アミロイドβとガングリオシドクラスターの相互作用の超高磁場 NMR 解析
大阪大学蛋白質研究所セミナー「蛋白質立体構造を基盤とするプリオン現象の解明と制御」.
2009 年 7 月 13 日 (吹田) .

加藤晃一【招待講演】

糖鎖構造解析の体系的戦略：プロファイリングから 3 次元構造解析まで
「糖鎖新技術が開拓する未踏のバイオ分野とバイオシミラー」
2009 分析展 JAIMA コンファレンス. 2009 年 9 月 4 日 (幕張) .

鹿内俊秀, 新聞陽一, 鈴木芳典, 藤田典昭, 梶 裕之, 佐藤 隆, 梶谷内晶, 亀山昭彦, 館野浩章, 平林 淳, 奥田修二郎, 川崎敏祐, 高橋禮子, 加藤晃一, 古川鋼一, 八杉悦子, 西島正弘, 木下聖子, 西原祥子, 山田一作, 水野真盛, 白井 孝, 加藤雅樹, 山口芳樹, 萩谷恵里子, 吉田圭一, 谷口直之, 成松久
日本糖鎖科学コンソーシアムのデータベース
第 27 回日本糖質学会年会. 2009 年 9 月 10 日 (高山) ; p-091.

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻壮市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, 加藤晃一
糖タンパク質の細胞内輸送に関わる ERGIC-53 と MCFD2 の相互作用の構造基盤
第 27 回日本糖質学会年会. 2009 年 9 月 11 日 (高山) ; a4-02.

加藤晃一【依頼講演】

NMR を利用したタンパク質・複合糖質の揺らぎの検出とその機能連関の探査
新学術領域研究「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」平成 21 年度合同班会議.
2009 年 9 月 12 日 (阿蘇) .

仁科拓也, 石切山元希, 加藤竜也, 宇野 剛, 矢木宏和, 加藤晃一, 上田 宏, 朴 龍洙
カイコ幼虫を宿主としたヒト分子シャペロンの共発現によるヒト由来抗体の効率的発現
Efficient expression of human antibody using coinjection with BmNPV bacmid coding human chaperone in silkworm larvae
第 61 回日本生物工学会大会. 2009 年 9 月 23 日 (名古屋) ; 1Kp20.

百嶋 崇, 仁科拓也, 加藤竜也, 宇野 剛, 矢木宏和, 加藤晃一, 朴 龍洙
カイコ幼虫および昆虫細胞で生産したヒト β 1,3N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼ 2(β 3GnT2)の糖鎖解析

第 61 回日本生物工学会大会. 2009 年 9 月 23 日 (名古屋); 1Kp21.

矢木-内海真穂, 山口芳樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

NMR によるアミロイド β ペプチドと GM1 ガングリオシドクラスターとの相互作用解析

糖鎖名古屋拠点 第 7 回「若手の力」フォーラム. 2009 年 9 月 30 日 (名古屋); O-3(A).

山本さよこ, 山口拓実, 山本雅洋, 矢木宏和, Erdelyi Mate, Griesinger Christian, 加藤晃一
NMR による糖鎖の立体構造解析への常磁性タグの応用

糖鎖名古屋拠点 第 7 回「若手の力」フォーラム. 2009 年 9 月 30 日 (名古屋); P-3.

宇野 剛, 矢木真穂, 山口拓実, 加藤晃一

GM1 含有小型バイセルの調整

糖鎖名古屋拠点 第 7 回「若手の力」フォーラム. 2009 年 9 月 30 日 (名古屋); P-4.

水島恒裕, 熊埜御堂太一, 鈴木淳巨, 山根 隆, 加藤晃一

ユビキチンリガーゼによる糖タンパク質品質管理における糖鎖認識機構の解析

糖鎖名古屋拠点 拠点共同研究報告会. 2009 年 9 月 30 日 (名古屋); OR-3.

加藤晃一【招待講演】

免疫グロブリン Fc 領域を舞台とする構造生物学

よこはま NMR 構造生物学研究会第 38 回ワークショップ「抗体医薬」.
2009 年 10 月 6 日 (横浜).

加藤晃一【招待講演】

糖鎖構造生物学の体系的戦略と産業展開

千里ライフサイエンス新適塾「未来創薬への誘い」第 8 回会合. 2009 年 10 月 21 日 (豊中).

Maho Yagi-Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato

NMR analyses of interaction mode of amyloid β -peptide with GM1 ganglioside clusters

3^{rd} APNMR (Biannual Asia-Pacific NMR Symposium) 35th KMRS Joint Conference.
2009 年 10 月 26 日 (Jeju-City); PD13.

Koichi Kato【招待講演】

Structural glycobiology by NMR and sugar library approaches

3^{rd} APNMR (Biannual Asia-Pacific NMR Symposium) 35th KMRS Joint Conference.
2009 年 10 月 27 日 (Jeju-City); IL-T1-4.

Ryo Kitahara, Takashi Hirano, Maho Yagi, Tsunehiro Mizushima, Kazumi Hata, Kazuyuki Akasaka, Koichi Kato

高圧 NMR による di-ubiquitin の構造揺らぎ

Confirmational fluctuation of di-ubiquitin studies by variable pressure NMR spectroscopy

第 47 回日本生物物理学会年会. 2009 年 10 月 31 日 (徳島); 2TA1-04.

Eiji Kurimoto, Hiroaki Sahashi, Eri Sakata, Kenta Okamoto, Yasufumi Minami, Masaaki

Sugiyama, Koichi Kato

重水素標識を利用した中性子小核散乱法によるプロテアソーム構成タンパク PA28 および $\alpha 7$ サブユニットの溶液構造解析

Solution structural analyses of PA28 and $\alpha 7$ subunit of the 20S proteasome by SANS in conjunction with deuterium labeling techniques

第 47 回日本生物物理学会年会. 2009 年 10 月 31 日 (徳島) ; 3P-071.

近藤幸子

“核酸、タンパク質に次ぐ第三の生命鎖「糖鎖」の構造解析”

名工大・名市大合同テクノフェア 2009. 2009 年 11 月 4 日 (名古屋) .

佐藤宗太, 諸原 理, 山口芳樹, 加藤晃一, 藤田 誠

磁場配向性錯体による残余双極子相互作用の誘起

Induction of residual dipole couplings by magnetically aligned coordination complexes

第 48 回 NMR 討論会. 2009 年 11 月 10 日 (福岡) ; 1L2.

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻壮市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, 加藤晃一

糖タンパク質の小胞体ーゴルジ体間の輸送を司る積荷輸送装置の構造生物学解析

特定領域研究「タンパク質の社会」2009 年度班会議. 2009 年 11 月 12 日 (伊賀) ; P-17.

加藤晃一【依頼講演】

糖鎖によるタンパク質社会の秩序維持

Glyco TOKYO 2009 シンポジウム. 2009 年 11 月 14 日 (東京) .

Koichi Kato【招待講演】

糖鎖構造生物学の戦略的研究手法の開発と応用

Development and application of strategic methodology of structural glycobiology

2009 年度 第 8 回統合バイオサイエンスシンポジウム. 2009 年 11 月 17 日 (つま恋) .

Takumi Yamaguchi

機能性タグによる糖鎖の化学修飾と構造解析への応用 :

Chemical modifications for conformational analyses of oligosaccharides

2009 年度 第 8 回統合バイオサイエンスシンポジウム. 2009 年 11 月 17 日 (つま恋) ; P-33.

Yukiko Kamiya

糖タンパク質の品質管理を担う細胞内レクチンの分子認識 :

Molecular recognition by intracellular lectins that govern fate-determination of glycoproteins

2009 年度 第 8 回統合バイオサイエンスシンポジウム. 2009 年 11 月 17 日 (つま恋) ; P-34.

宇野 剛, 矢木真穂, 山口拓実, 加藤晃一

GM1 ガングリオシドを含有した小型バイセルの調製

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009 年 11 月 23 日 (四日市) ; C-21.

山本さよこ, 山口拓実, 山本雅洋, 矢木宏和, Erdelyi Mate, Griesinger Christian, 加藤晃一
常磁性タグを用いた糖鎖の NMR による立体構造解析法の開発

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009年11月23日(四日市); C-22.

加藤晃一【招待講演】

超高磁場核磁気共鳴で見えてきた！役割分担として働く“社会人”タンパク質
日本科学未来館シンポジウム. 2009年11月28日(台場) .

Koichi Kato【招待講演】

Stable-isotope-assisted NMR approaches to structural glycomics
20th International Symposium on Glycoconjugates. 2009年11月30日(San Juan) .

水島恒裕, 金 相佑, 佐伯 泰, 田中啓二, 加藤晃一

プロテアソーム制御因子複合体形成シャペロンのX線結晶構造解析
特定領域研究「生体超分子構造」第6回公開シンポジウム. 2009年12月1-2日(千里); P-62.

Olivier Serve, Yukiko Kamiya, Michiko Nakano, Maho Yagi- Utsumi, Masayoshi Nakasako, Koichi Kato

Consequences of redox state modifications on the structure and the dynamics of protein disulfide isomerase

SOKENDAI Asian Winter School 2009. 2009年12月2日(岡崎); P027.

Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Masahiro Yamamoto, Hirokazu Yagi, Mate Erdélyi, Christian Griesinger, Koichi Kato

Development of NMR conformational analysis methods for oligosaccharides by using paramagnetic metal ions

SOKENDAI Asian Winter School 2009. 2009年12月2日(岡崎); P028.

金 相佑, 佐伯 泰, 鈴木淳巨, 高木賢治, 山根 隆, 田中啓二, 水島恒裕, 加藤晃一

プロテアソーム19S制御因子シャペロンRpn14のX線結晶構造解析
日本結晶学会 2009年度年会. 2009年12月5日(西宮); OC-I-05.

平野貴志, 矢木真穂, 水島恒裕, 北原 亮, 加藤晃一

NMR法を用いたダイユビキチンの動的構造解析
Dynamics of di-ubiquitin as studied by NMR spectroscopy
第32回日本分子生物学会年会. 2009年12月9日(横浜); 1P-0912.

向笠勝貴, 李 麗, 矢木宏和, 辻田忠志, 加藤晃一, 山本雅之, 小林麻己人

A zebrafish model for human congenital disorder of glycosylation
第32回日本分子生物学会年会. 2009年12月12日(横浜); 4P-0395.

Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Masahiro Yamamoto, Hirokazu Yagi, Mate Erdélyi, Christian Griesinger, Koichi Kato

Development of NMR methods for structural analyses of oligosaccharides by using paramagnetic tags
The 4th Winter School of JSPS Asian CORE Program for Frontiers of Materials, Photo-, and Theoretical Molecular Sciences. 2009年12月13日~16日(Seoul, Korea) .

矢部宇一郎

HPLC mapping法による糖鎖解析

Dialogue 創薬イノベーションフォーラム 2009. 2009 年 12 月 15 日 (東京) .

山口芳樹

NMR 構造生物学に基づいた薬物相互作用の解析と神経変性疾患への治療応用

平成 21 年度 特定領域研究「統合脳」5 領域 合同領域班会議. 2009 年 12 月 18 日 (東京) .

Olivier Serve, Yukiko Kamiya, Aya Maeno, Michiko Nakano, Chiho Murakami, Hiroaki Sasakawa, Yoshiaki Yamaguchi, Takushi Harada, Eiji Kurimoto, Maho Yagi-Utsumi, Tsuyoshi Iguchi, Kenji Inaba, Jun Kikuchi, Osamu Asami, Tsutomu Kajino, Toshihiko Oka, Masayoshi Nakasako, Koichi Kato

Bridging the sulfides: A study on the redox dependency of protein disulfide isomerase structure and dynamics

新学術領域研究「揺らぎと生体機能」第 3 回公開シンポジウム. 2009 年 12 月 20 日 (名古屋) .

高木賢治

酵母 20S プロテアソーム複合体形成を補助するシャペロン分子 Dmp1/2 の構造、機能解析

特定領域研究「タンパク質分解」2009 年度班会議 . 2009 年 12 月 21 日 (長浜) ; ポスター 47.

水島恒裕

プロテアソーム複合体構築に関するシャペロンタンパク質の構造解析

特定領域研究「タンパク質分解」2009 年度班会議 . 2009 年 12 月 22 日 (長浜) ; 口頭 44.

栗本英治

ユビキチン-E2 複合体の構造機能解析

特定領域研究「タンパク質分解」2009 年度班会議 . 2009 年 12 月 22 日 (長浜) ; 口頭 51.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural basis for the functional mechanisms of the proteins involved in the ubiquitin-proteasome system

第 2 回日韓生体分子科学セミナー「実験とシミュレーション」.

2009 年 12 月 23 日 (名古屋) .

【分子生物薬学分野】

(原報)

Makoto Nishizuka, Keishi Kishimoto, Ayumi Kato, Masahito Ikawa, Masaru Okabe, Ryuichiro Sato, Hiroyuki Niida, Makoto Nakanishi, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

Disruption of the novel gene *fad104* causes rapid postnatal death and attenuation of cell proliferation, adhesion, spreading and migration.

Exp. Cell Res., **315**, 809-819 (2009).

Tomoaki Hishida, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

The role of C/EBPdelta in the early stages of adipogenesis.

Biochimie, **91**, 654-657 (2009).

Yoshikazu Johmura, Kayoko Watanabe, Keishi Kishimoto, Takashi Ueda, Shoichi Shimada, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

Fad24 causes hyperplasia in adipose tissue and improves glucose.

Biol. Pharm. Bull., **32**, 1656-1664 (2009).

Masae Ohno, Masaaki Kunimoto, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, Masayoshi Imagawa.

Ku proteins function as corepressors to regulate farnesoid X receptor-mediated gene expression.

Biochem. Biophys. Res. Commun., **390**, 738-742 (2009).

(特許申請)

登 録 日 : 平成 21 年 4 月 8 日

出 願 番 号 : EP 1 462 518 B1

名 称 : Adipocyte differentiation-associated gene and protein (欧州特許)

発 明 者 : Masayoshi Imagawa and Yuichi Oku.

(学会発表)

長田茂宏, 由良隆行, 前田誠, 橋爪博司, 今川正良

肝前がん病変において発現上昇するヒストン脱アセチル化酵素の解析

第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 26 日 (京都) ; 26Q-pm150.

大野雅恵, 国本真明, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

核内受容体に相互作用する因子が FXR を介した遺伝子発現に与える影響

第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27G-am12.

藤田真由, 大野雅恵, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

核内受容体 TR α と相互作用する因子の機能解析

第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27G-am13.

岸本圭史, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化および出生直後の生命機能維持に必須である fad104 の機能解析
第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27K-am13.

林孝弘, 野崎友里子, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良
脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子 fad158 ホモ欠損マウスの表現系の解析
第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm188.

西塚誠, 加子順子, 岸本圭史, 長田茂宏, 今川正良
fad104 ヘテロ欠損は体重増加ならびにインスリン抵抗性を抑制する
第 129 年会 日本薬学会 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28J-am09.

岸本圭史, 西塚誠, 加藤愛友美, 長田茂宏, 今川正良
ノックアウトマウスを用いた新規遺伝子 fad104 の機能解析
第 73 回 日本生化学会中部支部例会 2009 年 5 月 23 日 (名古屋); 27.

今川正良【シーズ発表会】
脂肪細胞分化に着目した新たな肥満治療薬および肥満予防薬の開発
第 8 回国際バイオフィォラム 2009 年 7 月 2 日 (東京)

大仲優希, 河路淳子, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良
gelsolin が脂肪細胞分化に与える影響
第 55 回 日本薬学会東海支部大会 2009 年 7 月 11 日 (名古屋); C-21.

吉見千明, 今川正良, 長田茂宏
ヒストンメチル化酵素 CARM1 が腫瘍マーカーの発現制御に与える影響の解析
第 55 回 日本薬学会東海支部大会 2009 年 7 月 11 日 (名古屋); E-15.

Masae Ohno, Masaaki Kunimoto, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.
Ku proteins interact with farnesoid X receptor and function as corepressors.
21th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 12th FAOBMB
Congress 2009 年 8 月 3, 4 日 (Shanghai, China); A-4-025.

Keishi Kishimoto, Makoto Nishizuka, Ayumi Kato, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.
The novel gene fad104 is indispensable for lung development and is crucial for cell proliferation, adhesion, migratio and cytoskeletal organization.
21th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 12th FAOBMB
Congress 2009 年 8 月 5, 6 日 (Shanghai, China); C-8-005.

Shigehiro Osada, Takayuki Yura, Makoto Maeda, Hiroshi Hashizume, and Masayoshi Imagawa.
Enhancement of anchorage-independent growth by histone deacetylase 9.
21th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 12th FAOBMB
Congress 2009 年 8 月 5, 6 日 (Shanghai, China); D-2-038.

Makoto Nishizuka, Junko Kako, Keishi Kishimoto, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

Heterozygous knock out of fad104 gene reduces body weight gain and increases glucose metabolism.
21th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 12th FAOBMB
Congress 2009 年 8 月 5, 6 日 (Shanghai, China); D-8-024.

Atsuko Kawaji, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa
RGS2, TCL/TC10betaL and fad104 promote mitotic clonal expansion at the early stage of adipocyte
differentiation.
21th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 12th FAOBMB
Congress 2009 年 8 月 5, 6 日 (Shanghai, China); D-8-027.

岸本圭史, 西塚誠, 加藤愛友美, 長田茂宏, 今川正良
脂肪細胞分化ならびに出生直後の生命維持に重要である fad104 の機能解析
第 14 回アディポサイエンス研究会シンポジウム 2009 年 8 月 22 日 (大阪) ; P-17.

長田茂宏【依頼講演】
肝前がん病変において発現変化するクロマチン関連因子の解析
教育研究高度化のための支援体制整備事業「Cancer Seminar」2009 年 10 月 15 日 (名古屋)

長田茂宏【シンポジウム】
肝化学発がん過程において発現上昇するヒストン修飾因子の機能解析
第 82 回 日本生化学会大会 2009 年 10 月 24 日 (神戸) ; 4S14p-4.

岸本圭史, 西塚誠, 加藤愛友美, 長田茂宏, 今川正良
脂肪細胞分化に重要な fad104 は出生直後の生命維持に必須である
第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 24 日 (神戸) ; 2P-749.

大野雅恵, 国本真明, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良
核内受容体 FXR を介した遺伝子発現に Ku タンパク質が与える影響
第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 24 日 (神戸) ; 4P-236, 4T5p-1.

長田茂宏【依頼講演】
肝化学発がん過程において発現上昇するクロマチン関連因子の解析
名古屋市立大学大学院医学研究科実験病態病理学分野セミナー 2009 年 10 月 28 日 (名古屋)

大野雅恵, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良
核内受容体と相互作用する Ku タンパク質の転写共役因子としての機能解析
衛生化学・環境トキシコロジー 2009 年 11 月 6 日 (沖縄) ; O11-1.

大野雅恵, 駒木根潤, 鈴木英子, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良
核内受容体 liver receptor homologue-1 (LRH-1) と相互作用する因子の解析
第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィオーラム 2009 2009 年 11 月 14 日 (名古屋) ; A14.

吉見千明, 今川正良, 長田茂宏
化学発がん過程で発現上昇するヒストンメチル化酵素 CARM1 がプロモーター活性制御に与
える影響の解析
第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィオーラム 2009 2009 年 11 月 14 日 (名古屋) ; A17.

岸本圭史, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化に重要である fad104 の肺発生における役割

第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2009 2009 年 11 月 14 日 (名古屋) ; B12.

加藤愛友美, 岸本圭史, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

Mouse embryonic fibroblasts (MEF) を用いた fad104 の機能解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009 年 11 月 23 日
(四日市) ; E-23.

伊佐憲吾, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

TCL/TC10 β L ノックアウトマウスの樹立と機能解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009 年 11 月 23 日
(四日市) ; E-24.

吉見千明, 今川正良, 長田茂宏

ヒストンメチル化酵素 CARM1 が腫瘍マーカーのプロモーター活性に与える影響の解析

第 32 回 日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 11 日 (横浜) ; 3P-0219.

河路淳子, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

RGS2, TCL/TCL β L and fad104 promote adipocyte deifferentiation via the regulation of mitotic clonal expansion.

第 32 回 日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 12 日 (横浜) ; 4P-0622.

【薬物送達学分野】

(原報)

Kei Serena Tongiani, Tetsuya Ozeki, and Valentino J. Stella

Sulfobutyl ether-alkyl ether mixed cyclodextrin derivatives with enhanced inclusion ability.

J. Pharm. Sci., **98**, 4769-4780 (2009).

Katsuya Ohashi, Takahiro Kabasawa, Tetsuya Ozeki, and Hiroaki Okada

One-step preparation of rifampicin/poly(lactic-co-glycolic acid) nanoparticles-containing mannitol microspheres using a four-fluid nozzle spray drier for inhalation therapy of tuberculosis.

J. Control. Release, **135**, 19-24 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

尾関哲也

ナノ粒子含有マイクロ粒子の調製と吸入剤への適用

「Drug Delivery System」 24(5), 日本 DDS 学会 pp484-494, (2009) .

森下真莉子, 佐久間信至, 尾関哲也, 川上亘作

日本薬剤学会 (APSTJ) ニュース 25 座談会 経口吸収フォーカスグループの活動を探る

「PHARM TECH JAPAN」 25(10), じほう pp55-61, (2009) .

尾関哲也

アンチソルベントナノ粒子

「機能性 DDS キャリアの製剤設計」 岡田弘晃監修, シーエムシー出版 pp82-92, (2009) .

(学会発表)

樺澤尚宏, 渡辺悦也, 尾関哲也, 岡田弘晃

結核治療用マンノース修飾 PLGA ナノ粒子の設計と肺胞マクロファージへの取り込み

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) .

秋山佑介, 齋藤由里, 尾関哲也, 岡田弘晃

Anti-solvent 効果を利用した新規スプレーノズルによる薬物ナノ粒子の設計と水溶性ポリマー添加による粒子径及び吸収性への影響

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) .

樺澤尚宏, 尾関哲也, 岩崎泰憲, 鈴木寧真, 吉田一平, 三宅正紀, 今井康之, 岡田弘晃

リファンピシン/PLGA ナノ粒子含有マンニトールマイクロスフェアの設計と肺胞マクロファージ内寄生菌に対する抗菌効果

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都) .

岡本浩一, 尾関哲也, 山下親正, 石関一則

経肺投与製剤 FG ミッションと活動計画

日本薬剤学会第 24 回年会. 2009 年 5 月 22 日 (静岡) .

田中 晃, 樺澤尚宏, 池田圭孝, 渡辺悦也, 金沢貴憲, 尾関哲也, 岡田弘晃

ラットにおけるフルスルチアミン投与後の代謝物の動態

日本薬剤学会第 24 回年会. 2009 年 5 月 22 日 (静岡) .

今井義弘, 滝 洋幸, 尾関哲也, 岡田弘晃

ラット脳腫瘍における腫瘍摘出部位に投与した Vincristine 硫酸塩徐放剤の治療効果

日本薬剤学会第 24 回年会. 2009 年 5 月 22 日 (静岡) .

秋山佑介, 尾関哲也, 藤井正嗣, 岡田弘晃

新規スプレーノズルを利用したナノ粒子へのコーティング

日本薬剤学会第 24 回年会. 2009 年 5 月 23 日 (静岡) .

森下真莉子, 佐久間信至, 尾関哲也, 川上亘作, 迫 和博

経口吸収 FG のミッション、活動報告と将来計画

日本薬剤学会第 24 回年会. 2009 年 5 月 23 日 (静岡) .

尾関哲也, 岡田弘晃【招待講演】

経肺投与ナノ粒子製剤の設計

第 25 回日本 DDS 学会学術大会 ワークショップ. 2009 年 7 月 4 日 (東京) .

Tetsuya Ozeki

Malignant Brain Tumor Therapy in Rats Using Cell Penetration Peptide-Tumor Suppressor Peptide Fusion Peptide, p53p-Ant, Microspheres.

17th International Symposium on Microencapsulation. 2009 年 9 月 29 日 (Aichi, Japan) .

尾関哲也

より有効な薬の形 (剤形) を考える

平成 21 年度市民公開講座 第 2 講座 ～21 世紀の薬物治療 :
薬の服用から効き目がでるまでを科学する～. 2009 年 11 月 7 日 (愛知) .

Tetsuya Ozeki, Yusuke Akiyama, Masashi Fujii, and Hiroaki Okada

Preparation of Drug Nanoparticles Dispersed in Microspheres in One-step Using an Original Spray Nozzle to Enhance Its Oral Absorption.

2009 AAPS Annual Meeting and Exposition. 2009 年 11 月 12 日 (Los Angeles, USA) .

久保田 彩, 秋山佑介, 斎藤友里, 岡田弘晃, 田中俊幸, 藤井正嗣, 尾関哲也

固体分散体ナノ粒子含有マンニトールマイクロ粒子の設計

粉体工学会 第 26 回製剤と粒子設計シンポジウム. 2009 年 11 月 26-27 日 (広島) .

今井義寛, 滝 洋幸, 鈴木翔平, 飯村 諒, 岡田弘晃, 尾関哲也

ラット悪性脳腫瘍に対する Cisplatin 封入 PLGA マイクロスフェア及びがん抑制ペプチド p53p-Ant 封入 PLGA マイクロスフェアの併用局所投与による治療効果

粉体工学会 第 26 回製剤と粒子設計シンポジウム. 2009 年 11 月 26-27 日 (広島)

【生薬学分野】

(原報)

Sayaka Masada, Hajime Mizukami

Production of unnatural bioactive glycosides using plant secondary product glycosyltransferases

Heterocycles **77**: 645-655 (2009)

Hiroataka Yamashita, Daisuke Tasaki, Toshiaki Makino, Kunie Matsuoka, Mitsuhiko Nose, Naoki Inagaki, Hajime Mizukami

The role of IgE and repeated challenge in the induction of persistent increases in scratching behavior in a mouse model of allergic dermatitis

Eur. J. Pharmacol. **605**:153-157 (2009)

Hiroshi Yokoi, Hajime Mizukami, Akito Nagatsu, Takamasa Ohno, Hiroki Tanabe, Makoto Inoue

Peroxisome proliferator-activated receptor γ ligands isolated from adlay seed (*Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* STAPP.)

Biol. Pharm. Bull. **32**: 735-740 (2009)

Sayaka Masada, Kazuyoshi Terasaka, Yukie Oguchi, Seiji Okazaki, Tunehiro Mizushima, Hajime Mizukami

Functional and structural characterization of a flavonoid glucoside 1,6-glucosyltransferase from *Catharanthus Roseus*.

Plant. Cell. Physiol. **50**: 1401-1415 (2009)

Toshiaki Makino, Keita Kato, Hajime Mizukami

Processed aconite root prevents cold-stress-induced hypothermia and immuno-suppression in mice

Biol. Pharm. Bull. **32**: 1741-1748 (2009)

Toshiaki Makino, Ryosuke Shimizu, Misa Kanemaru, Yukio Suzuki, Masamitsu Moriwaki, Hajime Mizukami

Enzymatically modified isoquercitrin, α -oligoglucosyl quercetin 3-O-glucoside, is absorbed more easily than other quercetin glycosides or aglycone after oral administration in rats

Biol. Pharm. Bull. **32**: 2034-2040 (2009)

(総説・著書・総合論文など)

牧野利明

生薬・漢方薬、食品と西洋薬間の薬物相互作用 (その1)

神奈川県薬剤師会誌「薬壺」31(2): 2-6, 2009

牧野利明

生薬・漢方薬、食品と西洋薬間の薬物相互作用 (その2)

神奈川県薬剤師会誌「薬壺」31(3): 2-7, 2009

牧野利明

漢方薬学教育における「中薬学」の有用性

phil 漢方 No. 28: p. 20, 2009

野田敏宏、高市和之、中村峰夫、唐澤豪貴、岡本泰範、水野智、栗原智仁、牧野利明、平野剛、井関健

予防薬学を志向した保険薬局からの研究発信

薬学雑誌 219(12): 1469-1473, 2009

Takahiko Ono, Toshiaki Makino

Basic study and clinical practice of Kampo medicines in chronic kidney disease (CKD): chronic glomerulonephritis and nephrosclerosis

J. Trad. Med. **26**: 230-234, 2009

入江祥史、牧野利明

漢方・中医学講座－臨床生薬学編～生薬の生産から臨床応用まで

医歯薬出版、東京、2009

(学会発表)

牧野利明

ガンの補完代替医療について

愛知県薬剤師会障害教育研修会、2009年1月25日（名古屋）

牧野利明

60分でわかる漢方薬の使い方～第2回

桜山漢方勉強会・名古屋漢方セミナー、2009年2月5日（名古屋）

牧野利明

漢方薬の医療薬学的諸問題について

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座、2009年2月19日（名古屋）

牧野利明

漢方薬をめぐる医療薬学的諸問題

薬剤師のための漢方医薬学講座、2009年2月21日（神戸）

牧野利明

漢方薬理の最近の知見について

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部講演会、2009年3月14日（神戸）

牧野利明

60分でわかる漢方薬の使い方～第3回

桜山漢方勉強会・名古屋漢方セミナー、2009年3月19日（名古屋）

上林里絵、水野裕之、前田徹、伊藤明美、打田由美子、太田美穂、祖父江和哉、竹山廣光

主治医依頼型NST活動におけるNST介入者の栄養状態の変化

日本静脈経腸栄養学会東海支部学術大会 2009年3月21日（岐阜）；B-1

政田さやか、岡崎誠司、寺坂和祥、水島恒裕、水上元

ニチニチソウ由来フラボノイド配糖体糖鎖伸長酵素 CaUGT3 の構造機能解析

第 50 回日本植物生理学会年会 2009 年 3 月 21 日～24 日(名古屋) ; 1aH03

加藤革己、寺坂和祥、林宏明、水上元

スペインカンゾウ培養細胞を用いたグリチルリチン輸送機能の解析

第 50 回日本植物生理学会年会 2009 年 3 月 21 日～24 日(名古屋) ; 2aI03

金丸美咲、牧野利明、水上元、清水亮輔、鈴木幸雄、森脇将光

配糖化によるケルセチン消化管吸収改善の試み (第 2 報)

日本薬学会第 129 回年会、2009 年 3 月 26 日 (京都) ; 26N-am06

野田敏宏、高市和之、中村峰夫、唐澤豪貴、岡本泰範、水野智、栗原智仁、牧野利明、平野剛、井関健

予防薬学を志向した保険薬局からの研究発信

日本薬学会第 129 回年会、2009 年 3 月 26 日 (京都) ; S03

丸山卓郎、近藤健児、四柳雄一、山本 豊、川崎武志、司馬真央、寺坂和祥、山根真由、Shu ZHU、坂田こずえ、藤田正雄、穂山 浩、西村直行、小松かつ子、水上 元、合田幸広

「遺伝子情報を利用する生薬の純度試験」の改定に向けた妥当性確認試験について

日本薬学会第 129 回年会、2009 年 3 月 28 日 (京都) ; 28P-am006

藤井 聡、木村和哲、飯沼宗和、土屋照雄、杉山 正、賀川義之、並木徳之、平嶋尚英、中村光浩、小菅和仁、栗本英治、林 秀樹、小野秀樹、野口博司、水上 元

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の平成 20 年度活動報告

日本薬学会第 129 回年会、2009 年 3 月 28 日 (京都) ; 28Q-am129

牧野利明

60 分でわかる漢方薬の使い方～復習編第 1 回

桜山漢方勉強会・名古屋漢方セミナー、2009 年 4 月 8 日 (名古屋)

牧野利明

漢方薬物学研究方法論

愛知学院大学「薬用資源学特論」、2009 年 4 月 23 日 (名古屋)

牧野利明

60 分でわかる漢方薬の使い方～復習編第 2 回

桜山漢方勉強会・名古屋漢方セミナー、2009 年 5 月 14 日 (名古屋)

牧野利明

漢方でホメオスタシスの調和を図る

臨床漢方薬理研究会 2009 年大会 (第 104 回例会)、2009 年 5 月 16 日 (静岡)

金丸美咲、牧野利明、水上 元、清水亮輔、鈴木幸雄、森脇将光

ケルセチン配糖体の糖鎖構造と消化管吸収特性

日本食品化学学会第 15 回総会・学術大会、2009 年 5 月 21 日～22 日 (東京) ; 36

牧野利明

薬用植物に含まれる成分に関する新事実

東洋医学会熊本県部会、2009年6月7日（熊本）

牧野利明

60分でわかる漢方薬の使い方～復習編第3回

桜山漢方勉強会・名古屋漢方セミナー、2009年6月18日（名古屋）

Hitoshi Kotani, Hajime Mizukami, Hiroki Tanabe, Takamasa Ohno, Makoto Makishima,
Makoto Inoue

Regulation of nuclear receptor function by novel natural RXR ligands.

American Society of Pharmacognosy 50th Anniversary Meeting, 2009, 6, 27-7, 1, Honolulu; P-056

Hiroka Suzuki, Hajime Mizukami, Hiroki Tanabe, Takamasa Ohno, Makoto Inoue

Study of the mechanism underlying inhibition of vascular smooth muscle cell proliferation by
coptisine

American Society of Pharmacognosy 50th Anniversary Meeting, 2009, 6, 27-7, 1, Honolulu; P-387

牧野利明

漢方薬における医療薬学的諸問題

東京漢方教育センター研修会、2009年7月5日（東京）

島戸陽太、郭 亜紅、山本 豊、合田幸広、寺坂和祥、水上 元

「車前子」市場品の遺伝子鑑別

第55回日本薬学会東海支部総会・大会、2009年7月11日（名古屋）；D-20

牧野利明

漢方薬理学の最近の知見について

全国連合清心会「清心元特別講座」、2009年7月11日（小牧）

Hitoshi Kotani, Hajime Mizukami, Hiroki Tanabe, Takamasa Ohno, Makoto Makishima,
Makoto Inoue

Macrophage ABCA1 induction by natural RXR ligands.

第41回日本動脈硬化学会総会・学術集会、2009年7月17～18日（下関）

Sayaka Masada, Kazuyoshi Terasaka, Seiji Okazaki, Tunehiro Mizushima, Hajime Mizukami
Functional and Structural Characterization of a Flavonoid Glucoside 1,6-Glucosyltransferase from
Catharanthus Roseus

Joint Annual Meetings of the American Society of Plant Biologists and the Phycological Society of
America, 2009, 7, 18-22 (Honolulu); P60024

Mai Nagatoshi, Kazuyoshi Terasaka, Akito Nagatsu, Hajime Mizukami

Molecular cloning and characterization of iridoid 1-O-glucosyltransferase from *Gardenia jasminoides*

Joint Annual Meetings of the American Society of Plant Biologists and the Phycological Society of
America, 2009, 7, 18-22 (Honolulu); P60031

Kakuki Kato, Kazuyoshi Terasaka, Hiroaki Hayashi, Hajime Mizukami

Characterization of glycyrrhizin transport in cultured *Glycyrrhiza glabra* cells

Joint Annual Meetings of the American Society of Plant Biologists and the Phycological Society of America, 2009, 7, 18-22 (Honolulu); P60037

牧野利明

生薬薬物相互作用の最新情報

生薬薬物相互作用研究会、2009年7月24日（名古屋）

永利麻衣、寺坂和祥、水上 元

クチナシ培養細胞からのイリドイド配糖化酵素の単離と解析

第27回日本植物細胞分子生物学会大会、2009年7月30日～31日（藤沢）；1Ca-07

紙本宣久、寺坂和祥、濱本正文、土反伸和、Markus Geisler、矢崎一史

シロイヌナズナのABCトランスポーターAtABC21の機能解析

第27回日本植物細胞分子生物学会大会、2009年7月30日～31日（藤沢）；1Da-07

政田さやか

植物二次代謝糖転移酵素の機能解析とその応用

第27回日本植物細胞分子生物学会大会、2009年7月30日～31日（藤沢）；受賞講演07

中山祥子、加藤革己、寺坂和祥、林 宏明、關 光、村中俊哉、須藤 浩、水上 元

カンゾウ培養細胞のグリチルリチン輸送特性と輸送体遺伝子の探索

第27回日本植物細胞分子生物学会大会、2009年7月30日～31日（藤沢）；2Cp-02

牧野利明

薬物動態学からの和漢薬研究の新しい試み

第12回天然物アカデミーシンポジウム、2009年8月1日～2日（幕張）；p. 36

牧野利明

医学生のための生薬学

第21回医学生のための漢方医学セミナー、2009年8月7日（名古屋）

横井 寛、水上 元、永津明人、大野高政、田邊宏樹、井上 誠

ヨクイニン含有11-hydroxy-(9Z)-octadecenoic acidのPPARα agonist活性の解析

第26回和漢医薬学会大会、2009年8月29日～30日（幕張）；P-025

林 芳恵、牧野利明、水上 元

枳実・陳皮とフェキソフェナジン間の薬物相互作用

第26回和漢医薬学会大会、2009年8月29日～30日（幕張）；P-053

牧野利明

漢方薬学教育における中医学の有用性

第26回和漢医薬学会大会、2009年8月29日～30日（幕張）；M-2-3

小野孝彦、牧野利明

慢性腎炎・腎硬化症への漢方方剤の運用と基礎的検討

第26回和漢医薬学会大会、2009年8月29日～30日（幕張）；S-3-3

牧野利明

麦味地黄丸のアトピー性皮膚炎モデルマウスに対する作用
第34回東海皮膚科漢方研究会安江賞受賞講演、2009年9月6日（名古屋）

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題
清心会薬剤師研修会、2009年9月26日（大阪）

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題
清心会薬剤師研修会、2009年9月27日（東京）

羽佐田桂子、永津明人、山中祐介、牧野利明、水上 元

黄耆エキスおよびその成分の培養ヒトメサンギウム細胞増殖抑制作用
日本生薬学会第56回年会、2009年10月3日～4日（京都）；1P-21

羽佐田桂子、永津明人、吉田貴光、水上 元、山崎 壮、杉本直樹、西村哲治

qNMR を利用した朮類生薬に含まれる atractylon の非分離定量
日本生薬学会第56回年会、2009年10月3日～4日（京都）；1P-30

牧野利明

医療薬学を指向した伝統薬物研究～薬物動態学の生薬学への応用～
日本生薬学会第56回年会、2009年10月3日～4日（京都）；2A-AW2

永利麻衣、寺坂和祥、永津明人、水上 元

植物培養細胞のイリド配糖化能と配糖化酵素の単離
第51回天然有機化合物討論会、2009年10月7日～9日（名古屋）；P-68

政田さやか、寺坂和祥、岡崎誠司、水島恒裕、水上 元

植物二次代謝糖転移酵素による配糖体糖鎖伸長反応の構造生物学的解析
第51回天然有機化合物討論会、2009年10月7日～9日（名古屋）；P-72

牧野利明

臨床生薬学入門
東海漢方協議会例会、2009年10月11日（名古屋）

牧野利明

生薬・漢方薬における医療薬学的諸問題について
第25回名古屋市立大学薬学部卒業教育講座、2009年10月18日（名古屋）

小谷仁司、安井友浩、佐藤千尋、田邊宏樹、大野高政、水上 元、槇島 誠、井上 誠

天然由来 RXR リガンド honokiol による核内受容体の機能調節作用
第82回日本生化学会大会、2009年10月21～24日（神戸）；4P-237

牧野利明、水上 元

加工ブシ末のマウス体温調節機能失調改善作用
第39回日本東洋医学会東海支部学術総会、2009年11月8日（名古屋）；8

金丸美咲、牧野利明、水上 元

フラボノイド配糖体の消化管吸収メカニズム

第 39 回日本東洋医学会東海支部学術総会、2009 年 11 月 8 日（名古屋）；9

牧野利明

第 1 回 現代医療における漢方医学の役割と漢方薬の学び方

漢方勉強会「基礎からの漢方 60 分」、2009 年 11 月 12 日（名古屋）

牧野利明

生薬の薬理作用と試験法

日本薬剤師研修センター平成 21 年度漢方薬・生薬研修会、2009 年 11 月 15 日（東京）

牧野利明

漢方薬はどのようにして効くのか？

第 4 回神戸大学漢方セミナー、2009 年 11 月 19 日（神戸）

牧野利明

紫雲膏の調製

第 11 回日本漢方交流会漢方薬剤師育成研修会、2009 年 11 月 23 日（名古屋）

鈴木裕可、田邊宏樹、大野高政、水上 元、井上 誠

MDR に対するオウレン含有 isoquinoline alkaloid の機能修飾作用

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009
2009 年 11 月 23 日（四日市）；C-11

佐藤千尋、小谷仁司、田邊宏樹、大野高政、井上 誠

漢方方剤常用生薬に含まれる核内受容体リガンドの探索と動脈硬化症への応用

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009
2009 年 11 月 23 日（四日市）；D-21

吉田貴光、羽佐田桂子、牧野利明、永津明人、山崎 壮、杉本直樹、西村哲治、水上 元

qHNMR によるオウレン中のベルベリンアルカロイド類の定量

第 38 回生薬分析シンポジウム、2009 年 12 月 3 日（大阪）；8

牧野利明

加工附子温里祛寒作用

中日中成薬分析合作研究室十周年庆典、2009 年 12 月 18 日（沈阳）

牧野利明

「臨床生薬学」ことはじめ

第 3 回日本生薬学会若手懇話会、2009 年 12 月 28 日（京都）

【生体防御機能学分野】

(原報)

Kikuo Onozaki

Etiological and biological aspects of cigarette smoking in rheumatoid arthritis.

Inflamm. Allergy Drug Targets. **8**, 364-368 (2009)

Yasuhiro Horita, Takemasa Takii, Taku Chiba, Ryuji Kuroishi, Yasuhiro Maeda, Yukihisa Kurono, Emi Inagaki, Kenji Nishimura, Yoshifumi Yamamoto, Chiyoji Abe, Masami Mori, Kikuo Onozaki
Synthesis of new sugar derivatives and evaluation of their antibacterial activities against *Mycobacterium tuberculosis*.

Bioorg. Med. Chem. Lett. **19**, 6313-6316 (2009)

Daisuke Hayashi, Takemasa Takii, Nagatoshi Fujiwara, Yukiko Fujita, Ikuya Yano, Saburo Yamamoto, Maki Kondo, Emi Yasuda, Emi Inagaki, Keita Kanai, Akiko Fujiwara, Aya Kawarazaki, Taku Chiba, Kikuo Onozaki

Comparable studies of immunostimulating activities in vitro among *Mycobacterium bovis* bacillus Calmette-Guérin (BCG) sub-strains.

FEMS Immunol. Med. Microbiol. **56**, 116-128 (2009)

Yuko Uenishi, Takemasa Takii, Ikuya Yano, Makoto Sunagawa

Separation and molecular characterization of mycolic acid from the cell wall skeleton of *Mycobacterium bovis* BCG Tokyo 172 (SMP-105) and BCG substrains by normal-phase high performance liquid chromatography and liquid chromatography/mass spectrometry.

J. Microbiol. Methods **77**, 320-322 (2009)

Kikuo Onozaki

Population is a critical factor for global carbon dioxide increase.

J. Health. Sci. **55**, 125-127 (2009)

Yka Itoh, Noriyuki Hatano, Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki, Keiji Miyazawa, Katsuhiko Muraki
An environmental sensor, TRPV4 is a novel regulator of intracellular Ca²⁺ in human synoviocytes.

Am. J. Physiol. Cell Physiol. **297**, C1082-90 (2009)

(総説・著書・総合論文など)

瀧井 猛将

化学療法学 ～病原微生物・がんと戦う～

田中晴雄，土屋友房編，第4章，感染症治療薬：各論8抗結核薬，pp167-176，(2009).

(学会発表)

井上万由美，朴 佳栄，荒川友博，伊藤友香，小野寄菊夫，斉藤昌之，林 秀敏

白色、褐色脂肪細胞の脂肪滴蓄積に及ぼすサイトカインの影響

第32回日本分子生物学会年会. 2009年12月9日(横浜) ; 1P-0492.

酒井 聡，中田佳宏，坂井勇斗，伊藤友香，大岡伸通，小野寄菊夫，林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の役割

第32回日本分子生物学会年会. 2009年12月10日(横浜) ; 2P-0529.

岡本翔佑, 林 秀敏, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

喫煙と関節リウマチ：たばこの煙抽出物は滑膜細胞から炎症性サイトカインの産生を誘導し、コラーゲン誘導性関節炎の発症を増強する

Cigarette smoking and rheumatoid arthritis : Cigarette smoke condensate extracts induce proinflammatory cytokines from synovial cells and exacerbate collagen-induced arthritis in mice

第 39 回日本免疫学会総会・学術集会 2009 年 12 月 4 日 (大阪) ; 3-H-W58-11-P.

伊藤佐生智, 横山領介, 辻 勉、瀧井猛将, 小野寄菊夫

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質 SSL5 は MMP-9 の活性を抑制し, 好中球の浸潤を阻害する

Staphylococcal superantigen-like protein 5 (SSL5) inhibits matrix metalloproteinase (MMP)-9 and impairs trafficking of neutrophils

第 39 回日本免疫学会総会・学術集会 2009 年 12 月 4 日 (大阪) ; 3-J-W62-4-O/P.

黒石隆司, 瀧井猛将, 堀田康弘, 千葉 拓, 森 雅美, 前田康博、黒野幸久, 小川賢二, 小野寄菊夫

新規糖誘導体 OCT313 の抗結核作用に関する研究

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009
2009 年 11 月 23 日 (三重) ; D-15.

Kikuo Onozaki, Satomi Chujo, Shosuke Okamoto, Ryohei Sunahara, Yuka Itoh, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii and Kazuichi Hayakawa

Cigarette smoke condensate extracts induce proinflammatory cytokines from synovial cells and exacerbate collagen-induced arthritis in mice

Tri-Society Annual Conference 2009 of the Society for Leukocyte Biology, International Cytokine Society, & International Society for Interferon and Cytokine Research
Lisbon, 2009 年 11 月 21 日

堀田康弘, 瀧井猛将, 千葉 拓, 黒石隆司, 小野寄菊夫

多剤耐性結核菌に有効な新規糖化合物の探索

第 8 回 次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2009
2009 年 11 月 14 日, 15 日 (名古屋) ; B20.

岡本翔佑, 中条里美, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫

タバコと関節リウマチに関する研究

フォーラム 2009:衛生薬学・環境トキシコロジー 2009 年 11 月 5 日 (沖縄) : P028.

酒井 聡, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 中西 真, 林 秀敏

G2/M 期でのストレス誘導性 pseudokinase TRB3 の役割

フォーラム 2009:衛生薬学・環境トキシコロジー 2009 年 11 月 5 日 (沖縄) ; P035.

伊藤友香, 波多野紀行, 林秀敏, 小野寄菊夫, 村木克彦

滑膜細胞における浸透圧センサー TRPV4 のケモカイン産生に及ぼす影響

フォーラム 2009:衛生薬学・環境トキシコロジー 2009 年 11 月 5 日 (沖縄) ; P039.

Takemasa Takii, Daisuke Hayashi, Tetsu Mukai, Emi Yasuda, Yasuhiro Horita, Ryuji Yamamoto, Tetsu Mukai, Akiko Fujiwara, Keita Kanai, Maki Konodo, Aya Kawarazaki, Ikuya Yano, Saburo

Yamamoto, and Kikuo Onozaki

Comparable study between conventional biochemical tests and susceptibility to environmental stresses among *Mycobacterium bovis* BCG sub-strains

Keystone symposia Overcoming the crisis of TB and AIDS, Arusha Tanzania, October 20-25, 2009
Poster Session 3, Poster number 330.

Yasuhiro Horita, Takemasa Takii, Taku Chiba, Ryuji Kuroishi, Ryuji Yamamoto, Emi Inagaki, Chiyoji Abe, Masami Mori, Kikuo Onozaki

Synthesis and biological evaluation of a new sugar derivative as antibacterial agents for *Mycobacterium tuberculosis*

Keystone symposia Overcoming the crisis of TB and AIDS, Arusha Tanzania October 20-25, 2009
Poster Session 1, Poster number 140.

中田佳宏, 酒井 聡, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の役割

第 8 2 回日本生化学会 2009 年 10 月 23 日 (神戸) ;3T6a-8.

酒井 聡, 大岡伸通, 北川雅敏, 中西 真, 小野寄菊夫, 林 秀敏

ユビキチンリガーゼ APC/C Cdh1 による pseudokinase TRB3 の発現制御機構の解明

第 8 2 回日本生化学会 2009 年 10 月 23 日 (神戸) ;3T5p-18.

安田恵実, 瀧井猛将, 林 大介, 谷口恵一, 伊藤佐生智, 矢野郁也, 山本三郎, 小野寄菊夫

BCG 亜株の生化学的性状と宿主内生存能力の比較検討

第 2 1 回微生物シンポジウム 2009 年 9 月 4 日 (広島) ;4A-2.

伊藤佐生智, 横山領介, 濱田恵里, 鴨志田 剛, 竹下佳奈, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 奥 輝明, 辻 勉

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質 SSL5 による好中球マトリックスメタロプロテイナーゼの阻害

第 2 1 回微生物シンポジウム 2009 年 9 月 4 日 (広島) ;4A-4.

山本龍二, 堀田康弘, 小川賢二, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

トリ型結核菌亜種の酸耐性メカニズムの差異に関する研究

第 2 1 回微生物シンポジウム 2009 年 9 月 4 日 (広島) ;4A-7.

横山領介, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 辻 勉, 小野寄菊夫

Staphylococcal superantigen-like protein 5 (SSL5) によるヒト好中球 MMP-9 活性及び好中球の炎症部位へのリクルート阻害

第 55 回 (平成 21 年度) 日本薬学会東海支部総会・大会 2009 年 7 月 11 日 (名古屋) ; C-9.

Satomi Chujo, Shosuke Okamoto, Ryohei Sunahara, Yuka Itoh, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Kazuichi Hayakawa and Kikuo Onozaki

Cigarette smoke condensate extracts induce proinflammatory cytokines by synovial cells and exacerbate collagen-induced arthritis in mice

17th International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages
2009 年 7 月 3 日 (金沢) ; P6.

Saotomo Itoh, Ryosuke Yokoyama, Eri Hamada, Go Kamoshida, Kana Takeshita, Teruaki Oku, Takemasa Takii, Kikuo Onozaki and Tsutomu Tsuji
Staphylococcal superantigen-like protein 5 (SSL5) inhibits matrix metalloproteinase-9 from human neutrophils

17th International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages
2009年7月3日(金沢); P8.

安田恵美, 林 大介, 瀧井猛将, 矢野郁也, 山本三郎

BCG ワクチン亜株の生化学的, 免疫学的な性状の比較検討

第84回日本結核病学会総会 2009年7月2日(札幌); 53.

堀田康弘, 瀧井猛将

抗酒癖薬ジスルフィラムの結核菌特異的な作用に関する研究

第84回日本結核病学会総会 2009年7月2日(札幌); 55.

林 大介, 岡田全司, 瀧井猛将

結核菌抗原発現組換えポリオワクチンの新規結核ワクチンの可能性の検討

第84回日本結核病学会総会 2009年7月2日(札幌); 54.

山本龍二, 堀田康弘, 菅原 勇, 藤原永年, 伊藤佐生智, 瀧井猛将

Mycobacterium avium TMC724S の pH 依存的な集落形成の違いと免疫応答、薬剤感受性、細胞壁形成との相関

第84回日本結核病学会総会 2009年7月2日(札幌); 118.

黒石隆司, 堀田康弘, 瀧井猛将

アミノ糖誘導体新規化合物の抗結核作用機序の解析

第84回日本結核病学会総会 2009年7月2日(札幌); 56.

伊藤佐生智, 濱田恵里, 鴨志田 剛, 竹下佳奈, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 奥 輝明, 辻 勉

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質 SSL5 による好中球マトリックスメタロプロテイナーゼの阻害

第10回 Pharmaco-Hematology シンポジウム 2009年6月19日(東京); I-6.

稲垣衣美, 堀田康弘, 瀧井猛将

抗酒癖薬ジスルフィラムの結核菌特異的な作用に関する研究

第57回 日本化学療法学会総会学術集会 2009年6月5日(東京); 127.

堀田康弘, 瀧井猛将, 菅原 勇, 藤原永年, 山本龍二, 稲垣衣美, 小野寄菊夫

Mycobacterium avium TMS724S の pH 依存的形態変化に関する研究

第82回日本細菌学会総会 2009年3月14日(名古屋); WS15-2/P2-057.

黒石隆司, 堀田康弘, 瀧井猛将, 千葉 拓, 森 雅美, 小野寄菊夫

アミノ糖誘導体新規化合物の抗結核作用機序の解析

第82回日本細菌学会総会 2009年3月12日(名古屋); P1-021.

安田恵美, 林 大介, 瀧井猛将, 藤原永年, 山本三郎, 矢野郁也, 小野寄菊夫

Mycobacterium bovis BCG 亜株間の自然免疫誘導活性の差異とミコール酸の関与

第 82 回日本細菌学会総会 2009 年 3 月 13 日 (名古屋); P2-060.

林 大介, 安田恵実, 瀧井猛将, 矢野郁也, 山本三郎, 小野寄菊夫

Mycobacterium bovis BCG 亜株の生化学的性状と宿主細胞内生存能の差異

第 82 回日本細菌学会総会 2009 年 3 月 13 日 (名古屋); 1P2-061.

伊藤 司, 林 大介, 瀧井猛将, 丸山光生, 小野寄菊夫

老齢マウスにおける結核症に対する BCG 免疫能に関する研究

第 82 回日本細菌学会総会 2009 年 3 月 13 日 (名古屋); P2-063.

荒川友博, 林 秀敏, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

インターロイキン 1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構への ERK1/2 経路の関与

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 26 日 (京都); 26K-am09.

清武千恵子, 高橋佑輔, 伊藤友香, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏

骨形成因子 (BMP) のシグナル分子 Smad1 のアセチル化の意義

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 26 日 (京都); 26Q-pm182.

伊藤 司, 林 大介, 丸山光生, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

老齢マウスにおける BCG ワクチンの有効性に関する研究

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27H-am11.

森川裕子, 酒井 聡, 井手佑子, 伊藤友香, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏

膝 β 細胞機能に及ぼす TGF β の影響

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm059.

伊藤友香, 波多野紀行, 林 秀敏, 小野寄菊夫, 村木 克彦

スフィンゴシルホスホリルコリンによる関節リウマチ滑膜細胞死の制御

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm064.

中田佳宏, 酒井 聡, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の作用

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm089.

中條里美, 岡本翔佑, 砂原良平, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫

タバコと関節リウマチに関する研究

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm166.

山本龍二, 瀧井猛将, 菅原 勇, 藤原永年, 堀田康弘, 稲垣衣美, 小野寄菊夫

Mycobacterium avium TMC724S の pH 依存的形態変化に関する研究

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm205.

稲垣衣美, 瀧井猛将, 堀田康弘, 山本龍二, 黒石隆司, 小野寄菊夫

抗酒癖薬 Disulfiram の結核菌特異的な作用に関する研究

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27P-pm248.

伊藤佐生智, 辻 勉

Staphylococcal superantigen-like protein 5 (SSL5) はヒト好中球由来 MMP-9 に結合し, その活性を阻害する

日本薬学会第 129 年会 2009 年 3 月 27 日 (京都) ; 27H-am10.

【遺伝情報学分野】

(総説・著書・総合論文など)

星野真一

真核生物 mRNA 分解開始の分子機構

蛋白質・核酸・酵素, 54 : 2066-2072 (2009)

(学会発表)

斉藤修, 谷口裕子, 細田直, 星野真一

ナンセンス変異を有する異常 mRNA の分解機構 (NMD) の解明

第 8 回次世代を担う若手ファーマバイオフォーラム 2009、2009 年 11 月 14 日 (名古屋)

星野真一

mRNA 3'末端ポリ A 鎖を標的とした遺伝子発現調節

第 82 回日本生化学会大会、2009 年 10 月 22 日 (神戸)

星野真一

mRNA 3'末端ポリ A 鎖を標的とした遺伝子発現制御

北大農学部公開セミナー、2009 年 9 月 18 日 (札幌市)

細田直, 星野真一

mRNA 品質管理機構に置ける G 蛋白質 eRF3 の役割

特定領域研究「G 蛋白質シグナル」研究班会議、2009 年 9 月 10 日 (千葉)

山岸良多, 細田直, 岩松明彦, 星野真一

癌抑制遺伝子 BTG の生理的役割の解析

日本薬学会東海支部大会、2009 年 7 月 11 日 (名古屋)

成瀬貴文, 的場洋子, 細田直, 星野真一

脊髄小脳変性症の原因遺伝子 Ataxin-2 の生理的役割

日本薬学会東海支部大会、2009 年 7 月 11 日 (名古屋)

橋本芳史, 細田直, 星野真一

ストレスによる翻訳終結因子 eRF3/GSPT1 プロセシングの分子機構

日本薬学会東海支部大会、2009 年 7 月 11 日 (名古屋)

星野真一

mRNA 3'末端プロセシングを標的とした遺伝子発現制御・RNA 品質管理機構の解明

文部科学省補助金 新学術領域研究
「多様性と非対称性を獲得する RNA プログラム (RNA 制御学)」班会議
2009 年 2 月 24 日 (名古屋)

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Akitoshi Ohno, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Gender difference in BK channel expression in amygdala complex of rat brain

Biochem. Biophys. Res. Commun., **378**, 867-71 (2009).

Susumu Ohya, Kazunori Kimura, Satomi Niwa, Akitoshi Ohno, Yoshiyuki Kojima, Shoichi Sasaki, Kenjiro Kohri, Yuji Imaizumi

Malignancy grade-dependent expression of K⁺ channel subtypes in human prostate cancer

J. Pharmacol. Sci., **109**, 148-51 (2009).

Yuichiro Matsushita, Susumu Ohya, Yoshiaki Suzuki, Haruna Itoda, Takuya Kimura, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Inhibition of Kv1.3 potassium current by phosphoinositides and stromal-derived factor-1 α in Jurkat T cells

Am. J. Physiol. Cell Physiol., **296**, C1079-85 (2009).

Akitoshi Ohno, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Regulation of ryanodine receptor mediated Ca²⁺ release in vas deferens smooth muscle cells

J. Pharmacol. Sci., **110**, 78-86 (2009).

(学会発表)

Yuji Imaizumi 【招待講演】

Single molecular imaging of Ca²⁺ signaling unit in smooth muscle cells

2009 IUPS International Conference of Physiological Sciences, 2009.1.15. (Busan, Korea).

船橋賢治, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

ヒト由来軟骨肉腫細胞 (OUMS-27) における膜電位による Ca²⁺流入の制御機構

第 82 回日本薬学会年会. 2009 年 3 月 16 日 (横浜); O2K-3-2.

加藤大樹, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治

血管平滑筋の筋張力調節機構における 3 型リアノジン受容体の機能解明

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 17 日 (横浜); O2F-1-2.

橋爪圭吾, 木村泰介, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

末梢組織ペースメーカーモデル細胞における細胞間電気シグナル伝播機構の解明

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 17 日 (横浜); O2G-4-1.

藤高啓右, 森本 岳, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

BK チャネルの DiBAC₄(3)による β サブユニット選択的活性化機構の解明

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 17 日 (横浜); O2J-3-3.

鈴木良明, 山村寿男, 池田知佳子, 大矢 進, 今泉祐治

BK-VDCC 複合体の TIRF 画像解析

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 17 日 (横浜); O2J-3-1.

大矢 進, 丹羽里実, 柳 文乃, 仲村恵梨奈, 山村寿男, 今泉祐治

新規中コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネルスプライズバリエーションの機能解析

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 18 日 (横浜); O3K-1-3.

山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋 Ca^{2+} スパークドメインに集積する分子群の TIRF 可視化解析

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 18 日 (横浜); O3I-4-3.

村松 真, 水谷浩也, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

松果体細胞におけるニコチン誘発性の細胞内 Ca^{2+} 動態

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 18 日 (横浜); O3G-1-2.

山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋 Ca^{2+} スパークに関与する分子集積群の TIRF 可視化解析

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27Z-pm10.

大矢 進, 丹羽里実, 柳 文乃, 仲村恵梨奈, 山村寿男, 今泉祐治

新規中コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネルの分子同定と機能解析

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28J-am01.

谷口 賢, 井戸田晴奈, 山村寿男, 大矢 進, 今泉 祐治

肺高血圧症モデルラット肺動脈におけるニフルミ酸の薬理効果の検討

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28P-pm050.

山本清司, 浅井清文, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

初代培養脳血管内皮細胞における SK4 チャネルの機能解析

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28P-pm051.

藤井将人, 大野晃稔, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

ラット扁桃体におけるアンドロゲン受容体活性化による BK チャネルの発現上昇

第 115 回日本薬理学会近畿部会. 2009 年 6 月 26 日 (金沢); A-15.

村松 真, 山村寿男, 水谷浩也, 大矢 進, 今泉祐治

松果体細胞で発生する Ca^{2+} オシレーションの機能解析

第 115 回日本薬理学会近畿部会. 2009 年 6 月 26 日 (金沢); A-16.

村松 真, 水谷浩也, 山村寿男, 水谷浩也, 大矢 進, 今泉祐治

ニコチンによる神経細胞内 Ca^{2+} シグナル調節のイオン機構と神経保護作用

喫煙科学研究財団 平成 20 年度助成研究発表会. 2009 年 7 月 16 日 (東京); 143.

仲村恵梨奈, 丹羽里実, 柳 文乃, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

接触過敏症モデル耳介リンパ節におけるカルシウム活性化カリウムチャネル活性制御の機序
解明と創薬への応用

第 55 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2009 年 7 月 11 日 (名古屋); C20.

大矢 進, 今泉祐治, 佐々木昌一, Iain A. Greenwood, Gerard P. Sergeant
電位依存性及びカルシウム活性化カリウムチャネルの多様な生理機能と病態的意義
ソルト・サイエンス研究財団 第 21 回助成研究発表会. 2009 年 7 月 21 日 (東京); 52.

村田秀道, 堀田真吾, 山村寿男, 大矢 進, 岩本隆宏, 今泉祐治
マウス膀胱平滑筋における $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体の筋原性自発収縮運動への機能的役割
第 51 回 日本平滑筋学会総会. 2009 年 7 月 22 日 (名古屋); P-2.

竹本将士, 加藤大樹, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治
血管平滑筋細胞における RyR3 機能解明とスプライス変異体発現解析
第 51 回日本平滑筋学会総会. 2009 年 7 月 22 日 (名古屋); O-18.

Kazunobu Ogiwara, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi
Up-regulation of voltage-gated, delayed-rectifier $\text{Kv}2.1 \text{ K}^+$ channel in renal arterial myocytes of Dahl salt-sensitive hypertensive rats
Satellite Symposium of the IUPS2009 "Post-genomic Advances in the Physiology of Smooth Muscle".
2009. 7.23. (Nagoya); P-40.

Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Molecular assembly in Ca^{2+} microdomain of spark sites in vascular smooth muscle cells
Satellite Symposium of the IUPS2009 "Post-genomic Advances in the Physiology of Smooth Muscle".
2009. 7.23. (Nagoya); P-41.

Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Imaging of molecular complex of BK channel, Ca^{2+} channel and caveolin-1 by TIRF microscope
Satellite Symposium of the IUPS2009 "Post-genomic Advances in the Physiology of Smooth Muscle".
2009. 7.23. (Nagoya); P-42.

Susumu Ohya, Akitoshi Ohno, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi 【シンポジウム講演】
Hormonal regulation of ion channel expression in smooth muscles
Satellite Symposium of the IUPS2009 "Post-genomic Advances in the Physiology of Smooth Muscle".
2009. 7.25. (Nagoya); S5B-1.

Daiki Kato, Masashi Takemoto, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Hiroshi Takeshima and Yuji Imaizumi
Functional roles of ryanodine receptor type 3 in the regulation in vascular smooth muscle tone and contraction
Satellite Symposium of the IUPS2009 "Post-genomic Advances in the Physiology of Smooth Muscle".
2009. 7.23. (Nagoya); P-43.

Yuji Imaizumi 【シンポジウム講演】
Molecular imaging analyses of Ca^{2+} signaling units regulating the excitability and tone of vascular smooth muscle cells
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29. (Kyoto); RSII-5-2.

Susumu Ohya, Satomi Niwa, Ayano Yanagi, Erina Nakamura, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Role of the intermediate-conductance Ca^{2+} -activated K^+ channel, $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$ spliced isoform
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29 (Kyoto);
P2AM-23-11.

Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
TIRF imaging of Ca^{2+} spark microdomain in vascular smooth muscle cells
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29. (Kyoto);
P2AM-11-3.

Kenji Funahashi, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Membrane hyperpolarization facilitates Ca^{2+} influx in human chondrosarcoma cell line (OUMS-27)
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29. (Kyoto);
P2AM-15-9.

Hidemichi Murata, Shingo Hotta, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Takahiro Iwamoto and
Yuji Imaizumi
Functional roles of $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger (NCX) in spontaneous contractions in mouse urinary bladder
smooth muscle
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29. (Kyoto);
P2AM-11-4.

Makoto Muramatsu, Hisao Yamamura, Hiroya Mizutani, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Large-conductance Ca^{2+} -activated K^+ channel regulates spontaneous Ca^{2+} oscillations in rat
pinealocytes
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.29. (Kyoto);
P2AM-15-4.

Masato Fujii, Akitoshi Ohno, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Gender difference in BK channel expression in amygdala of rat brain.
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences, 2009.7.29 (Kyoto);
P2AM-23-13.

Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Visualization of BK channel and Ca^{2+} channel complex by TIRF imaging
The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences. 2009.7.30. (Kyoto);
P3PM-23-7.

藤井将人, 大野晃稔, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治
扁桃体神経細胞におけるアンドロゲン受容体刺激による BK チャネル発現上昇
次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2009. 2009年8月24日 (東京); A-15.

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治
TIRF 顕微鏡によるイオンチャネル分子複合体の可視化解析
次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2009. 2009年8月24日 (東京); B-20.

山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治
血管平滑筋 Ca^{2+} マイクロドメインを構成する分子群の一分子可視化解析

生体機能と創薬シンポジウム 2009. 2009 年 8 月 26 日 (東京); S2-2.

山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋 Ca^{2+} スパークドメインに集積する分子群の一分子可視化解析

特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」

平成 21 年度第 1 回班会議. 2009 年 8 月 26 日 (熊本); P-34.

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

TIRF 顕微鏡による BK-VDCC-caveolin1 分子複合体の可視化解析

特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」

平成 21 年度第 1 回班会議. 2009 年 8 月 26 日 (熊本); P-35.

今泉祐治

トランスポートソームにおけるイオンチャネル局在と関連分子間協間の可視化解析

特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」

平成 21 年度第 1 回班会議. 2009 年 8 月 28 日 (熊本); O-34.

藤井将人, 大野晃稔, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

ラット扁桃体におけるアンドロゲン受容体活性化による BK チャネルの発現増加

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 17 日 (名古屋); P2-a12.

村松 真, 山村寿男, 水谷浩也, 大矢 進, 今泉祐治

松果体細胞で発生するニコチン誘発性 Ca^{2+} オシレーションの機能解析

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 17 日 (名古屋); P2-a11.

【病態生化学分野】

(原報)

Nomura, Y., Hattori, M., and Osumi, N.

Reelin, radial fibers and cortical evolution: Insights from comparative analysis of the mammalian and avian telencephalon.

Dev. Growth Differ. **51**, 287-297 (2009).

Hibi, T., Mizutani, M., Baba, A., and Hattori, M.

Splicing variations in the ligand binding domain of ApoER2 results in functional differences in the binding properties to Reelin.

Neurosci. Res. **63**, 251-258 (2009).

Kohno, S., Kohno, T., Nakano, Y., Suzuki, K., Ishii, M., Tagami, H., Baba, A., and Hattori, M.
Mechanism and significance of specific proteolytic cleavage of Reelin.

Biochem. Biophys. Res. Commun. **380**, 93-97 (2009).

Baba, A., Akagi, K., Takayanagi, M., Flanagan, J., Kobayashi, T., and Hattori, M.

Fyn tyrosine kinase regulates the surface expression of GPI-linked ephrin via the modulation of sphingomyelin metabolism.

J. Biol. Chem. **284**, 9206-9214 (2009).

Hibi, T., Hattori, M.

The N-terminal fragment of Reelin is generated after endocytosis and released through the pathway regulated by Rab11.

FEBS Lett. **583**, 1299-1303 (2009).

Kohno, T., Nakano, Y., Kitoh, N., Yagi, H., Kato, K., Baba, A., and Hattori, M.

C-terminal region-dependent change of antibody-binding to the eighth Reelin repeat reflects the signaling activity of Reelin.

J. Neurosci. Res. **87**, 3043-3053 (2009).

Uchida, T., Baba, A., Pérez-Martínez, F. J., Hibi, T., Miyata, T., Luque, J. M., Nakajima, K., and Hattori, M.

Downregulation of functional Reelin receptors in projection neurons implies that primary Reelin action occurs at early/pre-migratory stages.

J. Neurosci. **29**, 10653-10662 (2009).

(学会発表)

馬場敦、内田貴之、日比輝正、服部光治

リーリンは移動初期の神経細胞を標的とする

第32回日本分子生物学会大会 2009年12月10日

阪野英幸、中野良美、馬場敦、河野孝夫、高柳麻衣、服部光治

ノックインマウスを用いたリーリンC末端領域の機能解析
第32回日本分子生物学会大会 2009年12月10日(神戸)

鈴木健太、河野志織、河野孝夫、服部光治
リーリンの特異的切断機構、及び意義の解析
第32回日本分子生物学会大会 2009年12月10日(神戸)

高柳麻衣、馬場敦、河野孝夫、服部光治
リーリンのC末端領域内での切断はリーリンと神経細胞膜との相互作用を調節する
第32回日本分子生物学会大会 2009年12月10日(神戸)

五味宏樹、河野孝夫、服部光治
脳形成に必須な分泌蛋白質の、リーリンN末端領域の機能解明
バイオフィーマフォーラム2009 2009年11月14日(名古屋)

阪野英幸、中野良美、日比輝正、河野孝夫、服部光治
神経細胞層構造の形成と維持における、リーリンC末端領域の機能
バイオフィーマフォーラム2009 2009年11月14日(名古屋)

Mitsuharu Hattori, Takayuki Uchida, Atsushi Baba, Takao Kohno, Terumasa Hibi
Downregulation of Functional Reelin Receptors in Projection Neurons Implies That Primary Reelin Action Occurs at Early/Premigratory Stages.
Construction and reconstruction of brain. 2009年10月8日(淡路島)

Atsushi Baba, Kennichi Oshima, Mitsuharu Hattori
Localization and function of sphingomyelin synthase isoforms in neurons.
4th International Conference on Phospholipase A2 and lipid mediators.
2009年5月27日(東京)

Takao Kohno, Atsushi Baba, Mitsuharu Hattori
Cleavage of Reelin within C-terminal region by proprotein convertase modulates its interaction with the neuronal cell membrane.
第32回日本神経学会大会. 2009年9月18日

Hideyuki Banno, Yoshimi Nakano, Atsushi Baba, Mitsuharu Hattori
Function of the C-terminal region of Reelin: a knock-in study.
第32回日本神経学会大会. 2009年9月18日

【薬物動態制御学】

(原報)

Kinya Ohta, Yuichiro Imamura, Noriko Okudaira, Ryou Atsumi, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Functional characterization of multidrug and toxin extrusion protein 1 as a facilitative transporter for fluoroquinolones.

J. Pharmacol. Exp. Ther., **328**, 628-634 (2009).

Soichiro Matsushima, Kazuya Maeda, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa, Tsunenori Kondo, Hideki Nakayama, Shigeru Horita, Hiroyuki Kusahara, Yuichi Sugiyama

The inhibition of human multidrug and toxin extrusion 1 is involved in the drug-drug interaction caused by cimetidine.

Drug Metab. Dispos., **37**, 555-559 (2009).

Syunsuke Yamamoto, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Rui Fukatsu, Junya Maeda, Yukihiro Yoshida, Hiroaki Yuasa

Identification and functional characterization of rat riboflavin transporter 2.

J. Biochem., **145**, 437-443 (2009).

Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Tomoya Yasujima, Munenori Ishimaru, Hiroaki Yuasa

Functional characteristics of two human MATE transporters: kinetics of cimetidine transport and profiles of inhibition by various compounds.

J. Pharm. Pharmaceut. Sci., **12**, 388-396 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

Hiroaki Yuasa, Katsuhisa Inoue, Yayoi Hayashi

Molecular and functional characteristics of proton-coupled folate transporter.

J. Pharm. Sci., **98**, 1608-1616 (2009).

(学会発表)

井上勝央, 石谷治男, 太田欣哉, 湯浅博昭

ラット腎リソソームにおける folate 輸送系の機能解析.

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都); 26P-pm268.

藤村美咲, 山本俊輔, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒト小腸に発現する新規 riboflavin トランスポーターの機能解析.

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28L-am14.

湯浅博昭, 杉本さや香, 太田欣哉, 井上勝央, 片野貴大, 浦野公彦, 渡辺 淳

aquaporin 3 による担体介在型 glycerol 輸送の解析.

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28Q-am033.

村田友昭, 山本俊輔, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ラット小腸における uracil 輸送機構の解析.

日本薬学会第 129 年会, 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28Q-am034.

井上勝央, 山本俊輔, 村田友昭, 太田欣哉, 湯浅博昭

ラット小腸におけるナトリウム依存性 uracil 輸送系の機能解析と分子実体の同定.

日本薬剤学会第 24 年会, 2009 年 5 月 23 日 (静岡); 23-3-3.

湯浅博昭, 高橋絢子, 太田欣哉, 井上勝央, 畠山 舞, 林 弥生

プロトン/葉酸共輸送担体の発現制御に関わる転写因子の検索.

日本薬剤学会第 24 年会, 2009 年 5 月 23 日 (静岡); 23-P10.

井上勝央【招待講演】

葉酸吸収における PCFT (SLC46A1) の役割.

第 4 回トランスポーター研究会, 2009 年 5 月 24 日 (東京); WS-3.

片野貴大, 杉本さや香, 浦野公彦, 宮本明希, 太田欣哉, 井上勝央, 渡辺 淳, 湯浅博昭

ヒトアクアポリン 3 の glycerol 輸送機構の双機能的特性.

第 55 回日本薬学会東海支部大会, 2009 年 7 月 11 日 (名古屋); D-8.

村田友昭, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ラット小腸におけるナトリウム依存性 uracil 輸送機構の解析.

平成 21 年度日本薬学会東海支部例会, 2009 年 11 月 23 日 (四日市); F-15.

島田友里奈, 水野裕之, 前田 徹, 湯浅博昭, 木村和哲

ネフローゼ症候群と乾癬におけるシクロスポリンマイクロエマルジョン製剤の薬物速度論的パラメータの比較.

平成 21 年度日本薬学会東海支部例会, 2009 年 11 月 23 日 (四日市); F-16.

石井めぐみ, 太田欣哉, 片野貴大, 浦野公彦, 渡辺 淳, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒトアクアポリン 10 の物質輸送における双機能的特性.

第 24 回日本薬物動態学会年会, 2009 年 11 月 27 日 (京都); 1-A-11-2.

藤村美咲, 山本俊輔, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒトリボフラビントランスポーターRFT2 の機能解析.

第 24 回日本薬物動態学会年会, 2009 年 11 月 27 日 (京都); 1-P-81.

前田純彌, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

哺乳類における新規核酸塩基輸送担体の同定.

第 24 回日本薬物動態学会年会, 2009 年 11 月 28 日 (京都); 2-P-78.

【病態解析学分野】

(原報)

Hiroki Satoh, Kazuo Tomita, Satoshi Fujii, Reiko Kishi, and Hiroyuki Tsutsui.

Lower high-density lipoprotein cholesterol is a significant and independent risk for coronary artery disease in Japanese men.

J. Atheroscler. Thromb., **16**, 792-798, (2009).

Yasuhiro Noda, Kiori Fujii, and Satoshi Fujii.

Critical evaluation of cadexomer-iodine ointment and povidone-iodine sugar ointment.

Int. J. Pharm., **372**, 85-90, (2009).

Toshiyuki Miyata, Yukiko Sato, Junko Ishikawa, Hiromi Okada, Satoshi Takeshita, Toshiyuki Sakata, Koichi Kokame, Rina Kimura, Shigenori Honda, Tomio Kawasaki, Etsuji Suehisa, Hajime Tsuji, Seiji Madoiwa, Yoichi Sakata, Tetsuhito Kojima, Mitsuru Murata, and Yasuo Ikeda.

Prevalence of genetic mutations in protein S, protein C and antithrombin genes in Japanese patients with deep vein thrombosis.

Thromb. Res., **124**, 14-18, (2009).

Koji Mizuno, Hiroshi Wachi, Zenzo Isogai, Masahiko Yoneda, Satoshi Fujii, Ken Watanabe, and Yoshiyuki Seyama.

Proteolytic release of latent transforming growth factor- β (TGF- β) binding protein-1 (LTBP-1) fragment in wound healing.

J. Health Sci., **55**, 468-472, (2009).

Hiroki Satoh, Satoshi Fujii, Hiroyuki Tsutsui.

The high-molecular weight (HMW) form of adiponectin is a significant surrogate marker for the prediction of type 2 diabetes mellitus in Japanese population.

Nutrition, metabolism, and cardiovascular disease (2009 Aug 18. [Epub ahead of print])

(総説・著書・総合論文など)

藤井 聡

薬に強くなる 1 狭心症治療薬

看護技術 メヂカルフレンド社 55: pp82-86 (2009)

藤井 聡

薬に強くなる 2 β 遮断薬

看護技術 メヂカルフレンド社 55: pp185-189 (2009)

藤井 聡

薬に強くなる 3 カルシウム拮抗薬

看護技術 メヂカルフレンド社 55: pp290-294 (2009)

藤井 聡

褥瘡創面に応じた外用薬物療法の製剤学的基盤

厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
創傷皮膚科学の樹立による褥瘡の病態解明と診療体系に関する研究
平成20年度総括研究報告書, pp33-35 (2009)

藤井 聡, 湯浅博昭, 平嶋尚英

大学間交流協定を締結しているシドニー大学健康科学カレッジとの間における交流の拡充
平成20年度 特別研究奨励費研究成果発表会

平成20年度特別研究奨励費研究成果報告書, pp67 (2009)

藤井 聡

心房細動患者におけるダビガトランとワルファリンの比較

日本血栓止血学会誌 20: pp627 (2009)

藤井 聡

平成20年度国際交流報告

名古屋市立大学薬友会誌 58: (2009)

藤井 聡

東海地区地域連携リカレント教育センターの発足について 地域—大学連携による薬剤師リカレント学習支援プログラムが地域医療を変える

名古屋市立大学薬友会誌 58: (2009)

宮田敏行, 岡田浩美, 川崎富夫, 辻 肇, 窓岩清治, 坂田洋一, 小嶋哲人, 村田 満, 池田康夫
日本人の血栓性素因

臨床血液, **50**, 381-388, (2009).

(学会発表)

中村友美, 宮川 隆, 岩城壮一郎, 藤井 聡

HepG2 細胞における PAI-1 産生と酸化ストレス産生に対する TGF- β の影響とそのメカニズムの解析

第 32 回日本血栓止血学会学術集会. 2009 年 6 月 6 日 (北九州国際会議場).

中村友美, 宮川 隆, 岡田浩美, 岩城壮一郎, 藤井 聡

TGF- β は HepG2 細胞で PAI-1 産生と酸化ストレスを増加させる

第 55 回 日本薬学会東海支部総会・大会. 2009 年 7 月 11 日 (愛知学院大).

浅井萌子, 榊原大輔, 岩城壮一郎, 藤井 聡

S1P は低酸素下における HIF-1 α を介した PAI-1 発現を増加させる

第 7 回血液・血栓オルビス. 2009 年 8 月 22, 23 日 (東京ドームホテル).

浅井萌子, 榊原大輔, 岩城壮一郎, 藤井 聡

スフィンゴシン 1-リン酸は低酸素下における HIF-1 α を介した PAI-1 発現を増加させる

第 82 回日本生化学会大会. 2009 年 10 月 23 日 (神戸国際会議場).

藤井 聡、中村友美、岡田浩美、岩城壮一郎、朝倉健文、中山直美

PAI-1 産生と酸化ストレス発現に対する TGF- β の影響とメカニズムの解析

第 13 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会. 2009 年 10 月 24 日 (大宮ソニックシティ).

朝倉健文、岡田浩美、岩城壮一郎、藤井 聡

HepG2 細胞における PAI-1 発現機構の解析：インスリン、cAMP、シロスタゾールの影響

第 19 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 21 年度日本薬学会東海支部例会.
2009 年 11 月 23 日 (四日市市文化会館).

藤井 聡

地域—大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム

平成20年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム ポスターセッション2009年1月13日 (横浜)

Furumoto T, Goto D, Fujii S, Sobel BE, Tsutsui H.

Daidzein, soy phytoestrogen, selectively ameliorates obesity-induced hypertension in mice and humans. 第73回日本循環器学会 2009年3月20日 (大阪). Circ J 2009; 73 (Supple I): 405

Sato H, Ishimori N, Kawashima N, Fujii S, Urasawa K, Tsutsui H.

Decreased glomerular filtration rate is a significant and independent risk for in-hospital mortality in Japanese patients with acute myocardial infarction.

第73回日本循環器学会 2009年3月20日 (大阪). Circ J 2009; 73 (Supple I): 595

藤井 聡, 木村和哲, 飯沼宗和, 土屋照雄, 杉山 正, 賀川義之, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 栗本英治, 林 秀樹, 小野秀樹, 野口博司, 水上 元

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の平成20年度活動報告

日本薬学会 第129年会平成21年3月28日 (京都)

藤井 聡, 木村和哲, 飯沼宗和, 土屋照雄, 杉山 正, 賀川義之, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 栗本英治, 林 秀樹, 小野秀樹, 野口博司, 水上 元

地域—大学連携による薬剤師リカレント学習支援プログラムが地域医療を変える！

日本薬学会 第129年会 ハイライトポスターセッション平成21年3月28日 (京都)

野田康弘, 栗田佳祐, 智谷尊史, 藤井 聡

ポビドンヨードシュガー製剤の先発品と後発品の同等性を評価する試験法の確立

平成21年度日本薬学会東海支部例会. 2009年7月11日 (名古屋); D-11.

Ryu Miyagawa, Tomomi Nakamura, Soichito Iwaki, Satoshi Fujii

INSULIN REGULATES PLASMINOGEN ACTIVATOR INHIBITOR TYPE-1 EXPRESSION IN HEPATOCYTES THROUGH STATIN-SENSITIVE PATHWAY: IMPLICATIONS FOR CLINICAL EFFECTS.

第41回日本動脈硬化学会総会・学術集会2009年7月18日 (下関)

杉浦知範、土肥靖明、木村玄次郎、矢富 裕、藤井 聡

S1Pによる血管内皮機能制御

Cardiovascular Medicine 21 第9回フォーラム 2009年8月1日 (東京)

野田康弘, 藤井 聡

各種ヨウ素製剤のヨウ素の放出性と吸水性

第11回日本褥瘡学会学術集会. 2009年9月5日 (大阪)

新開慈子, 島田友里奈, 中山直美, 前田 徹, 鳶田理佳, 明石恵子, 土肥靖明, 藤井 聡,
木村和哲

外来患者の服薬アドヒアランスを客観的に評価するための試み

平成21年度日本薬学会東海支部例会. 2009年11月23日 (四日市) ; D-2.

Satoshi Fujii.

Sphingosine 1 Phosphate is a bioactive lipid that confers high-density lipoprotein with
vasculoprotection mediated by endothelium-dependent vasodilation. 26th Annual Meeting of
ISHR Japanese Section

2009. 12. 4 (Sapporo)

【医薬品代謝解析学】

(原報)

Nobumichi Ohoka, Shogo Kato, Yu Takahashi, Hidetoshi Hayashi and Ryuichiro Sato.

The orphan nuclear receptor ROR α restrains adipocyte differentiation through a reduction of C/EBP β activity and perilipin gene expression.

Mol. Endocrinol., **23**(6), 759-771, (2009).

Fumihiko Ishikawa, Takashi Akimoto, Haruka Yamamoto, Yuri Araki, Toshihiko Yoshie, Kazunori Mori, Hidetoshi Hayashi, Kiyoshi Nose and Motoko Shibamura.

Gene Expression Profiling Identifies a Role for CHOP During Inhibition of the Mitochondrial Respiratory Chain.

J. Biochem., **146**(1), 123-132 (2009)

Kohsuke Yamazaki, Jin Gohda, Atsuhiko Kanayama, Yusei Miyamoto, Hiroaki Sakurai, Masahiro Yamamoto, Shizuo Akira, Hidetoshi Hayashi, Bing Su and Jun-ichiro Inoue.

Two mechanistically and temporally distinct NF- κ B activation pathways in IL-1 signaling.

Sci. Signal., **2**(93), ra66, (2009)

Yuka Itoh, Noriyuki Hatano, Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki, Keiji Miyazawa and Katsuhiko Muraki.

An environmental sensor, TRPV4 is a novel regulator of intracellular Ca²⁺ in human synoviocytes.

Am. J. Physiol. Cell. Physiol., **297**(5), C1082-1090 (2009).

Noriyuki Hatano, Yuka Itoh and Katsuhiko Muraki.

Cardiac fibroblasts have functional TRPV4 activated by 4 α -phorbol 12,13-didecanoate.

Life Sci., **85**(23-26), 808-814 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」 特集：キックオフシンポジウム「薬工融合が拓くナノメディシン創薬」

News Letter Vol.1 (平成 21 年 2 月) (2009).

組織的な大学院教育改革推進プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」 特集：「薬工融合型ナノメディシン創薬」シンポジウム～ナノ・マイクロ粒子デリバリー～

News Letter Vol.2 (平成 21 年 11 月) (2009).

(学会発表)

林 秀敏, 山中淳平, 山下啓司, 猪股克弘

大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」

平成20年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」

2009年1月13日 (横浜) .

荒川友博, 林 秀敏, 瀧井猛将, 小野崙菊夫

インターロイキン1によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構へのERK1/2経路の関与

日本薬学会第129年会, 2009年3月26日(京都); 26K-am09.

清武千恵子, 高橋祐輔, 伊藤友香, 井上靖道, 小野崙菊夫, 林 秀敏

骨形成因子(BMP)のシグナル分子Smad1のアセチル化の意義

日本薬学会第129年会, 2009年3月26日(京都); 26Q-pm182.

森川裕子, 酒井 聡, 井手佑子, 伊藤友香, 林 秀敏

膵 β 細胞機能に及ぼすTGF β の影響

日本薬学会第129年会, 2009年3月27日(京都); 27P-pm059.

伊藤友香, 波多野紀行, 林 秀敏, 小野崙菊夫, 村木克彦

スフィンゴシルホスホリルコリンによる関節リウマチ滑膜細胞死の制御

日本薬学会第129年会, 2009年3月27日(京都); 27P-pm064.

中田佳宏, 酒井 聡, 大岡伸通, 小野崙菊夫, 林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死におけるpseudokinase TRB3の作用

日本薬学会第129年会, 2009年3月27日(京都); 27P-pm089.

中條里美, 岡本翔佑, 砂原良平, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川 和一, 小野崙菊夫
タバコと関節リウマチに関する研究

日本薬学会第129年会, 2009年3月27日(京都); 27P-pm166.

林 秀敏 【他大学講義】

小胞体ストレスの制御と疾患

山口大学大学院医学系研究科 特別専門講義, 2009年4月9日(宇部).

林 秀敏

「ストレス」と生活習慣病

三公立連携薬剤師障害学習支援講座, 2009年5月14日(名古屋).

井上万由美, 朴 佳栄, 荒川友博, 小野崙菊夫, 斉藤昌之, 林 秀敏

白色・褐色脂肪細胞の分化過程に及ぼすTGF β の効果の相違

第73回日本生化学会中部支部例会, 2009年5月23日(名古屋); 48.

西仲 駿, 森田陽子, 酒井 聡, 小野崙菊夫, 林 秀敏

ストレス誘導性pseudokinase TRB3のT細胞分化に及ぼす影響

第73回日本生化学会中部支部例会, 2009年5月23日(名古屋); 49.

Satoshi Sakai, Hiroyuki Niida, Masatoshi Kitagawa, Kikuo Onozaki, Makoto Nakanishi, Hidetoshi Hayashi

Functional analysis of a pseudokinase, TRB1 in the cell cycle

第68回日本癌学会総会, 2009年10月1日(横浜); P-0288.

高橋 裕, 大岡伸通, 加藤省吾, 林 秀敏, 佐藤隆一郎

脂肪細胞分化過程における核内受容体 ROR α の機能解析

第 30 回日本肥満学会. 2009 年 10 月 9 日 (浜松); P-070.

中田佳宏, 酒井 聡, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の役割

第 82 回日本生化学会大会. 2009 年 10 月 23 日 (神戸); 3P-324 (3T6a-8).

酒井 聡, 大岡伸通, 北川雅敏, 中西 真, 小野寄菊夫, 林 秀敏

ユビキチンリガーゼ APC/C^{Cdh1} による pseudokinase TRB3 の発現制御機構の解明

第 82 回日本生化学会大会. 2009 年 10 月 23 日 (神戸);
3P-324 (3T5p-18).

岡本翔佑, 中條里美, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫

タバコと関節リウマチに関する研究

フォーラム 2009 : 衛生薬学・環境トキシコロジー,
2009 年 11 月 5,6 日 (沖縄); P028.

酒井 聡, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 中西 真, 林 秀敏

G2/M 期でのストレス誘導性 pseudokinase TRB3 の役割

フォーラム 2009 : 衛生薬学・環境トキシコロジー,
2009 年 11 月 5,6 日 (沖縄); P035.

伊藤友香, 波多野紀行, 林 秀敏, 小野寄菊夫, 村木克彦

滑膜細胞における浸透圧センサー TRBV4 のケモカイン産生に及ぼす影響

フォーラム 2009 : 衛生薬学・環境トキシコロジー,
2009 年 11 月 5,6 日 (沖縄); P035.

牛山小百合, 井手佑子, 酒井 聡, 伊藤友香, 大岡伸道, 小野寄菊夫, 林 秀敏

ストレス誘導性タンパク質 TRB3 による TGF- β シグナルの制御

第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム 2009. 2009 年 11 月 14 日 (名古屋);
A16

西仲 駿, 森田陽子, 酒井 聡, 小野寄菊夫, 林 秀敏

ストレス誘導性 pseudokinase TRB3 の T 細胞分化に及ぼす影響

第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム 2009. 2009 年 11 月 14 日 (名古屋);
A19

Shosuke Okamoto, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Kikuo Onozaki

Cigarette smoking and rheumatoid arthritis : Cigarette smoke condensate extracts induce proinflammatory cytokines from synovial cells and exacerbate collagen-induced arthritis in mice

第 39 回日本免疫学会総会. 2009 年 12 月 4 日 (大阪); 3-H-W58-11-P.

新開慈子, 島田友里奈, 中山直美, 前田 徹, 蔦田理佳, 明石恵子, 土肥靖明, 藤井 聡, 木村和哲

外来患者の朋薬アドヒアランスを客観的に評価するための試み—循環器内科を受診した外来高血圧患者 56 名の聞き取り調査を検討して—

平成 21 年度日本薬学会東海支部例会・日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会 合同大

会, 2009年11月23日(四日市); D-2.

井上万由美, 朴佳栄, 荒川友博, 伊藤友香, 小野寄菊夫, 斉藤昌之, 林秀敏

Effects of cytokines on the accumulation of lipid droplets in white and brown adipocytes during their differentiation 白色、褐色脂肪細胞の脂肪滴蓄積に及ぼすサイトカインの影響

第32回日本分子生物学会年会, 2009年12月9日(横浜); 1P-492.

酒井聡, 中田佳宏, 坂井勇斗, 伊藤友香, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林秀敏

Contribution of pseudokinase TRB3 on the ER stress induced cell death 小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の役割

第32回日本分子生物学会年会, 2009年12月10日(横浜); 2P-529.

【中枢神経機能薬理学分野】

(原報)

Mitsuo Tanabe, Yoshinori Nagatani, Kazuya Saitoh, Keiko Takasu, and Hideki Ono
Pharmacological assessments of nitric oxide synthase isoforms and downstream diversity of NO signaling in the maintenance of thermal and mechanical hypersensitivity after peripheral nerve injury in mice.

Neuropharmacology, **56**, 702-708 (2009).

Mitsuo Tanabe, Tomoharu Nakano, Motoko Honda, and Hideki Ono
Glycine transporter blockade ameliorates motor ataxia in a mouse model of spinocerebellar atrophy.

J. Pharmacol. Sci., **109**, 444-448 (2009).

Mitsuo Tanabe, Koto Ono, Motoko Honda, and Hideki Ono
Gabapentin and pregabalin ameliorate mechanical hypersensitivity after spinal cord injury in mice.

Eur. J. Pharmacol., **609**, 65-68 (2009)

Keiko Takasu, Yu Kinoshita, Hideki Ono, and Mitsuo Tanabe
Protein kinase A-dependence of the supraspinally mediated analgesic effects of gabapentin on thermal and mechanical hypersensitivity.

J. Pharmacol. Sci., **110**, 223-226 (2009)

(総説・著書・総合論文など)

小野秀樹 (取組担当者)
文部科学省「戦略的大学連携支援事業」6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携 平成20年度活動報告書
東海臨床薬学教育連携センター (2009)

小野秀樹
2009年版実習に行く前の覚える医薬品集 (分担執筆)
廣川書店 (2009)

田辺光男, 高須景子, 小野秀樹 (総説)
ガバペンチンの上位中枢を介する神経因性疼痛緩解作用
日本薬理学雑誌, **134**, 299-303 (2009).

小野秀樹
薬に強くなる10、抗不安薬
看護技術, **55(11)**, 1185-1189 (2009).

小野秀樹
薬に強くなる11、抗精神病薬
看護技術, **55(13)**, 1471-1475 (2009).

田辺光男

薬に強くなる 12、抗パーキンソン病薬

看護技術, **55(14)**, 1547-1551 (2009).

田辺光男

$\sigma 1$ 受容体と海馬スライスの過分極誘発カチオン電流

生体の科学, **60(5)**, 466-467 (2009).

(学会発表)

小野秀樹, 黒野幸久【パネル展示発表】

6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携

文部科学省大学教育改革プログラム合同フォーラム, 2009年1月12日(東京)

小野秀樹【分科会での発表とパネルディスカッション】

6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携

文部科学省大学教育改革プログラム合同フォーラム 分科会.

2009年1月12日(東京)

兒玉大介, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおける海馬CA1領域でのグリシン取り込みの増加とシナプス長期増強現象への影響

平成20年度生理学研究所研究会「筋・骨格系と内臓の痛み研究会」.

2009年1月23日(岡崎); IV-3.

兒玉大介, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおけるグリシン取り込みの増加と海馬神経可塑性への影響

第82回日本薬理学会年会, 2009年3月16日(横浜); O1G-1-3

友寄織江, 小野秀樹, 田辺光男

成熟マウス脊髄後角興奮性シナプス伝達に対するフルボキサミンの作用

第82回日本薬理学会年会, 2009年3月16日(横浜); P10-P4-3

宮坂絵里, 山本昇平, 小野秀樹, 田辺光男

ラット脊髄後角におけるC-線維誘発性フィールドポテンシャルの長期増強に対する上位中枢を介するgabapentinの抑制作用

第82回日本薬理学会年会, 2009年3月17日(横浜); P20-A1-8

高須景子, 木下 優, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛マウスから作製した青斑核スライスにおけるPKAに依存したギャバペンチンによるGABA性シナプス伝達の抑制と行動薬理へのフィードバック

第82回日本薬理学会年会, 2009年3月17日(横浜); P20-A3-4

木下 優, 山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

抗うつ薬ミルナシプランの神経因性疼痛緩解作用における脊髄下行性モノアミン神経系の関与

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 18 日 (横浜) ;P3O-P5-7

木下 優, 本多基子, 山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

上位中枢を介するフルオキセチンの抗アロディニア作用には脊髄下行性モノアミン神経は関与しない

第 82 回日本薬理学会年会. 2009 年 3 月 18 日 (横浜) ;P3O-P5-8

藤井 聡, 木村和哲, 飯沼宗和, 土屋照雄, 杉山 正, 賀川義之, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 栗本英治, 林 秀樹, 小野秀樹, 野口博司, 水上 元

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の平成 20 年度活動報告

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都) ;28Q-am129

田辺光男

神経因性疼痛治療におけるギャバペンチンの作用機序解明に向けた多面的アプローチ

第 316 回医学研究の基礎を語り合う集い.

シリーズ・神経機能研究の最前線 No. 30

(東京慈恵会医科大学). 2009 年 6 月 2 日 (東京).

田辺光男

グリシントランスポーター阻害薬の神経因性疼痛治療薬としての可能性

塩野義製薬創薬研セミナー. 2009 年 7 月 9 日 (塩野義油日ラボラトリーズ).

小野秀樹【基調講演】

ブラジル産プロポリス水抽出物の神経因性疼痛発症予防作用

第 3 回岐阜薬科大学高次機能性食品 (蜂産品) 研究会. 2009 年 7 月 25 日 (岐阜) ;

田辺光男【シンポジウム】

グリシントランスポーター阻害による神経因性疼痛治療薬開発の可能性

生体機能と創薬シンポジウム 2009. 2009 年 8 月 27 日 (東京).

大波壮一郎, 田辺光男, 篠原俊次, 加藤 晃, 小野秀樹

ラット脊髄後角 C-線維誘発性集合電位の長期増強における電位依存性カルシウムチャンネルの役割

第 30 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム. 2009 年 8 月 28 日 (東京) ;一般-5

田辺光男, 山本優子, 小野秀樹

グリア代謝阻害による海馬興奮性シナプス伝達の調節におけるグリシンの寄与

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 17 日 (名古屋) ;P2-c14.

大波壮一郎, 田辺光男, 篠原俊次, 加藤 晃, 小野秀樹

ラット脊髄後角 C-線維誘発性フィールドポテンシャルの長期増強における電位依存性カルシウムチャンネルの役割

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 18 日 (名古屋) ;P3-d12.

山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

機械侵害刺激後に持続する脊髄運動ニューロン後発射活動の発生には脊髄後角のジヒドロピ

リジン感受性 L 型 Ca^{2+} チャンネルが関与する

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 18 日 (名古屋) ; P3-d13.

兒玉大介, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおける学習機能の低下と海馬における GlyT1 機能亢進との関連について

第 32 回日本神経科学大会. 2009 年 9 月 18 日 (名古屋) ; P3-d16.

小野秀樹, 黒野幸久, 田辺光男

抗インフルエンザウイルス薬リン酸オセルタミビル (タミフル) の有害事象に関する研究 : 異常行動および呼吸抑制について

平成 20 年度名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果発表会.

2009 年 10 月 8 日 (名古屋) ; p30

田辺光男【シンポジウム】

Gabapentin の神経因性疼痛緩解作用と下行性ノルアドレナリン神経

第 37 回薬物活性シンポジウム. 2009 年 10 月 10 日 (仙台) ; S8-1.

田辺光男【シンポジウム】

下行性ノルアドレナリン神経を介するギャバペンチンの神経因性疼痛緩解作用

第 3 回日本緩和医療薬学会年会. 2009 年 10 月 17 日 (横浜) ; S3-3

小野秀樹【シンポジウム】

「6 年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携」のめざすもの

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009 年 11 月 23 日 (四日市) ;

友寄織江, 小野秀樹, 田辺光男

選択的セロトニン再取り込み阻害薬 fluvoxamine の脊髄シナプス伝達レベルにおける疼痛抑制メカニズム

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009 (平成 21 年度日本薬学会東海支部例会) . 2009 年 11 月 23 日 (四日市) ; F-12.

【病院薬剤学分野】

(原報)

Susumu Ohya, Kazunori Kimura, Satomi Niwa, Akitoshi Ohno, Yoshiyuki Kojima, Shoichi Sasaki, Kenjiro Kohri, and Yuji Imaizumi

Malignancy grade-dependent expression of K⁺-channel subtypes in human prostate cancer.

J. Pharmacol Sci., **109**, 148-151 (2009).

Kyoko Yokoi, Tetsuya Ito, Yasuhiro Maeda, Yoko Nakajima, Yukihisa Kurono, Naruji Sugiyama, and Hajime Togari

A case of holocarboxylase synthetase deficiency with insufficient response to prenatal biotin therapy.

Brain Dev., **31**, 775-778 (2009).

Yasuhiro Horita, Takemasa Takii, Taku Chiba, Ryuji Kuroishi, Yasuhiro Maeda, Yukihisa Kurono, Emi Inagaki, Kenji Nishimura, Yoshifumi Yamamoto, Chiyoji Abe, Masami Mori, and Kikuo Onozaki

Synthesis of new sugar derivatives and evaluation of their antibacterial activities against *Mycobacterium tuberculosis*.

Bioorg. Med. Chem. Lett., **19**, 6313-6316 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

木村和哲

【患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス】薬剤師の視点から 泌尿器 勃起不全 (ED) 治療薬

治療, **91**, pp1080 (2009).

木村和哲

【患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス】薬剤師の視点から 泌尿器 医薬品販売専門資格者制度 2009年6月からの心配ごと

治療, **91**, pp1090 (2009).

木村和哲

DI室 Q&A NASH に対するエゼチミブの効果

治療学, **43**, pp1147-1149 (2009).

(学会発表)

木村和哲, 奥村加奈, 堀田祐志, 菊池千草, 前田徹

ラットの慢性腎不全モデルにおける勃起機能と cGMP/NO 系の変動について

第 19 回日本性機能学会西部総会. 2009 年 1 月 24 日 (鳥取).

佐伯憲一, 雀欣鶴, 木村和哲

クロルキノリン類のヒト CYP 分子腫選択的蛍光プローブとしての有用性

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 26 日 (京都); 26P-am195.

服部真由子, 阿部裕子, 奥村加奈, 堀田祐志, 菊池千草, 前田徹, 木村和哲
高血圧症は勃起機能にどのような影響を与えるか

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27M-am07.

中山潤美, 前田康博, 白井直洋, 黒野幸久, 伊藤哲哉, 中島葉子, 戸莉創, 杉山成司
ジカルボキシリックアシルカルニチンのメチルエステル化反応における速度論的検討

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27Q-pm040.

前田徹, 清武千恵子, 吉川一規, 菊池千草, 土肥靖明, 長谷川信策, 木村和哲
ワルファリンとプロトンポンプインヒビターの併用による血液凝固能の長期的変動についての検討

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27Q-pm222.

前田康博, 長尾麻以, 伊藤哲哉, 中島葉子, 黒野幸久, 戸莉創, 杉山成司
肝移植をおこなったメチルマロン酸血症患者におけるアシルカルニチンの挙動

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 27 日 (京都); 27Q-pm249.

藤井聡, 木村和哲, 飯沼宗和, 土屋照雄, 杉山正, 賀川義之, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 栗本英治, 林秀樹, 小野秀樹, 野口博司, 水上元
三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の平成 20 年度活動報告

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28Q-am129.

菊池千草, 前田徹, 木村和哲, 今枝憲郎
糖尿病の薬物治療体験を通じた臨床薬学教育の試み

日本薬学会第 129 年会. 2009 年 3 月 28 日 (京都); 28Z-am12.

堀田祐志, 片岡智哉, 三雲真由美, 服部真由子, 前田康博, 川野誠, 木村和哲
動脈性 ED ラットに対する vardenafil 連続投与の効果—海綿体構造および血行動態から見た検討—

第 19 回日本性機能学会中部総会. 2009 年 7 月 25 日 (奈良); 10.

片岡智哉, 三雲真由美, 服部真由子, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲
加齢性 ED 治療を目指した LOH 症候群モデルラットの確立

第 19 回日本性機能学会中部総会. 2009 年 7 月 25 日 (奈良); 12.

Yasuhiro Maeda, Tetsuya Ito, Hiromi Nakayama, Yoko Nakajima, Yukihisa Kurono, Hajime Togari, and Naruji Sugiyama.

Methylesterification of glutarylcarnitine affecting newborn screening by tandem mass spectrometry.

11th International congress of inborn errors of metabolism.

2009 年 8 月 29 日-9 月 2 日 (San Diego, USA); 539.

Yoko Nakajima, Tetsuya Ito, Sayaka Ichiki, Satoru Kobayashi, Naoki Ando, Yasuhiro Maeda, Yukihisa Kurono, Naruji Sugiyama, and Hajime Togari.

Acylcarnitine analysis using HPLC-MS/MS in pediatric patients with long-term VPA treatment.

11th International congress of inborn errors of metabolism.

2009年8月29日-9月2日 (San Diego, USA); 667

Tetsuya Ito, Takayasu Nomura, Sayaka Ichiki, Yoko Nakajima, Yasuhiro Maeda, Yukihisa Kurono, Naruji Sugiyama, Takazumi Kato, Takashi Hashimoto and Hajime Togari.

Change of methylmalonylcarnitine levels before, during and after the operation of living donor liver transplantation in a patient with methylmalonic acidemia.

11th International congress of inborn errors of metabolism.

2009年8月29日-9月2日 (San Diego, USA); 301.

中島葉子, 前田康博, 大参寛典, 一木沙耶香, 小林悟, 安藤直樹, 伊藤哲哉, 黒野幸久, 杉山成司, 戸苺創

HPLC-MS/MSによるアシルカルニチン定量法を利用したバルプロ酸長期投与患者におけるカルニチン動態の検討

第34回日本医用マススペクトル学会年会. 2009年9月10日 (大阪); P9.

佐藤豪, 前田康博, 伊藤哲哉, 中島葉子, 一木沙耶香, 黒野幸久, 木村和哲, 戸苺創, 杉山成司

タンデムマスによる新生児マススクリーニングに影響を及ぼすピバロイルカルニチン識別法の検討

第34回日本医用マススペクトル学会年会. 2009年9月10-11日 (大阪); P17.

堀田祐志, 片岡智哉, 服部真由子, 前田康博, 木村和哲

vardenafil連続投与による陰茎海綿体のTGF- β 1, VEGF mRNAの発現変動-動脈性EDモデルラットによる検討-

第20回日本性機能学会学術総会. 2009年9月17-19日 (東京); 3.

前田佑果, 丹村貴之, 水野裕之, 小池香代, 山田礼子, 木村和哲

降圧薬に起因したと思われる転倒・転落事故の分析

第19回日本医療薬学会年会. 2009年10月24日 (長崎); P1-039.

那須史穂, 黒田純子, 近藤勝弘, 木村理恵, 木村彩希, 江崎哲夫, 服部隆宏, 首代みどり, 小池香代, 木村和哲

名古屋市立大学病院における注射用抗がん剤説明文書作成の試み

第19回日本医療薬学会年会. 2009年10月24日 (長崎); P1-117.

塩田有史, 黒田純子, 近藤勝弘, 江崎哲夫, 小島基嗣, 柴本翔子, 小池香代, 木村和哲

閉鎖式抗がん剤調製システム「クレーブ[®]オンコロジーシステム」の使用経験から明らかとなった問題点

第19回日本医療薬学会年会. 2009年10月24日 (長崎); P1-359.

丹羽里美, 黒田順子, 那須史穂, 竹内敏明, 江崎哲夫, 小池香代, 木村和哲

薬剤師主導による放射性医薬品の適正使用に関するマニュアル作成

第19回日本医療薬学会年会. 2009年10月24日 (長崎); O6-009.

前田徹, 木村和哲, 飯塚成志, 浅井清文, 明石恵子, 早野順一郎, 鈴木匡

名古屋市立大学における医療人教育を志向した医・薬・看護学部連携早期体験学習への取り組み

第 19 回日本医療薬学会年会. 2009 年 10 月 25 日 (長崎); P2-469.

前田康博, 伊藤哲哉, 大参寛典, 中島葉子, 一木沙耶香, 木村和哲, 黒野幸久, 戸苅創, 杉山成司

C0 から C18 までのアシルカルニチン同時定量法開発と臨床への応用

第 51 回日本先天代謝異常学会. 2009 年 11 月 5-7 日 (東京).

Yuji Hotta, Mayuko Hattori, Kawano Makoto., Tomoya Kataoka, Hori Eisei., Mayumi Mikumo, Risa Ono, Yasuhiro Maeda, and Kazunori Kimura.

Development of collateral circulation and structural maintenance of corpora cavernosum by chronic vardenafil treatment in rats with arteriogenic erectile dysfunction.

12th Congress of the European Society for Sexual Medicine.

2009 年 11 月 16 日 (Lyon, France); PS-01-002 D.

Tomoya Kataoka, Mayumi Mikumo, Risa Ono, Mayuko Hattori, Yuji Hotta, Yasuhiro Maeda, and Kazunori Kimura.

Inhibition of aromatase improves male erectile function in low testosterone model rats.

12th Congress of the European Society for Sexual Medicine.

2009 年 11 月 16-18 日 (Lyon, France); PO-01-003.

木村和哲

教育シンポジウム「優れた薬剤師を輩出するための広域総合教育連携」 実務実習指導・管理システムの運用について

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009 年 11 月 23 日 (四日市).

島田友里奈, 水野裕之, 前田徹, 湯浅博昭, 木村和哲

ネフローゼ症候群と乾癬におけるシクロスポリンマイクロエマルジョン製剤の薬物速度論的パラメータの比較

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009 年 11 月 23 日 (四日市).

新開慈子, 島田友里菜, 中山直美, 前田徹, 鳥田理佳, 明石恵子, 土肥靖明, 藤井聡, 木村和哲

外来患者の服薬アドヒアランスを客観的に評価するための試み -循環器内科を受診した外来高血圧患者 56 名の聞き取り調査を検討して-

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2009.

2009 年 11 月 23 日 (四日市).

水野裕之, 塩田有史, 岩島康仁, 中村敦, 木村和哲

シミュレーション結果から見たテイコプラニンの至摘初回血中濃度測定時期の検討

第 52 回日本感染症学会中日本地方会学術大会. 2009 年 11 月 27 日 (名古屋); 009.

塩田有史, 水野裕之, 岩島康仁, 中村敦, 木村和哲

リネゾリド投与による血小板減少症発現に関するリスク因子の検討

第 52 回日本感染症学会中日本地方会学術大会. 2009 年 11 月 27 日 (名古屋); 011.

木村和哲

特別講演 (IV) 陰茎虚血モデルを用いた動脈性 ED の病態解明

第 60 回名古屋市立大学医学会総会, 2009 年 12 月 6 日 (名古屋).

【臨床薬学教育研究センター】

(原報)

Tsuyoshi Teramoto, Tamihide Matsunaga, Mie Toba, Toshiaki Sunazuka, Satoshi Omura, and Shigeru Ohmori

Role of dexamethasone and oncostatin M on the formation of vacuoles in human fetal liver cells.

Biol. Pharm. Bull., **32**, 209-212 (2009).

Yasuyuki Momose, Tamihide Matsunaga, Kentaro Murai, Takashi Takezawa, and Shigeru Ohmori

Differentiation of monkey embryonic stem cells into hepatocytes and mRNA expression of cytochrome P450 enzymes responsible for drug metabolism: Comparison of embryoid body formation conditions and matrices.

Biol. Pharm. Bull., **32**, 619-626 (2009).

(総説・著書・総合論文など)

松永民秀

期待されるヒト ES 細胞由来肝細胞の創薬研究への応用

ファルマシア, **45**, 181-182 (2009).

(その他の著書)

鈴木 匡

企画・監修 DVD 研修教材

「めざそう患者満足度 N0.1 薬局」株式会社スズケン (2009)

松永民秀

トピックス 「期待される ES 細胞由来肝細胞の創薬研究の応用」

ファルマシア, **45**, 181-182 (2009).

菊池千草

「大学と保険薬局が連携して解決すべき実務実習の問題点」

医薬ジャーナル, **45**, 2509-2512, (2009).

(特許申請)

なし

(学会発表)

菊池千草, 梶栗潤子, 伊藤猛雄, 申 志恵, 木村和哲

Mechanism of enhanced vascular superoxide production and effect of chronic administration of pravastatin in a type 2 diabetes rat model

第 82 回日本薬理学会年会, 2009 年 3 月 28 日 (横浜) ;P3N-P7-5

服部真由子、阿部裕子、奥村加奈、堀田祐志、菊池千草、前田 徹、木村和哲

高血圧症は勃起機能にどのような影響を与えるか

日本薬学会第 129 年会.2009 年 3 月 27 日 (京都); 27M-am07

前田 徹、清武千恵子、吉川一規、菊池千草、土肥靖明、長谷川信策、木村和哲
ワルファリンとプロトンポンプインヒビターの併用による血液凝固能の長期的変動についての検討

日本薬学会第 129 年会.2009 年 3 月 27 日 (京都); 27Q-pm222

菊池千草、前田 徹、木村和哲、今枝憲郎
糖尿病の薬物治療体験を通じた臨床薬学教育の試み

日本薬学会第 129 年会.2009 年 3 月 28 日 (京都); 28Z-am12

菊池千草、今枝憲郎、前田 徹、木村和哲
患者教育のスペシャリスト育成を目指して—薬学生の糖尿病薬物治療体験学習の試み—.
第 52 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009 年 5 月 24 日 (大阪); IV-6-5

鈴木 匡
薬局実務実習担当者全国会議報告と実務実習受入の指針
愛知県薬剤師会認定実務実習指導薬剤師研修会, 2009 年 7 月 5 日 (名古屋)

勝山善彦、水谷光江、坂下真大、松永民秀、大森 栄、増田雄一、大野康成、三田篤義、中澤勇一、浦田浩一、池上俊彦、宮川眞一

ミコフェノール酸モフェチルの TDM が有効であった肝移植の 1 例

日本病院薬剤師会関東ブロック第 39 回学術大会. 2009 年 8 月 30 日 (長野); PO-310.

水谷光江、勝山善彦、丸山順也、鳥羽美恵、百瀬泰行、松永民秀、大森 栄
入院時持参薬チェック時の TDM 対象薬剤の有無確認の有用性

第 19 回日本医療薬学会. 2009 年 10 月 25 日 (長崎); P2-151.

菊池千草、前田 徹、鈴木 匡
スタチンが血糖コントロールに及ぼす影響のメタ分析
第 19 回日本医療薬学会年会. 2009 年 10 月 25 日 (長崎); P2-324

前田 徹、木村和哲、飯塚成志、浅井清文、明石恵子、早野順一郎、鈴木 匡
名古屋市立大学における医療人教育を志向した医・薬・看護学部連携早期体験学習の取り組み

第 19 回日本医療薬学会年会 2009 年 10 月 (長崎市)

鈴木 匡
リカレント学習の一例

日本薬学会生涯学習活動準備会, 2009 年 10 月 29 日 (東京)

松永民秀【依頼講演】

ES 細胞の肝細胞への分化と薬物動態研究への応用

第 24 回日本薬物動態学会年会 フォーラム 2009. 2009 年 11 月 29 日 (京都) ;F-2.

浅井宏樹, 廣瀬君江, 加藤 潤, 菊池千草, 山田和正, 元山真理子, 新田和弘, 白井直子,
川本鈴子, 石田紀子, 椿井信仁, 新美德洋, 奥村算浩

薬局薬剤師と病院薬剤師によるスモールグループディスカッションを通して

第 24 回東海薬剤師学術大会. 2009 年 11 月 29 日 (岐阜)

5 科学研究費等補助金

平成21年度

(代表)					
所属分野名	補職名	氏名	研究種目	研究課題名	金額 (千円)
病態生化学	准教授	服部 光治	特定領域	巨大分泌蛋白質リーリンによる、脳のレイヤー構造形成制御の分子機構	13,700
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	特定領域	分子内反応補助基の協奏的効果による酵素類似触媒の高度機能化	1,900
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	特定領域	X線結晶構造解析による26Sプロテアソーム蛋白質分解酵素複合体の構造及び機能解析	3,000
遺伝情報学	助教	細田 直	特定領域	G蛋白質によって制御される翻訳終結と共役したmRNA動態	2,500
細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	特定領域	トランスポートソームにおけるイオンチャネル局在と関連分子間協働の可視化解析	3,400
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	特定領域	20Sプロテアソーム複合体構築に関与するシャペロン蛋白質の構造及び作用機構解析	3,200
遺伝情報学	教授	星野 真一	新学術領域	mRNA3'末端プロセッシングを標的とした遺伝子発現調節・RNA品質管理機構の解明	19,500
薬化学	准教授	中川 秀彦	新学術領域	活性酸素シグナル解明のためのピンポイントNO類ドナー	2,600
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	若手 (B)	ユビキチンリガーゼSCF Fbs複合体構造解析による糖蛋白質分解品質管理機構解析	1,000
生体防御機能学	助教	伊藤 佐生智	若手 (B)	血液細胞間クロストークに着目した長期透析合併症の予防法の確立	1,100
病態生化学	助教	馬場 敦	若手 (B)	脳形成を司る分泌蛋白質リーリンの、分布と機能部位を制御する分子メカニズム	1,400
分子生物薬学	助教	西塚 誠	若手 (B)	生命維持およびインスリン感受性制御に関与するfad104の機能解析	1,600
薬物動態制御学	准教授	井上 勝央	若手 (B)	破骨細胞における薬酸トランスポーターの同定と輸送機構の解析	1,300
生薬学	准教授	牧野 利明	若手 (B)	漢方薬による副作用発症機序とトランスポーターとの関連	1,100
薬品合成化学	講師	張 功幸	若手 (B)	官能基化トリメチルシリルジアゾメタンを活用する実践的合成反応	2,300
細胞分子薬効解析学	講師	山村 寿男	若手 (B)	血管平滑筋カルシウムマイクロドメインを構成する新規分子群の一分子可視化解析	2,100
精密有機反応学	准教授	梅澤 直樹	若手 (B)	タンパク質の部位特異的蛍光修飾法の開発とその応用	2,100
薬物動態制御学	助教	太田 欣哉	若手 (B)	蛍光性基質を利用した有機カチオントランスポーター類の新規機能評価系の開発	1,700
病態解析学	助教	岩城 壮一郎	若手 (B)	動脈硬化発症の初期病変を効率的に評価可能なバイオマーカーの探索	1,400
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	基盤 (A)	化学進化的合成化学による医薬機能分子の汎用性ある効率的創製	4,300
細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	基盤 (B)	カルシウム活性化カリウムチャネルの新たな分子機能と創薬の新展開	3,600
薬化学	教授	宮田 直樹	基盤 (B)	エピジェネティックに遺伝子発現を制御する医薬品候補化合物の創製	2,400
遺伝情報学	教授	星野 真一	基盤 (B)	eRF3ファミリーG蛋白質によるmRNA品質管理機構の解明	3,900

(代表)					
所属分野名	補職名	氏名	研究種目	研究課題名	金額 (千円)
分子生物薬学	教授	今川 正良	基盤 (B)	脂肪細胞分化のひきがねとして機能する因子群のシグナル伝達連関の機構解明	3,800
薬品合成化学	教授	青山 豊彦	基盤 (C)	芳香環の環拡大反応を鍵反応とする7員環縮合複素環化合物の新規構築法	700
生体防御機能学	准教授	瀧井 猛将	基盤 (C)	結核菌生菌の宿主細胞傷害活性におけるインターロイキン1関連シグナル調節機構の解析	1,100
コロイド高分子物性学	准教授	山中 淳平	基盤 (C)	熱アニーリングによる高品質コロイド結晶材料の作成	1,200
機能分子構造学	准教授	池田 慎一	基盤 (C)	ニッケル触媒による新規溝呂木ーヘック型ドミノ反応の開発	1,100
生体防御機能学	教授	小野崎 菊夫	基盤 (C)	インターロイキン1の作用発現とその制御に関する研究	1,200
分子生物薬学	准教授	長田 茂宏	基盤 (C)	ヒストン関連因子の機能的相互作用の解析および細胞がん化における意義	1,200
中枢神経機能薬理学	教授	小野 秀樹	基盤 (C)	脊髄損傷の電気生理学的機能評価法の確立と薬効評価	900
薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	基盤 (C)	HCT-15細胞型Na ⁺ 依存性グリセロールトランスポーターの同定と輸送機能解明	1,400
中枢神経機能薬理学	准教授	田辺 光男	基盤 (C)	慢性疼痛治療における神経伝達調節レベルの薬効評価に基づいた創薬基盤の創設研究	800
医薬品代謝解析学	教授	林 秀敏	基盤 (C)	メタボリックシンドロームにおけるストレスとサイトカインシグナルのクロストーク	1,500
細胞分子薬効解析学	准教授	大矢 進	基盤 (C)	新規カルシウム活性化カリウムチャネル機能不全体の発現調節と関連疾患での役割	1,400
中枢神経機能薬理学	教授	小野 孝彦	基盤 (C)	慢性腎臓病における全身血管障害と保護薬物の探索	1,700
臨床薬学教育研究センター	教授	松永 民秀	基盤 (C)	ヒト胎児肝細胞におけるCYP3A分子種の発現変動要因の解明	500

平成21年度 厚労科研費

研究種目	所属分野名	研究者	補職名	分担金配 分額 (千円)	課題名
長寿科学総合 研究事業	病態解析学	藤井 聡	教授	1,000	創傷皮膚科学の樹立による褥瘡の病態解明と診療体系に関する研究
(地球規模保健課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業))	生体防御機能学	瀧井 猛将	准教授	480	抗酸菌感染症への国際的学術貢献を目指した基盤研究
食品の安心・安全確保推進研究事業	生薬学	水上 元	教授	1,000	既存添加物の有効性と品質を確保するための規格試験法の開発
政策創薬総合研究事業	生薬学	水上 元	教授	1,000	西洋ハーブ及び新一般用漢方処方構成生薬等の品質確保と評価に関する研究
政策創薬総合研究事業	生体防御機能学	瀧井 猛将	准教授	1,700	細菌性ベクター及び粘膜アジュバントを用いた新興・再興感染症に対する新規予防・治療法の開発
長寿医療研究委託事業	病態解析学	藤井 聡	教授	1,000	高齢者における褥瘡・皮膚障害等に対する効果的予防・治療法開発に関する研究

「その他の研究補助金」

科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発推進プログラム
「シーズ発掘試験」(平成 21 年度)

研究課題名 高度光制御 NO ドナーを基にした生細胞用試薬キットの開発

氏名 中川 秀彦

金額(千円) 2,000

名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 標的誘導型合成による酵素阻害薬の創製(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 1,000

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ

研究課題名 エピジェネティクス制御化合物の創製と応用(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 13,650

市原国際奨学財団研究助成

研究課題名 新規 SIRT 阻害薬の創製と治療薬への応用(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 500

三菱化学研究助成金

研究課題名 R3N⁺に隣接する CH 基と酸素原子間の水素結合(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 1,000

有機合成化学協会大正製薬研究企画賞助成金

研究課題名 標的誘導型合成による特異的酵素阻害剤の創製研究(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 500

上原記念生命科学財団研究奨励金

研究課題名 標的誘導型合成による酵素阻害薬の創製研究(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 2,000

中部電力基礎研究所研究助成金

研究課題名 静電気力を考慮した医薬品の分子設計(代表)

氏名 鈴木 孝禎

金額(千円) 900

独立行政法人 科学技術振興機構 (JST シーズ発掘シリーズ)

研究課題名 強力な酸化反応性を有する強靱な Ru ポルフィリン担持高分子触媒の開発

氏名 樋口 恒彦

金額(千円) 2,000

独立行政法人 科学技術振興機構（JSTシーズ発掘シリーズ）

研究課題名 発蛍光型ヒスタグ標識試薬の開発と応用

氏名 梅澤 直樹

金額（千円） 2,000

株式会社セラバリューズ

研究課題名 シトクロム P450 の活性種構造及び反応特性探求のためのモデル研究

氏名 樋口 恒彦

金額（千円） 2,000

財団法人堀情報科学振興財団

研究課題名 酵素モデルと計算化学を組み合わせた DNase の酵素反応機構解明へのアプローチ

氏名 加藤 信樹

金額（千円） 1,000

JSTシーズ育成研究

研究課題 高品質コロイド単結晶を用いた分光素子および超小型分光光度計の開発

氏名 山中 淳平

金額（千円） 22,518

JSTシーズ発掘研究

研究課題 イオン性不純物への耐性を有するロバストな荷電コロイド結晶系の構築

氏名 豊玉 彰子

金額（千円） 2,000

文部科学省ターゲットタンパク研究プログラム

研究課題 巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構（分担）

1：プロテアソームを舞台とするタンパク間相互作用ネットワークの NMR 解析

2：立体構造を基盤とした分子集合装置によるプロテアソーム複合体構築機構の解析

氏名 加藤 晃一、水島 恒裕

金額（千円） 18,460

（社）日本化学工業協会長期自主研究（LRI）第10期

研究題目 ジェネティクスおよびエピジェネティクス異常を介した細胞がん化機構の
解明

氏名 長田 茂宏

金額（千円） 5,000

名古屋市立大学特別研究奨励費

研究題目 細胞形態変化に着目した新たな脂肪細胞分化制御メカニズムの解明

氏名 西塚 誠

金額（千円） 1,000

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

「イノベーション実用化助成事業：研究開発型ベンチャー技術開発助成事業」

研究題目： がんターゲットング DDS キャリア物質の脳腫瘍への応用

氏名： 尾関 哲也

金額（千円） 489

27回（財）持田記念医学薬学振興財団研究助成金

研究題目： 脳腫瘍をターゲットとしたナノ・マイクロ粒子設計による薬物送達システムの構築

氏名： 尾関 哲也

金額（千円） 2,000

財団法人日本食品化学研究振興財団 平成21年度 研究助成

研究課題名 食品添加物として使用されるフラボノイド配糖体の消化管吸収メカニズムとトランスポーターの役割

氏名 牧野利明

金額（千円） 500

東洋医学研究財団平成21年度研究・調査助成

研究課題名 蒼朮と白朮の漢方医学における薬能の違いに関する研究

氏名 寺坂和祥

金額（千円） 500

喫煙科学財団研究助成

研究科題名 喫煙と関節リウマチに関する研究（代表）

氏名 小野寄 菊夫

金額（千円） 2,000

厚生労働科学研究費助成金・国際医学研究事業

研究科題名 抗酸菌感染症への国際的学術貢献を目指した基盤研究（分担）

氏名 瀧井 猛将

金額（千円） 480

ヒューマンサイエンス振興財団・政策創薬総合研究事業

研究科題名 細菌性ベクター及び粘膜アジュバントを用いた新興・再興感染症に対する新規予防・治療法の開発（分担）

氏名 瀧井 猛将

金額（千円） 1,700

公益信託医用薬物研究奨励富岳基金

研究科題名 抗酸菌症に有用な抗菌物質の探索（代表）

氏名 瀧井 猛将

金額（千円） 2,000

(財) 喫煙科学研究財団

研究課題名 ニコチンによる神経細胞内 Ca^{2+} シグナル調節のイオン機構と神経保護作用
(代表)

氏名 今泉 祐治

金額 (千円) 1, 500

財団法人 武田科学振興財団

研究課題名 カルシウム活性化カリウムチャネルの新規発現調節機構とその創薬への応用
(代表)

氏名 大矢 進

金額 (千円) 3, 000

ソルト・サイエンス研究財団

研究課題名 電位依存性及びカルシウム活性化カリウムチャネルの多様な生理機能と病態的
意義 (代表)

氏名 大矢 進

金額 (千円) 1, 300

持田記念医薬薬学研究振興財団研究助成金

巨大分泌タンパク質リーリンによる、膜タンパク質輸送系を介した神経細胞機能制御 (代表)

氏名 服部 光治

金額 (千円) 2,000

萬有製薬

インスリン刺激によるヒト肝細胞での PAI-1 発現増加におよぼすシンバスタチンの影響 (代
表)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 1,000

アミノアップ化学

高脂肪食負荷マウスの血管炎症におよぼすオリゴノールの効果 (代表)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 590

名古屋市立大学特別研究

薬物治療抵抗性高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する研究—低アドヒアランス患者に
対する教育プログラムの作成と検証—(分担)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 100

名古屋市立大学特別研究奨励費

抗インフルエンザウイルス薬リン酸オセルタミビル(タミフル)の有害事象に関する研究

～ 異常行動および呼吸抑制について ～ (代表)

氏名 小野 秀樹

金額 (千円) 1, 000

愛知腎臓財団研究助成費

研究課題名 維持血液透析患者における透析合併症と血清 ADMA 濃度との関連性 (代表)

氏名 木村 和哲

金学 (千円) 100

平成 21 年度名古屋市立大学特別研究奨励費 (医・薬・看の連携研究の推進) : 新規

研究課題 薬物治療抵抗性高血圧患者の服薬アドヒアランスに関する研究 (分担)

氏名 前田 徹

金額 (千円) 1,000

6 学外との共同研究等

「学外との共同研究等」

共同研究

宮田 直樹、鈴木 孝禎
「新規生理活性化合物の創製研究」
(小野薬品工業株式会社)

宮田 直樹、鈴木 孝禎
「新規HDAC阻害の創製」
(理化学研究所)

山中 淳平
「コロイド結晶の新規光学素子応用に関する研究」
(富士化学株式会社)

加藤 晃一、水島 恒裕
「ヒトIgG1とヒトFcγ受容体IIIaとの結合状態の構造解析」
(協和発酵工業株式会社 バイオフロンティア研究所)

加藤 晃一、栗本 英治
「味覚変調蛋白質の立体構造形成と機能発現に関する研究」
(味の素株式会社ライフサイエンス研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、山口 芳樹、栗本 英治、坂田 絵理
「ユビキチンプロテアソームシステムの構造生物学」
(東京都臨床医学総合研究所、東京大学大学院薬学系研究科)

加藤 晃一、高橋 禮子、山口 芳樹、矢木 宏和
「ウイルスや宿主細胞が発現する糖鎖の迅速解析、糖鎖とタンパク質の三次元構造と相互作用解析」
(中部大学生命健康科学部)

加藤 晃一、山口 芳樹、神谷 由紀子
「NMRを利用した細胞内レクチンの糖鎖認識機構の構造生物学的解析」
(理化学研究所中央研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「自己組織化中空錯体へのタンパク質包接と構造解析」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、栗本 英治
「自己組織化ナノ内面の化学」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹
「NMRを利用した糖タンパク質および糖鎖認識タンパク質の構造生物学的解析」

(国立医薬品食品衛生研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和

「植物細胞を利用して調製した糖タンパク質のN型糖鎖の構造解析」
(Chung-Ang University)

山口 芳樹、栗本 英治

「920MHz 超高磁場NMR装置を用いたタンパク質・複合糖質の構造解析」
(分子科学研究所分子スケールナノサイエンスセンター)

尾関 哲也

「がんターゲットング DDS キャリア物質の脳腫瘍への応用」
(ナノデクス株式会社)

水上 元、牧野利明

「植物色素の配糖化による機能性改善に関する基礎研究」
(三栄源エフエフアイ株式会社)

水上 元、牧野利明

「聚精丸加減方の作用の解析」
(イスクラ産業株式会社)

今泉 祐治、大矢 進

「前立腺肥大症の細胞増殖機構の解明」
(大鵬薬品工業株式会社, 名古屋市立大学大学院医学研究科・腎・泌尿器科学分野)

小野 秀樹、田辺 光男

「神経障害性疼痛治療薬の作用メカニズム検討」
(塩野義製薬株式会社)

鈴木 匡

「薬剤師および薬学生教育研修用教材開発研究」
(株式会社スズケン)

連携研究

中川 秀彦

「抗プリオン活性化化合物に関する研究」
(広島大学大学院医歯薬学総合研究科、武蔵野大学薬学部、東北大学大学院医学系研究科、北海道大学大学院獣医学研究科、明治大学理学部)

中川 秀彦

「光制御型 NO 放出化合物に関する研究」
(東邦大学理学部)

樋口 恒彦

「電場形成分子-色素複合体の Stark 分光学による電場評価」
(橋本 秀樹 教授 大阪市立大学 大学院理学研究科)

樋口 恒彦
「車両等工業製品の合成 DNA による汎用性の高い標識化」
(日産自動車 (株)、オペロンバイオテクノロジー (株))

樋口 恒彦、梅澤 直樹
「 γ -セクレターゼ阻害剤と酵素機能探索分子の開発」
(東京大学大学院薬学研究科)

樋口 恒彦
「シトクロム P450, NO 合成酵素モデル錯体の無機小分子との反応に関する物理化学」
(Rudi van Eldik 教授、エルランゲン大学 (ドイツ))

平嶋 尚英
「バイオサーファクタントの抗アレルギー活性の研究」
(東洋紡績株式会社、産業技術総合研究所)

平嶋 尚英
「電場融合法を用いた巨大リポソームと細胞の融合」
(東京大学大学院工学研究科)

田中 正彦
「小脳発達研究における GABA 作動性神経細胞可視化技術の応用」
(群馬大学大学院医学系研究科)

田中 正彦
「小脳発達における myosin Va の役割の研究」
(名古屋大学環境医学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「耐熱性カビプロテインジスルフィドイソメラーゼの NMR による高次構造解析」
(株式会社豊田中央研究所)

加藤 晃一
「安定同位体利用 NMR 法による複合糖質の構造解析技術の開発」
(理化学研究所ゲノム科学総合研究センター)

加藤 晃一、栗本 英治
「免疫系レセプター分子の NMR 構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理
「マシャド・ジョセフ病原因遺伝子産物 ataxin-3 の高次構造解析」
(The Scripps Research Institute)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「N型硫酸化糖鎖の構造解析」
(愛知県がんセンター分子病態学部)

加藤 晃一、山口 芳樹
「ペプチド：N-グリカナーゼの構造解析」
(大阪大学大学院医学系研究科)

加藤 晃一、栗本 英治
「プレフォルディンとシャペロニンの相互作用解析」
(東京農工大学大学院工学研究科)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子
「タンパク質の細胞内における品質管理・輸送に関わる糖鎖認識タンパク質の構造・機能解析」
(高エネルギー加速器研究機構)

加藤 晃一、高橋 禮子、山口 芳樹、矢木 宏和
「グルクロン酸含有糖鎖の多次元 HPLC マップの開発と応用」
(立命館大学糖鎖工学センター)

加藤 晃一、山口 芳樹、高橋 禮子、神谷 由紀子
「カーゴレセプターの構造と機能に関する研究」
(東京大学新領域創成科学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、神谷 由紀子
「プロテインジスルフィドイソメラーゼの立体構造変化に関する研究」
(慶応大学理工学部、九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子
「カーゴレセプターの分子認識に関する研究」
(University of Basel)

加藤 晃一、栗本 英治、神谷 由紀子
「コラーゲン特異的分子シャペロン Hsp47 および小胞体関連分解に関わる酵素・レクチンの構造・機能解析」
(京都大学再生医科学研究所)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「血液凝固因子欠損症の原因遺伝子産物 MCFD2 の高次構造解析」
(University Medical School, Geneva, University Hospital, Geneva)

加藤 晃一、山口 芳樹
「アミロイドbペプチドとガングリオシド GM1 の相互作用解析」
(国立長寿医療センター研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹

「ペルオキシソーム膜形成因子 pex19p のNMR 解析」
(理化学研究所播磨研究所、京都大学大学院薬学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、高橋 禮子
「オステオポンチンの NMR による動的な高次構造解析」
(北海道大学遺伝子病制御研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理
「パーキンソン病原因遺伝子産物 α -synuclein のNMRによる動的構造解析」
(東京大学大学院薬学系研究科、東京都精神医学総合研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、栗本 英治、坂田 絵理
「ユビキチンリガーゼ HOIL-1 の高次構造解析」
(大阪市立大学大学院医学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、高橋 禮子
「糖鎖ライブラリーを活用した新規マイクロアレーの開発」
(株式会社医学生物学研究所、株式会社グライエンス、藤田保健衛生大学総合医科学研究所)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「カタユウレイボヤの糖鎖プロファイリングおよび糖鎖の機能解析」
(兵庫県立大学理学研究科)

加藤 晃一、矢木 宏和
「質量分析装置を用いたプロテオミクス解析」
(京都学園大学バイオ環境学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「ウミガメの卵黄に含まれる糖鎖の構造解析」
(Johns Hopkins University)

加藤 晃一、山口 芳樹
「RNA アプタマーと IgG の相互作用解析」
(東京大学医科学研究所、千葉工業大学工学部、株式会社リボミック)

加藤 晃一、矢木 宏和
「IgE に結合しているN型糖鎖の構造解析」
(University of Alabama)

加藤 晃一、矢木 宏和
「カイコを利用して発現した糖タンパク質のN型糖鎖の構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所、静岡大学農学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「糖鎖-糖鎖相互作用にかかわるN型糖鎖の構造解析」
(University of Washington)

加藤 晃一、山口 拓実、山口 芳樹、矢木 宏和、神谷 由紀子
「NMRを利用したN型糖鎖の立体構造解析」
(マックス・プランク生物物理化学研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和
「質量分析装置を用いた糖鎖の構造解析」
(Academia Sinica)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子回折によるタンパク質の結晶構造解析」
(独立行政法人 日本原子力研究開発機構)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子小角散乱測定によるタンパク質複合体の構造解析」
(京都大学原子炉研究所)

加藤 晃一、栗本 英治
「ソバアレルゲンタンパク質の高次構造解析」
(国立衛生研究所)

加藤晃一、神谷由紀子
「血液凝固因子欠損症の原因遺伝子産物 ERGIC-53 と MCFD2 の相互作用解析」
(大阪大学大学院工学研究科)

加藤晃一、神谷由紀子
「レクチン型分子シャペロンの分子認識に関する研究」
(北海道大学大学院薬学研究科)

加藤晃一、神谷由紀子
「小胞体関連分解に関わるレクチンの分子認識と機能発現に関する研究」
(University of California, San Francisco, Howard Hughes Medical Institute)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(名古屋市立大学大学院医学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(大阪大学微生物研究所附属遺伝情報実験センター)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(東京大学大学院農学生命科学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(独立行政法人 家畜改良センター)

今川 正良

「脂肪細胞分化の分子機構と糖尿病治療薬の開発」
(日水製薬株式会社)

長田 茂宏

「肝化学発がん腫瘍マーカー陽性細胞における遺伝子発現変化の解析」
(名古屋市立大学大学院医学研究科)

水上 元、牧野利明

「漢方薬の副作用発現因子成分／バイオマーカーの探索と患者側リスク要因に関する基礎研究」
(株式会社ツムラ)

水上 元、寺坂和祥

「E S T情報を用いたムラサキ二次代謝系生合成酵素の単離及び機能解析」
(京大生生存圏研究所、かずさDNA研究所)

小野寄菊夫

「喫煙と関節リウマチに関する研究」
(金沢大学大学院自然科学研究科、キッセイ薬品工業)

瀧井猛将

「加齢におけるBCG接種の有効性に関する研究」
(国立長寿医療センター研究所、日本BCG研究所)

瀧井猛将

「*Mycobacterium avium* 亜種に関する研究」
(名古屋大学医学部附属病院、国立病院機構東名古屋病院、名城大学薬学部、宮崎大学農学部、大阪市立大学医学部、結核予防会結核研究所)

星野 真一

「RNA代謝機構の物理化学的解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「翻訳終結因子とアポトーシス制御に関する研究」
(Thomas Jefferson University)

星野 真一

「ポリ(A)鎖結合蛋白質の多量体形成機構の解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「mRNA分解調節機構の研究」
(理化学研究所)

星野 真一

「ポリ(A)鎖分解酵素の構造生物学的解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「Psi+プリオンの生物学的意義の解明」
(Georgia Tech)

今泉 祐治

「心血管系におけるイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学運動生理学部 Wayne R. Giles 教授)

今泉 祐治

「リアノジン受容体に関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学医学部 Wayne Chen 教授)

今泉 祐治

「リアノジン受容体に関するトランスポートソーム研究」
(京都大学大学院薬学研究科 竹島 浩教授)

今泉 祐治

「血液-脳関門のイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(名古屋市立大学大学院医学研究科 浅井 清文教授)

今泉 祐治

「Na⁺-Ca²⁺交換輸送体に関する分子薬理学的研究」
(福岡大学医学部 岩本 隆宏教授)

服部 光治

「細胞内カルシウム動態を制御する分子機構の研究」
(理化学研究所)

服部 光治

「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンのトラフィックに関する研究」
(東京大学薬学部)

服部 光治

「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンの構造に関する研究」
(大阪大学蛋白質研究所)

服部 光治

「脳の層構造形成に関する研究」
(慶應義塾大学医学部)

服部 光治

「小脳におけるリーリン受容体の発現と、その制御に関する研究」
(名古屋大学医学部)

服部 光治

「リーリンの細胞内情報伝達に関する研究」
(理化学研究所脳総合研究センター)

藤井 聡

「高齢者ハイリスク心疾患患者における新たなバイオマーカーの探索」
(北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡

「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたす NKT 細胞の役割」
(北海道大学遺伝子病制御研究所、北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡

「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたす線溶系の役割」
(アメリカ合衆国バーモント大学心臓血管研究所)

林 秀敏

「性ホルモンと関節リウマチに関する研究」
(北里大学医学部, 北海道大学大学院薬学研究科, 聖マリアンナ医科大学, 愛知学院大学薬学部, キッセイ薬品)

林 秀敏

「ストレスと疾患」
(北海道大学大学院薬学研究科, 山口大学大学院医学研究科, 富山大学, 東京大学大学院農学生命科学研究科, 北海道大学大学院農学生命科学研究科, 国立長寿医療センター研究所)

林 秀敏

「TGF β のシグナル伝達機構の解析」
(癌研究会癌研究所, 筑波大学, 浜松医科大学)

松永民秀

「ヒト胎児肝細胞における CYP3A 分子種の発現変動要因の解明」
(信州大学医学部附属病院)

松永民秀

「ヒト ES 細胞の肝細胞への分化に関する研究」
(信州大学医学部附属病院)

7 新聞報道等

「新聞報道等」

牧野利明

血圧を下げるその他健康食品

健康食品情報誌 あるたな 11号 平成 21年 10月 1日

藤井 聡

お弁当が食べたくなる、その理由 (株) フロムページ

夢ナビ <http://yumenavi.info> 平成 21年

藤井 聡

健康ブームの裏側を考える (株) フロムページ

夢ナビ <http://yumenavi.info> 平成 21年

鈴木 匡

薬剤師の新たな業務「人体モデルで学ぶ」

薬事日報 平成 22年 1月 1日

8 進路および就職状況

平成21年度学部卒業者の進路

進路状況（生命薬科学科）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	0	24	2	1	27
女	0	10	1	0	11
合計	0	34	3	1	38

進路状況（薬学科4年次）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	2	1	1	0	4
女	1	1	0	0	2
合計	3	2	1	0	6

進路状況（製薬学科4年次）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	1	0	2	0	3
女	1	1	0	0	2
合計	2	1	2	0	5

学部卒業者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	1	1	2			2
化学工業	1	1	2			2
田辺三菱製薬株式会社 株式会社A.S.E.	1	1	1			1
卸売・小売業, 飲食店	2		2	1		1
小売業, 飲食店	2		2	1		1
株式会社アマノ みさお薬局	1		1	1		
公務		1	1			1
地方公務		1	1			1
高知県		1	1			1
合計	3	2	5	1		4

平成21年度博士前期課程修了者の進路

進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	26	10	2	2	40
女	28	1	0	0	29
合計	54	11	2	2	69

博士前期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	13	13	26			
化学工業	13	12	25			
武田薬品工業株式会社	1		1			
富山化学工業株式会社	1	1	2			
科研製薬株式会社	1		1			
日本たばこ産業(株)	1		1			
大正製薬(株)	1		1			
アステラス製薬株式会社		2	2			
協和ケミカル(株)	1		1			
(株)エーピーアイコーポレーション	1		1			
(株)テンコーポレーション	1		1			
明治製菓(株)	1		1			
マルホ(株)		1	1			
東和薬品(株)		1	1			
ロート製薬(株)		1	1			
アステラス東海(株)		1	1			
日本メナード化粧品株式会社		1	1			
(株)山田養蜂場		1	1			
日本ケミカルリサーチ(株)		1	1			
(株)ディーエイチシー		1	1			
パレクセル・インターナショナル(株)	1		1			
日医工(株)	1		1			
東洋紡績(株)	1		1			
(株)スズケン		1	1			
その他製薬会社	1		1			
精密機械器具		1	1			
株式会社メニコン		1	1			
卸売・小売業	3	0	3			
小売業	3	0	3			
イオンリテール株式会社	1		1			
東邦薬品(株)	1		1			
株式会社スギヤマ薬品	1		1			
医療、福祉	4	12	16			
医療業	4	12	16			
名古屋市立大学病院		1	1			
津生協病院		1	1			
安城更生病院		1	1			
福井大学付属病院	1		1			
知多厚生病院		1	1			
豊田厚生病院		1	1			
協立総合病院		1	1			

岐阜大学医学部附属病院		1	1		
大垣市民病院	1		1		
豊橋市民病院	1		1		
社会保険中京病院		1	1		
(独)静岡県立病院機構	1	1	2		
横浜市立大学付属病院		1			
藤田保健衛生大学病院		1	1		
その他病院		1	1		
公務	5	2	7		
国家公務	1	2	3		
(独)医薬品医療機器総合機構		2	2		
航空自衛隊	1		1		
地方公務	4		4		
名古屋市	2		2		
愛知県	1		1		
神奈川県	1		1		
その他		1	1		
埼玉医科大学技術員		1			
合計	26	28	54		

平成21年度博士後期課程修了者の進路

進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	6	0	1	0	7
女	4	0	0	0	4
合計	10	0	1	0	11

博士後期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	1	1	2			2
化学工業	1	1	2			2
持田製薬株式会社		1				1
小野薬品株式会社	1					1
卸売・小売業、飲食店	1		1			
小売業、飲食店	1		1			
その他飲食業	1		1			
教育・学習支援業	3	3	6	4		1
高等教育機関	3	3	6	4		1
名古屋市立大学薬学研究科(ホストク)		1		1		
名古屋市立大学薬学研究科特任助教		1		1		
名古屋市立大学薬学研究科助教	1			1		
愛知学院大学助教	1	1		2		
摂南大学薬学部助教	1					1
合計	5	4	9	5	0	3

9 薬学部在籍者名簿

在籍者名簿

[2010年1月1日現在]

薬学研究科長・薬学部長：水上 元（生薬学分野教授兼務）
副 研 究 科 長：小野 秀樹（中枢神経機能薬理学分野教授兼務），
宮田 直樹（薬化学分野教授兼務）

分野名の後の（ ）内は学部学科目名に対応する。

創薬生命科学専攻

医薬化学講座

薬化学分野（薬化学）

教 授：宮田 直樹
准 教 授：中川 秀彦
講 師：鈴木 孝禎
特 任 助 教：津元 裕樹
大学院博士後期課程1年：池田 麻美子，菱川 和宏
大学院博士前期課程2年：家田 直哉，上田 理恵，太田 庸介，浜田 翔平，松尾 和哉
大学院博士前期課程1年：池沼 宏，今井 英里佳，亀田 英里，清家 雄，永野 裕樹
平野 達也，堀之内 妙子
卒業 研 究 生 4 年：井原 将太，粕谷 侑輝，河合 翔太，田中 裕子，松原 拓也
卒業 研 究 生 3 年：會澤 和之，小笠原 大介

精密有機反応学分野（薬品製造化学）

教 授：樋口 恒彦
准 教 授：梅澤 直樹
助 教：加藤 信樹
大学院博士前期課程2年：今村 優希，野々垣 定紀，則武 幸延，松本 庸良
大学院博士前期課程1年：齋藤 俊輔，鈴木 潤，田口 知世，野呂 侑加，浜口 雄
卒業 研 究 生 4 年：北尾 考史，渡辺 二規，松浦 秀敏，松下 直樹
卒業 研 究 生 3 年：串田 優，白川 慶典
研 究 員：小林 由布子

薬品合成化学分野（薬品合成化学）

教 授：青山 豊彦
准 教 授：近藤 和弘
大学院博士後期課程3年：森田 幹雄
大学院博士前期課程2年：近藤 良祐，曾根 良介

大学院博士前期課程 1 年：稲葉 綾子, 櫻井 扶美恵, 鈴木 雄大, 横山 拓也
卒業 研究生 4 年：小笹 弘貴, 梶田 梨恵, 佐野 亜由美, 古川 崇
卒業 研究生 3 年：坂崎 美香, 竹田 英祐

機能分子構造学分野 (物理分析化学)

教 授：小田嶋 和徳
准 教 授：池田 慎一
講 師：白井 直洋
大学院博士後期課程 1 年：鈴木 賀央里
卒業 研究生 4 年：小森 和紀, 水野 友絵, 山田 健司
卒業 研究生 3 年：神野 恭輔

生命分子薬学講座

生体超分子システム解析学分野 (薬品分析化学)

教 授：平嶋 尚英
准 教 授：田中 正彦
助 教：田所 哲
客 員 准 教 授：古野 忠秀 (愛知学院大学)
大学院博士後期課程 2 年：野村 英宏
大学院博士後期課程 1 年：田原 耕平
大学院博士前期課程 2 年：加川 恭子, 永井 弓子, 村田 麻美, 森田 陽介
大学院博士前期課程 1 年：加藤 愛, 末永 智宏, 鈴木 敬昌, 廣瀬 裕之
山之上 潔
卒業 研究生 4 年：大橋 令, 蔭山 幸佑, 石川 万里子, 児玉 卓也, 西本 綾
卒業 研究生 3 年：亀川 沙知, 堀江 侑季
研 究 員：伊納 義和 (愛知学院大学), 河村 文夫

コロイド高分子物性学 (薬品物理化学)

教 授：山中 淳平
講 師：宮田 勇
助 教：豊玉 彰子
特 任 助 教：恩田 佐智子
大学院博士後期課程 2 年：村井 雅子
大学院博士後期課程 1 年：吉澤 幸樹
大学院博士前期課程 1 年：永野 亮太
卒業 研究生 4 年：鈴木 美紗記, 中村 友紀, 成瀬 愛子
菅生 行紘, 谷地 知大
卒業 研究生 3 年：伊藤 昌美, 土本 高嗣, 野村 茉由, 山本 正彰
研 究 員：今井 宏起 (富士化学株式会社),
今井 佐和子 (富士化学株式会社),

堀井 晴奈 (富士化学株式会社)

生命分子構造学分野 (薬品製造工学)

特任教授 授：加藤 晃一
准教授 授：水島 恒裕
助教 教：矢木 宏和
特任助教 教：金 相佑
客員教授 授：山口 芳樹
大学院博士後期課程3年：矢木 真穂 (日本学術振興会特別研究員)
大学院博士後期課程1年：高木 賢治
大学院博士前期課程2年：武本 映美, 西尾 美穂, 良川 須美
大学院博士前期課程1年：平野 貴志, 文庫 有志
卒業研究生 4年：宇野 剛, 中川 由貴, 山本 さよこ, 雲井健太郎,
大道 好恵
卒業研究生 3年：大川 慶輔, 鳥田 泰
研究員 員：栗本 英治 (名城大学),
オリビエ・セルブ, 神谷 由紀子, 山口 拓実
(岡崎統合バイオサイエンスセンター),
坂田 絵理 (東京都臨床医学総合研究所),
尾崎 陽子, 近藤 幸子, 竹内 英明, 矢部 宇一郎
(グライエンス),
千田 紀代美, 服部 久美子, 平松 佳永

分子生物薬学分野 (微生物薬品学)

教授 授：今川 正良
准教授 授：長田 茂宏
講師 師：西塚 誠
特任助教 教：鈴木 英子
大学院博士後期課程3年：大野 雅恵, 河路 淳子, 橋爪 博司, 林 孝弘
大学院博士後期課程1年：岸本 圭史
大学院博士前期課程2年：大橋 健吾, 種村 妃紗, 藤田 真由, 前田 雄太, 吉見 千明
大学院博士前期課程1年：浅野 真美, 伊佐 憲吾, 大仲 優希, 加藤愛友美, 小松 浩大,
早川 智章, 水谷 優子
卒業研究生 4年：有江 瑞洋, 落合なつき, 中山 裕介, 野木森雅人, 山田博久
卒業研究生 3年：加藤 大輝, 松本 美保

薬物送達学分野

特任講師 授：尾関 哲也
卒業研究生 4年：伊藤 遼平, 照喜名 孝之, 西尾 碧
卒業研究生 3年：伊藤 竜也, 水迫 英己

構造薬学分野（放射薬品学）

助 教：黒田 良孝

医療機能薬学専攻

医療分子機能薬学講座

生薬学分野（生薬学）

教授：水上 元
准 教 授：牧野 利明
助 教：寺坂 和祥
客 員 教 授：小野 孝彦（島田市民病院）
大学院博士後期課程3年：林 克弘，横井 寛，小谷 仁司，鈴木 裕可，河野 桂子
大学院博士後期課程1年：永利 麻衣，白 帆
大学院博士前期課程2年：猪飼 真由美，上林 理絵，大脇 美紀，金丸 美咲，
中山 祥子
大学院博士前期課程1年：岡島 恭子，岡本 隼己，鍵岡 明奈，染原 渉，服部 広，
林 芳恵，原 直樹，水谷 優希
卒業 研 究 生 4 年：鬼頭 宏和，酒井 玲，島戸 陽太，吉田 貴光
卒業 研 究 生 3 年：浅田 圭祐，春日谷友英
研 究 員：政田 さやか，井上 誠，永津 明人，大野 高政，田邊 宏樹，
安井 敏洋，加藤 哲夫，山下 弘高，呉 春珍，張 栄勁，
沈 世林

生体防御機能学分野（衛生化学）

教授：小野 寄 菊夫
准 教 授：瀧井 猛将
助 教：伊藤 佐生智
大学院博士後期課程3年：荒川 友博
大学院博士後期課程2年：堀田 康弘
大学院博士前期課程2年：岡本 翔佑，黒石 隆司，安田 恵実
大学院博士前期課程1年：秋田 邦彦，山本 龍二
卒業 研 究 生 4 年：須田 早紀，谷口 恵一，山岡 奈津子，山田 恭平，
横山 領介，李 祐司
卒業 研 究 生 3 年：足達 実季，長谷川 倫宏

遺伝情報学分野（生物薬品化学）

教授：星野 真一
准 教 授：藤井 陽一
助 教：細田 直
大学院博士前期課程2年：岡本 淳志，尾上 耕一，熊谷 直道，山岸 良多

大学院博士前期課程1年：齊藤 修平，橋本 芳史，堀川 桂，和賀 陽祐
卒業研究生4年：北川 聖巳，白旗 恵美，成瀬 貴文，市川 史，前畑 高明，
村上 仁志
卒業研究生3年：？
研究員：山本 肇

細胞分子薬効解析学分野（薬品作用学）

教授：今泉 祐治
准教授：大矢 進
講師：山村 寿男
客員教授：村木 克彦（愛知学院大学）
大学院博士後期課程3年：船橋 賢司，村田 秀道
大学院博士後期課程2年：丹羽 里実
大学院博士前期課程2年：鈴木 良明，仲村 恵梨奈，藤井 将人，村松 真
大学院博士前期課程1年：石井 秀明，大城 隼也，鬼頭 宏彰，澤田 英士，
竹本 将士，村本 孝博
卒業研究生4年：伊藤 洋平，福与 由香，堀場 さゆり，丸山 史登
卒業研究生3年：清田 恵子，高橋 瀬奈
研究員：波多野 紀行（愛知学院大学）

病態生化学分野

教授：服部 光治
助教：馬場 敦
大学院博士後期課程3年：河野 孝夫
大学院博士前期課程2年：高柳 麻衣，阪野 英幸
大学院博士前期課程1年：鈴木 健太，中川 裕介，五味 宏樹，深見 瑛
卒業研究生4年：田頭 大志，木谷 友次朗，杉江 真梨子，水谷 健二，
土屋 綾香，佐々木 一友
卒業研究生3年：鄧 夢妍，中村 晃太

医療薬学講座

薬物動態制御学分野（薬剤学）

教授：湯浅 博昭
准教授：井上 勝央
助教：太田 欣哉
大学院博士後期課程1年：片野 貴大，畠山 舞，保嶋 智也
大学院博士前期課程2年：石井 めぐみ，原田 哲彦，藤村 美咲，前田 純彌，
村田 友昭，吉田 行宏
大学院博士前期課程1年：浅井 敬子，池治 宣晃，岩田 健嗣，大井 舞，島田 友里奈，
深津 累，堀田 依里，宮本 明希

卒業研究生 4年：大久保 雅彦，西嶋 千尋，林 里佳，江藤 友哉，岸 英弘，
小林 宏将
卒業研究生 3年：竹原 一成，古川 純士
研 究 員：石黒 雅江（早蕨会福祉村病院），石丸 宗徳（愛知学院大学），
井上 健（海南病院），川出 義浩（名古屋第二赤十字病院），
佐野 直也（名古屋市），鈴木 成樹（マルコ製薬株式会社）

病態解析学分野（製剤学）

教 授：藤井 聡
准 教 授：樫本 紀夫
助 教：岩城 壮一郎
特 任 助 教：岡田 浩美
客 員 准 教 授：野田 康弘（金城学院大学）
大学院博士前期課程2年：浅井 萌子，今井 啓太，中島 孝宏，中村 友美
大学院博士前期課程1年：朝倉 健文，伊東 佐恵子，伊藤 史織，小池 慶子，
榊原 大輔，中山 直美，松井 恵利華，森 智恵子
卒業研究生 4年：栗田 佳祐，智谷 尊史，
近藤 理恵，山村 周平，湯田 雄一郎
卒業研究生 3年：大垣 恵理華，乗本 裕明

医薬品代謝解析学分野（薬品代謝）

教 授：林 秀敏
助 教：伊藤 友香
特 任 助 教：酒井 聡
大学院博士前期課程2年：坂井 勇斗，新開 慈子，中平 桂子，西仲 駿
大学院博士前期課程1年：石戸谷 その，岩井 俊樹，牛山 小百合，小島 和香，
藤井 俊樹，松平 都和
卒業研究生 4年：加藤 直樹，福重 香，楽 怡，岡山 敦子，杉山 和弥，
森本 真宗
卒業研究生 3年：石井 陽子，近藤 弘一
研 究 生：王 曉慧，
研 究 員：吉田 康子（名古屋大学），中田 佳宏（春日井市立病院）

中枢神経機能薬理学分野（薬物治療学）

教 授：小野 秀樹
准 教 授：田辺 光男
助 教：山本 昇平
大学院博士後期課程2年：大波 壮一郎
大学院博士後期課程1年：友寄 織江
大学院博士前期課程2年：阿部 聡美，杉山 慎一，永野 裕子，日比野 志保，
松並 範晃，宮崎 鉄也

大学院博士前期課程1年：岡本 賢，鈴木 詩織，藤井 由希，松井 千夏，宮辺 裕輔，
矢野 裕恭，山田 彩
卒業研究生 4年：岩嶋 優依，竹渕 直希，藤澤 佳史，大竹 沙紀，倉岡 聖哉，
柵木 悠
卒業研究生 3年：小林 千晃，鈴木 悠馬

病院薬学分野

教 授：木村 和哲
教 授：黒野 幸久
講 師：前田 康博
助 教：内藤 敏子
大学院博士後期課程1年：堀田 祐志
大学院博士前期課程2年：大参 寛典，服部 真由子
大学院博士前期課程1年：片岡 智哉，大野 梨紗，三雲 真由美
卒業研究生 4年：縣 優介，石田 曜子，高畑 裕，南條 晶子，鈴木 健史，
佐藤 豪
卒業研究生 3年：那須 徹也

臨床薬学教育研究センター

教 授：松永 民秀，鈴木 匡
講 師：前田 徹，菊池 千草
大学院博士前期課程1年：堀 英生，佐藤 大介
卒業研究生 4年：牛田 英里，加藤 真梨，林 弥穂，張本 伸彦

東海臨床薬学教育連携センター

教 授：黒野 幸久（病院薬学分野教授兼務）
特 任 薬 剤 師：高岸 美保子，菅谷 真紀
事 務 補 佐 員：尾原 すみ子

施設・事務・図書

総合機器分析施設
衛 生 技 師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事 務 長：竹本 浩一
学 務 係 長：黒野 正裕
主 事：高橋 完治，内木 篤，山田 治夫
業 務 士：山田 俊也
事 務 系 職 員：中山 裕子，佐藤 比早子，粕原 知江子

再雇用職員：大脇 伸好

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分館 長：青山 豊彦（薬品合成化学分野教授兼務）
司 書：政谷 浩子，岩佐 多実子

教職員の異動（2009年1月1日～2009年12月31日）

教員

退職：張 功幸 講師（大阪大学大学院薬学研究科（特任准教授）へ，2009年1月16日）
：米勢 政勝 教授（2009年3月31日）
：畑野 研一郎 准教授（2009年3月31日）
：栗本 英治 講師（2009年3月31日）

採用：伊藤 佐生智 助教（2009年1月1日）
：鈴木 匡 教授（2009年2月1日）
：松永 民秀 教授（2009年4月1日）
：豊玉 彰子 助教（2009年4月1日）
：恩田 佐智子 特任助教（新規，2009年4月1日）
：岡田 浩美 特任助教（2009年4月1日）
：小野 孝彦 客員教授（2009年4月14日）
：尾関 哲也 教授（2009年6月1日）
：矢木 宏和 助教（2009年6月1日）
：酒井 聡 特任助教（2009年6月1日）
：伊藤 友香 助教（愛知学院大学薬学部より，2009年8月1日）
：辰巳 泰我（2009年9月1日）
：鈴木 英子 特任助教（新規，2009年10月1日）

昇進：服部 光治 教授（准教授より，2009年4月1日）
：山中 淳平 教授（准教授より，2009年4月1日）
：鈴木 孝禎 講師（助教より，2009年4月1日）
：西塚 誠 講師（助教より，2009年4月1日）
：山村 寿男 講師（助教より，2009年4月1日）

職員

採用：薬学部事務室 榎原 知江子 プロジェクト推進員（2009年3月1日）

異動：田辺通分館 今村 久恵 司書（山の畑分館へ，2009年4月1日）
：薬学部事務室 関山 友康 事務長（学生課へ，2009年4月1日）
：田辺通分館 政谷 浩子 司書（山の畑分館から，2009年4月1日）
：薬学部事務室 竹本 浩一 事務長（名古屋市から，2009年4月1日）